

科目名	教職入門A		
担当教員名	塚田 昭一、松岡 敬明、日出間 均		
ナンバリング	KBa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

「教職入門」は、教育職員免許法に定められた教職科目(「教職の意義等に関する科目」)で、教育職員免許状を取得(大学で教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける)ための入口にあたる教科です。講義・演習の内容は「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容(研修、服務、及び身分保障等を含む)」「進路選択に資する各種の機会の提供」などです。

科目の概要

受講対象は、小学校教員を目指す1年生(児童教育学科)です。前期に、最初の教職科目として、体験や事前の予習を元に、『教師の仕事とは何か』ということをさまざまな角度から学修します。

この科目を履修した後に、教育の原理や原則に関する科目(教育学概論)、教育の社会的事項に関する科目(学校関係法規)、教育の心理に関する科目(教育心理学)を学修します。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

具体的な内容は、国家存立の基盤としての教育を支え、発展させる教員への期待や、教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、問題解決討議法、事例研究法(インシデント・プロセス法)などを援用し、その成果をもとに新たな課題を追究できるようになることをねらいとしています。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

講義を中心に、グループディスカッション等を通じて、以下の学びを深める。

教職の意義、教員の役割、職務内容、研修、服務等についての学修を通じ、自らの教師像を描く。 自らの能力・適性について省察し、教職課程の履修を確実に進めるための方途を明らかにする。つ。

1	オリエンテーション(教職の使命とは)	松岡・日出間
2	学校の日・学校の一年	松岡
3	専門職としての教員と人権教育の推進	松岡
4	基本的な教育法規	松岡
5	教育公務員の服務	松岡

6	教育公務員の研修	松岡
7	学習指導要領について	松岡
8	教育課程の編成と実施	日出間
9	チームとしての学校の在り方	日出間
10	教材研究と授業づくり	日出間
11	健康・安全指導について	日出間
12	生徒指導について	日出間
13	学級経営について	日出間
14	保護者・地域住民との連携	日出間
15	まとめ	松岡

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に課題を提示します。教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を整理し、これをもって授業に臨むこと。(各授業に対して30分)

【事後学修】修得した知識や問題解決技法等で得た知見を記録するとともに、授業で取上げた関連事項や説明を参考にし、課題についてさらに考究し、レポートにまとめる。(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度と毎時間提出する小レポート(60点)、最終試験(40点)として、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用(紹介)していく。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『小学校学習指導要領』(平成29年3月告示)、『小学校学習指導要領解説「総則編」』(平成29年6月文部科学省刊)、

【参考図書】授業時に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育学概論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa202		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

児童教育学科ディプロマポリシーの1及び2に該当する講義です。

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生前期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

アクティブラーニングとして、授業中の省察活動、討論、リアクションペーパー、その授業への反映を図ります。

第1回：「教育とは何か (第1章)」

第2回：「学校とは何か (1) (第2章)」

第3回：「学校とは何か (2) (第3章)」

第4回：「こころとからだを育てる (第4章)」

第5回：「よりよく学び、教えるために (第5章)」

第6回：「教育評価とは何か (第6章)」

第7回：「授業の可能性・学校の可能性 (第7章)」

第8回：「教師の仕事 (第8章)」

第9回：「青年期と教育 (第9章)」

第10回：「社会教育と生涯学習 (第10章)」

第11回：「教育への権利と『子どもの権利条約』 (第11章)」

第12回：「よりよい教育を求めて（第12章）」

第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」（イギリス産業革命期の少年労働）

第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」（斎藤喜博と島小の学校づくり）

第15回：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを読み、“教育とは何か”という課題を追究し、疑問点をメモして講義に持参します（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を省察し、あらためてテキストを読み、“教育とは何か”という課題に自らの考えをまとめます（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

講義で毎回書いてもらう学修票（80点）とその内容（20点）を総合し、60点以上を合格点として単位認定します。

【フィードバック】学修票の内容を次回の授業時に紹介し、コメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（第3版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育心理学 A		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KBa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

児童教育学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。また教員免許取得教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

小学校教諭課程の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

- 1 . 教育心理学と学校教育
- 2 . 学習の動機づけ (1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
- 3 . 学習の動機づけ (2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 4 . 学習の基礎理論
- 5 . 教授学習における学習理論
- 6 . 協同学習の理論と実践
- 7 . 学級の心理学
- 8 . 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
- 9 . 教育評価

10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

この授業は講義を基本に、グループワークやディスカッションを展開することで、学校での諸活動を心理学的視点から理解する学びを深めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前課題について教科書を読んで解答を提出する。

同時に不明点・疑問点についても提出する。

【事後学修】授業内で使用/記入したプリントからノートにまとめ直すこと。

必要に応じて質問や再説明必要箇所を提出すること。

評価方法および評価の基準

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業内課題については翌週にコメントや採点したものを返却する。

WEB利用によるリアクションペーパーを実施し、記載内容に対しては授業内で全体に対してコメントをフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】永江誠司（編著） キーワード教育心理学 北大路書房

【推薦図書】 森敏昭ら（編） 教育心理学キーワード 有斐閣

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	学校制度論 A		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBa201		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 3 に該当する。本科目は教員免許状取得のための必修科目であり、「教職に関する科目」の中の「教育の基礎理論に関する科目」として位置づけられている。内容として教育に関する社会的、制度的または経営的事項を含む。

科目の概要

教育制度の基本原理、教育行政制度の歴史的変遷についての理解を深め、教育基本法改正の意義について考える。さらに新教育基本法ならびに主要な教育関連法規に関わる諸問題について、具体的判例に基づいて学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・我が国及び諸外国の教育制度の在り方について理解する
- ・我が国の教育行政制度の成立過程ならびに現行制度について理解する
- ・学校教育制度・教育行政制度に関わる法規の概要とその運用について理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

講義を中心として、グループワークを取り入れて進める。

1	教育制度とは何か
2	教育制度と学校体系

3	我が国の学校制度
4	諸外国の学校制度
5	憲法・教育基本法と戦後教育の基本原理
6	教育行政制度（中央教育行政組織と地方教育行政組織）
7	学校制度と児童生徒（1）就学・初等中等教育
8	学校制度と児童生徒（2）懲戒・学校事故
9	学校制度と教員・校長（1）職務・任用
10	学校制度と教員・校長（2）服務・懲戒
11	学校制度と教員・校長（3）研修・その他
12	学校制度と教育課程（学習指導要領・教科書）
13	学校評価の意義と課題
14	教育制度をめぐる今日的課題
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの授業予定単元の予習（60分）

【事後学修】新聞記事の中から教育にかかわるものを探し考察（60分）

評価方法および評価の基準

1 授業ごとの課題提出（30%） 2 最終試験の達成度（70%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「自ら学び考える教職教養 教育課程・方法・制度・法規」（松田・星野・狩野・津吹）

学文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBa205		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度転換して10年、また、共生社会の形成に向けて、地域の通常の学級における、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応を含め、教師への期待が益々大きなものとなっています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄「特別支援教育の基礎理論に関する科目」に該当します。

科目の概要

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。講義は、3名の教員が担当し、オムニバス形式で実施します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・特別支援教育の基礎を理解する。
- ・特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解する。
- ・関係機関との連携について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	特別支援教育とは（中西）
2	障害児教育の歴史と発展（中西）
3	特別支援教育体制の現状とインクルーシブ教育システムの構築（中西）
4	特別支援教育における教育課程の編成（中西）
5	障害に関わる生理・病理の基礎（1）（高岩）
6	障害の理解と教育的支援（1） 視覚障害・聴覚・言語障害（中西）
7	障害の理解と教育的支援（2） 知的障害（中西）

8	障害の理解と教育的支援（3） 肢体不自由・病虚弱（中西）
9	障害に関わる生理・病理の基礎（2） （高岩）
10	障害の理解と教育的支援（4） 学習障害（LD）（齋藤）
11	障害の理解と教育的支援（5） 注意欠陥／多動性障害（AD/HD）（齋藤）
12	障害の理解と教育的支援（6） 情緒障害・自閉スペクトラム症（ASD）（齋藤）
13	特別支援教育の展開：小・中学校における校内支援体制と連携システム（齋藤）
14	特別支援教育における関係機関との連携（1） 保育所・幼稚園・中学校との連携（齋藤）
15	特別支援教育における関係機関との連携（2） 保健・福祉・医療機関との連携（齋藤）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

評価方法および評価の基準

試験による評価（70％）中間レポートによる評価（20％）平常の参加態度の評価（10％）で総合的に評価し、60％以上を合格とします。

【フィードバック】授業の中で試験の振り返りを行うとともに、レポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

【参考図書】 「特別支援学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

【その他】 必要に応じて随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	知的障害教育概論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBa208		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

特別支援学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に知的障害特別支援学校で指導を行ってきた経験を活かして、知的障害特別支援学校教育の実際等について講義を中心に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の「特別支援教育領域に関する科目」に該当する。知的障害のある児童の障害特性や知的障害教育の基礎的・基本的な知識を学修する。

科目の概要

知的障害の定義、原因及び障害特性や特性に応じた指導方法等を学ぶとともに、教育の目標・内容、方法、個々の児童生徒に応じた指導・支援の在り方等について学修する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義による解説を中心として、知的障害教育の各教科等の指導計画の作成・発表等の演習も取り入れて授業を行う。

到達目標

1. 知的障害の定義・原因、障害特性等について理解し、知的障害のある児童の学習上の基本的な特性を説明できる。
2. 教科・領域別の指導、各教科等を合わせた指導の意義を理解し、指導計画を作成することができる。
3. 知的障害のある児童への指導・支援方法を身に付けるとともに、児童の関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 教材研究、学習指導案作成 -4 子ども理解 -3 主体的・継続的学修

内容

1	知的障害の定義と原因、教育の場
2	小・中学校における知的障害教育、特別支援学級における指導
3	知的障害教育の教育課程
4	知的障害教育の教科「国語」の指導
5	知的障害教育の教科「国語」の指導計画の作成
6	知的障害教育の教科「算数」の指導
7	知的障害教育の教科「算数」の指導計画の作成

8	知的障害教育の教科「体育」の指導
9	知的障害教育の教科「体育」の指導計画の作成
10	知的障害教育の「各教科等を合わせた指導」の指導
11	知的障害教育の「日常生活の指導」の指導計画の作成
12	知的障害教育の「遊びの指導」の指導計画の作成
13	知的障害教育の「生活単元学習」の指導計画の作成
14	知的障害教育の「作業学習」の指導
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組む。（各授業に対して90分）

評価方法および評価の基準

各授業で指示する課題（レポート等）への取り組み（30%）と試験（70%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10%/30%） 筆記試験（40%/70%）

到達目標2 課題提出（10%/30%） 筆記試験（15%/70%）

到達目標3 課題提出（10%/30%） 筆記試験（15%/70%）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業時間内に返却する。筆記試験は返却の上、解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 ・「初めて学ぶ知的障害児の理解と指導」中西 郁 他 著 大学図書出版

・「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)」平成30年3月 文部科学省

・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)」平成30年3月 文部科学省

【推薦図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	肢体不自由教育概論		
担当教員名	佐藤 正一		
ナンバリング	KBa307		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教職の基礎理念に関する科目」の選択科目である。また、特別支援学校教諭免許状を取得するための科目になっている。

科目の概要

肢体不自由教育の定義及びどのような形で今日に至ったか、障害特性や行動の特徴を学習し、肢体不自由教育の目標、内容、方法を一人一人の幼児児童生徒に応じた指導及び支援の在り方等について基礎的な学習をする。また、今日的課題も含めて、主要な教育課題について考察する。

授業の方法 (ALを含む)

講義を基本に、グループワーク、ディスカッション等を取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1 肢体不自由児の特性を踏まえて、自ら主体的に教材研究を行うとともに学習指導案を作成することができる。
- 2 肢体不自由児の気持ちを真摯に受け止め、健康状態や性格、成育歴等を理解し、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。
- 3 肢体不自由教育及びその理論を理解し、自己の課題を見つけ、その解決に向けて、常に学び続けようとする姿勢を持っている。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 4 子ども理解
- 3 主体的・継続的学修

内容

1	オリエンテーション (肢体不自由教育について) 【リアクションペーパー】
2	肢体不自由教育の教育-歴史- 【リアクションペーパー】
3	肢体不自由児の学びの場 【討議・討論】 【リアクションペーパー】
4	肢体不自由児の生理・病理・心理 【リアクションペーパー】

5	肢体不自由教育の教育課程【リアクションペーパー】
6	肢体不自由教育の実際1（各教科の指導）【リアクションペーパー】
7	肢体不自由教育の実際2（自立活動の指導）【レポート】【討議・討論】【リアクションペーパー】
8	肢体不自由児教育の実際3（自立活動：身体の動き）【リアクションペーパー】
9	肢体不自由児教育の実際4（自立活動：コミュニケーション）【リアクションペーパー】
10	肢体不自由児教育の実際5（自立活動：重度重複児の指導）【リアクションペーパー】
11	肢体不自由児の個別の指導計画と個別の教育支援計画【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	授業づくりの基本（学習指導案）【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	肢体不自由児のキャリア教育【リアクションペーパー】
14	まとめ
15	今日的課題【討議・討論】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前の授業で、キーワードを示すので、それを調べておくこと。また授業の内容に関して、参考図書等、関連する文献を読んで、疑問点を整理しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学習】授業で配布された資料を参考に、毎回出題する課題について整理し、理解をすること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（40%）と筆記試験（60%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10% 40%） 筆記試験（20% 60%）

到達目標2 課題提出（15% 40%） 筆記試験（20% 60%）

到達目標3 課題提出（15% 40%） 筆記試験（20% 60%）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週以降の時間内に返却する。筆記試験は返却の上、解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。授業時に資料を配付する。

【参考図書】改訂版「肢体不自由児の教育」川間健之介、西川公司 放送大学教育振興会

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部、小学部、中学部）」

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部、小学部、中学部）」

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	病弱教育概論		
担当教員名	細谷 忠司		
ナンバリング	KBa308		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元特別支援学校教員が実務経験を基に学校場面で活用できる指導方法について講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教職の基礎理論に関する科目」である。本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の「特別支援教育領域に関する科目」に該当する。

科目の概要

初めに、病気の子供たちの概要について学ぶ。その後、病弱教育の始まりから現在に至る歴史を概観する。次に、病弱教育の対象とされる子どもの実態や関係機関との連携などについて学んでいく。

授業の方法

講義を基本にししながら、各時間において、授業内容に関する内容について、意見交換や討論を行う。

【グループワーク】 【実技】 【ディスカッション】

到達目標

1. 病弱教育の対象とされる子どもや、その教育の場（特別支援学校等）に関する現状を理解する。
2. 病弱児の実態と病弱教育における配慮事項についてまとめることができる。
3. 病弱教育の意義と学校における取り組みの課題、病弱教育に携わる教師の役割等について理解し、指導方法について協議することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することとする。

- 4 教材研究・学習指導案作成、 -4 子ども理解、 -3 主体的・継続的学修

内容

1	病弱・身体虚弱の子ども (1)
2	病弱・身体虚弱の子ども (2)
3	病弱・身体虚弱の子ども (3)
4	病弱・身体虚弱の子ども (4)
5	病弱教育の歴史 (1)
6	病弱教育の歴史 (2)
7	病弱教育における配慮事項 (1)
8	病弱教育における配慮事項 (2)

9	病院等、関係諸機関との連携（１）
10	病院等、関係諸機関との連携（２）
11	通常学級における病弱・身体虚弱の子どもへの支援（１）
12	通常学級における病弱・身体虚弱の子どもへの支援（２）
13	通常学級における病弱・身体虚弱の子どもへの支援（３）
14	まとめ
15	総合解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 健康や疾患に関連する文献や図書を読んでおく。（４５分）

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。（４５分）

評価方法および評価の基準

授業回に指示する課題への取り組み（４０％）と筆記試験（６０％）で評価し、総合評価６０点以上を合格とする。

到達目標１．課題提出（２０％／４０％）、筆記試験（２０％／６０％）

到達目標２．課題提出（１０％／４０％）、筆記試験（２０％／６０％）

到達目標３．課題提出（１０％／４０％）、筆記試験（２０％／６０％）

【フィードバック】 提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業のときに適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	視覚障害教育概論		
担当教員名	太田 裕子		
ナンバリング	KBa309		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

特に必要としないが、授業の中で疑似体験等を行い、実務を想定した学習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教職の基礎理念に関する科目」の選択科目である。ディプロマポリシー1,2に基づき、特別支援学校のみならず小・中学校等に在籍している、見えにくさの困難を抱えている児童生徒に対して、その実態を理解しその子に合った支援ができるための基礎的知識や指導方法内容を習得し、合理的配慮ができる教師の育成を目指す。特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要

視覚障害とはどういうものを学び、視覚障害教育の歴史や制度を概観する。視覚障害の特性を踏まえた学習指導法(教育課程)、教材教具(点字、白杖歩行を含む)について研究し、教育現場で役に立つ知識を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

教科書をもとに講義で進めるが、疑似体験や模擬授業も取り入れていく。

到達目標

- 視覚障害や視覚障害教育についての基礎的・基本的な知識・技能を説明できる。
- 視覚障害教育の特色である視覚に頼らない指導法、または視覚を活用した指導法を理解し、他障害の子どもの指導にも活用できる。
- 視覚障害者の生活や職業・スポーツなどに興味関心を持ち、合理的配慮ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4教材研究、学習指導案作成、
- 4子ども理解、
- 5指導技術、子どもの関心・意欲・喚起

内容

基本的には講義を中心にし、テーマ別にグループでディスカッションをしたり、疑似体験や模擬授業などを取り入れていく

1	オリエンテーション（視覚障害とは「エム・ナマエさんの生き方から学ぶ」）
2	視覚障害教育とは（ヘレン・ケラーとアニー・サリバン）
3	視覚の成り立ち（視覚器の構造・主な眼疾患とさまざまな見え方）
4	視機能の評価（視力とは・視機能評価の実際）
5	視覚障害児の教育の場と教育内容（学びの場と教育課程・基礎的環境整備と合理的配慮）
6	視覚障害乳幼児の発達と支援（乳幼児期の特徴と必要な支援）
7	盲児の指導（視覚障害の疑似体験 触察の体験と模擬指導）
8	盲児の指導（点字の成り立ちと点字の体験）
9	盲児の指導（点字の指導法・模擬指導）
10	盲児の指導（歩行指導の基本と疑似体験・模擬指導）
11	弱視児の指導（多様な見え方の理解と視認知力を高める学習、視覚補助具の活用、拡大教科書）
12	視覚障害者の体験談を聞く（学校で学んだこと、生活・仕事・趣味、当事者からのメッセージ）
13	重複障害児の指導（新生児医療の現状、視覚障害のある重複障害教育の特徴）
14	これからの視覚障害教育（インクルーシブ教育・パラリンピック教育・センター的機能）
15	まとめ（授業内試験）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストをあらかじめ読み、専門用語などをインターネットで検索したりして予習する（60分）。

【事後学習】講義を振り返り新たに学んだ事柄や自分の感想をまとめる（60分）。

評価方法および評価の基準

視覚障害教育への関心・意欲・態度は授業への参加度(20%)、疑似体験などで身に付けた指導力はワークシート・レポートなど(30%)、視覚障害教育の基礎的基本的な内容と専門性は試験(50%)を中心にみることとし、総合評価60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳まゆみ・鳥山由子編著「視覚障害教育入門（改訂版）」ジアース教育新社
文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」

【推薦書】香川邦生編著「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」教育出版
全国盲学校長会編著「見えない・見えにくい子供のための歩行指導Q&A」ジアース教育新社
猪平眞理編著「視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える」慶應義塾大学出版会
広瀬浩二郎著「身体でみる異文化」臨川選書

【参考図書】必要に応じて授業で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

視覚障害教育は特別支援教育の中でも最も歴史のある教育です。そのノウハウは、視覚障害児のみならず、いろいろな障害のある子どもを理解し支援する上で大変参考となるものです。疑似体験を通して理解し支援の方法を学んでいきますので、しっかり出席し、体験してください。

科目名	聴覚障害教育概論		
担当教員名	信方 壽幸		
ナンバリング	KBa310		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、特別支援教育免許を取得希望の学生、また特別支援教育に興味・関心のある学生を対象とする。教職基礎・教科教育学分野の教職の基礎理論に関する科目の1つであり、聴覚障害教育に関する基本的な知識及び技能を身に付けられるようにする。「特別支援教育概論」等、特別支援教育にかかわる他の科目とも関連性がある。

科目の概要

聴覚障害児の教育制度や指導法の基本を知るとともに、聴覚の生理や障害の原因について知識を得る。さらに、聴覚障害の障害特性を理解し、障害特性に応じた具体的な指導法を実践できるようになることを目的とする。また、手話に対する理解を深めるため、毎回10分程度の手話学習を行う。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 聴覚障害の生理・病的な知識を得る。
2. 聴覚障害の障害特性を理解し、障害特性に配慮した具体的な指導法を身に付けることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション：学習内容の説明
2	聴覚障害の定義・原因・分類
3	聴覚障害教育の歴史：世界
4	聴覚障害教育の歴史：日本
5	聴覚障害の早期発見と保護者支援
6	聴覚障害教育の制度と就学
7	聴覚障害教育の教育課程
8	聴覚障害教育の実際 聴覚補償（聴力検査、補聴器・人工内耳、及び集団補聴システム）

9	聴覚障害教育の実際 コミュニケーション方法（聴覚口話法、キュード法、手話等）
10	聴覚障害教育の実際 言語指導
11	聴覚障害教育の実際 指導上の配慮事項
12	聴覚障害教育の実際 個別の教育支援計画と個別の指導計画
13	聴覚障害児の進路
14	聴覚障害教育に関する今日的課題
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】テキストや参考書、インターネットを活用して自ら興味を深めることを期待する。（各授業に対して60分）
- 【事後学修】授業の内容についてしっかりと復習し、復習ノートを作成しながら、積極的に質問する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、ミニレポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑について返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】基本的に自作テキストを使用して学習を進める。

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】・改訂版 中野善達・根本匡文編著 聴覚障害の基本と実際. 田中出版 ・藤田郁代編著 聴覚障害学 第2版. 医学書院 ・杉野学・長沼俊夫・徳永亜希雄編著 特別支援教育の基礎. 大学図書出版 他の図書については授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	重複障害教育概論		
担当教員名	中西 郁、阿部 晴美		
ナンバリング	KBa311		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

特別支援学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に重度・重複障害のある児童の指導を行ってきた経験を活かして、障害特性を踏まえた指導の在り方について講義を中心に演習も取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の「免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目」に該当する。重複障害の児童の障害特性等を理解し、教材研究や学習指導案の作成、摂食指導ができる知識と技能を学修する。

科目の概要

重複障害、重度・重複障害の定義、重度・重複障害教育の現状や課題等について理解を深めることを目的とする。本科目では、重複障害のある児童の教育課程の特例、重度・重複障害児の理解と指導法、指導計画の作成、摂食嚥下機能のメカニズムや摂食指導の実際等について学修する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、学習指導案の作成等の演習、摂食指導の実習を取り入れて授業を行う。

到達目標

1. 重複障害及び重度・重複障害の概念、教育課程の取扱いについて理解し、重複障害教育に関する理論や考え方を説明することができる。
2. 重度・重複障害児の指導、医療的ケアの必要な児童の指導に関する教材研究を行うとともに、学習指導案を作成することができる。
3. 摂食嚥下機能を理解し、摂食指導を実施できる実践力を身に付けるとともに、安全で効果的な摂食指導を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 教材研究、学習指導案作成 -4 子ども理解 -5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

1	重度・重複障害教育の概要（中西）
2	知的障害のある自閉症の児童の障害特性と指導内容・方法（中西）
3	重複障害のある児童の障害特性と指導内容・方法（中西）
4	重複障害の教育課程の特例（中西）

5	重度・重複障害の教育課程の特例（中西）
6	重度・重複障害児童の学習指導案の作成の留意事項（中西）
7	重度・重複障害児童の学習指導案の作成1（演習）（中西）
8	重度・重複障害児童の学習指導案の作成2（演習）（中西）
9	重度・重複障害児童の実態把握の方法（阿部）
10	医療的ケアを必要とする児童の指導（阿部）
11	摂食嚥下機能のメカニズムと発達（阿部）
12	摂食指導の実際（演習）（阿部）
13	教材・教具とICT機器の活用（阿部）
14	重度・重複障害児童の個別の指導指導の作成（演習）（阿部）
15	まとめ（阿部）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを参考に、事前に参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】配付された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組み、学習内容を整理しておく。（各授業に対して90分）

評価方法および評価の基準

各授業で指示する課題（レポート等）への取り組み（30％）と試験（70％）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10％/30％） 筆記試験（40％/70％）

到達目標2 課題提出（10％/30％） 筆記試験（15％/70％）

到達目標3 課題提出（10％/30％） 筆記試験（15％/70％）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業時間内に返却する。筆記試験は返却の上、解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・「特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

【推薦書】「特別支援教育の基礎」中西 郁 他著 大学図書出版

【参考書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別な教育的ニーズの理解と支援 A		
担当教員名	岡本 明博、中西 郁		
ナンバリング	KBa206		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 3 . 4 に該当する。本科目は、「教員免許状取得のための必修科目」の 1 つ「教育の基礎的理解に関する科目」に該当し、通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする児童に対し、学習上または生活上の困難を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な知識や支援方法を理解することが求められる。

科目の概要

インクルーシブ教育システムの意義理解の上に、発達障害やその他様々な多様性のある児童への支援について基礎的な知識を学ぶとともに、校内支援体制や関係機関との連携について概要を学ぶ。また、特別支援学校の概要について学び、連続性のある学びの場やセンター的機能の活用について学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- 1 . LD ・ ADHD ・ ASD 等の発達障害や、その他の教育的ニーズをもつ児童について理解する。
- 2 . 支援に当たっての校内支援体制の構築や関係機関との連携について理解する。
- 3 . 特別支援学校の概要を理解し、交流及び共同学習の推進やセンター的機能の活用について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

講義のみならず、発達障害等の心理的疑似体験等の演習やグループディスカッションなどを行い、学生同士が対話的・主体的な学びを通して、特別な教育的ニーズについて学びを深めていけるよう授業を展開する。

1	今、学校では ~インクルーシブ教育システムと合理的配慮~ (齋藤)
2	学習障害の理解と支援 (齋藤)
3	注意欠陥多動性障害の理解と支援 (齋藤)

4	自閉症の理解と支援（齋藤）
5	情緒障害の理解と支援（齋藤）
6	軽度知的障害の理解と支援（齋藤）
7	言語の違い、貧困、LGBT等の理解と支援（齋藤）
8	小・中学校における校内支援体制と連携システム（齋藤）
9	特別支援学級・通級による指導と自立活動（齋藤）
10	保健・福祉・医療機関等との連携（齋藤）
11	個別の教育支援計画・個別の指導計画（齋藤）
12	特別支援学校教育の実際 ～特別支援学校に学ぶ子どもたちの理解と支援～（中西）
13	特別支援学校教育の実際 ～特別支援学校との連携とセンター的機能～（中西）
14	アセスメントの基礎（齋藤）
15	自己理解と自己支援力の育成、まとめ（齋藤）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に配付資料・教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し30分）

【事後学修】授業内容については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解が深められるようにするとともに、学校インターンシップ等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加態度と毎回の小レポート50%、レポート試験50%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に小レポートへのコメントや返答をし、学習理解を深められるようにする。レポート試験についてはコメントを付し、授業の中で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で使用する資料のパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントアウトするかデータを閲覧できるノートパソコンを持参すること。

【教科書】「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」「同解説総則編」文部科学省

幼稚園教諭免許取得者は「幼稚園教育要領（平成29年告示）」「同解説」文部科学省も準備

【推薦書】「特別支援学校学習指導要領（平成29年4月告示）」「同解説・自立活動編」文部科学省

「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引き-解説とQ&A-」文部科学省

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別支援学校教育概論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBa207		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2,3,4に該当する。本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の第一欄「特別支援教育の基礎理論に関する科目」に該当する。また、学位授与方針の教員の在り方、実践的な指導力に係る特別支援学校教育の基礎・基本について学ぶことを目的としている。

科目の概要

本科目は、特別支援教育の基盤である特別支援学校教育について理解を深めていく。そのために、特別支援学校教育の現状等の概要について理解するとともに、特別支援学校に在籍する児童等の障害の基礎的な理解や、障害児教育の歴史等について学修する。講義は2名の教員が担当し、オムニバス形式で実施する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 特別支援学校教育の概要等について理解する。
2. 特別支援学校教育の対象となる障害について理解する。
3. 特別支援学校の教育内容・方法等について理解する。
4. 特別支援学校の児童等の生理・病理等について理解する。
5. 特別支援学校教育の基本的知識を習得し、教員採用試験に対応できる知識を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本授業は講義を基本に、グループワーク、グループディスカッション、課題のプレゼンを取り入れながら学びを深めていく。

1	特別支援学校教育の概要（中西）
2	視覚障害の理解と視覚障害教育の歴史（中西）
3	聴覚障害の理解と聴覚障害教育の歴史（中西）
4	肢体不自由、病弱の理解と肢体不自由教育並びに病弱教育の歴史（中西）
5	知的障害の理解と知的障害教育の歴史（中西）
6	病弱・虚弱の医療と教育（中西）
7	肢体不自由の医療と教育（中西）

8	知的障害、言語障害の医療と教育（中西）
9	視覚障害のある児童等への指導内容・方法（中西）
10	聴覚障害のある児童等への指導内容・方法（中西）
11	肢体不自由の児童等への指導内容・方法（中西）
12	病弱の児童等への指導内容・方法（中西）
13	知的障害のある児童等への指導内容・方法（中西）
14	特別支援学校の教育課程（中西）
15	まとめ（中西）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組み、学修内容を整理しておく。（各授業に対して90分）

評価方法および評価の基準

試験による評価（80％）課題の評価（10％）平常の参加態度の評価（10％）で総合的に評価し、60点以上を合格とします。授業の中で試験の振り返りを行う。

【フィードバック】毎回の授業で課題を提示し、次回の授業で提出された課題について解説、コメントを行いながら前回の授業内容を振り返り、学修理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特別支援教育の基礎 大学図書出版、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）文部科学省

【推薦書】特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月、文部科学省

【参考図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育課程論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa312		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

教育課程編成の実際について経験 (87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師。) を踏まえて講ずる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、教育職員免許法及び、児童教育学科に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修するものです。卒業必修であり、教育職員免許状取得のための必修科目です。

小学校教員を目指す1年生 (2020年入学生から、それ以前は2年生後期) が後期に受講し、これから学ぶ各教科 (国語・算数など)、領域 (総合的な学習の時間・特別活動など) 等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えます。1年生前期で学修する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学修を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学びます。

講義を中心とします。毎時間ごとに学修票 (学修内容の振り返り、省察) に、授業前学修や授業で学んだことを整理し、執筆し、提出します。これを次回授業時に紹介し、内容のフィードバックをはかります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。それらを主体的、能動的に学ぶ態度が身につきます。

児童教育学科ディプロマポリシーの1 (教師としての指導力) 及び2 (実践的指導力) に対応する講義です。

内容

アクティブラーニングとして、討論、省察、リアクションペーパーの作成とその交流を図ります。内容項目は、原案です。初回にアンケートを実施し、その内容を踏まえて修正します。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法—学校教育の現状と課題
3. 学習指導要領と教育課程
4. 新学習指導要領の方向性、改訂のポイント
5. 学校における教育課程編成の手順
6. 組織としての学校 —学校教育目標と学校経営
7. 組織としての学校 —年間授業日数と年間行事計画
8. 組織としての学校 —校務分掌と担任の役割
9. 年間指導計画と学習指導 (学級経営プラン)
10. 学校における教師の役割 (時間割表作成)

11. 計画的な授業実践（学力向上と授業改善）
12. 特別の教科 道徳（豊かな人間性の育成）
13. 特別活動と学級づくり
14. 総合的な学習の時間と学び方
15. 教育課程のまとめと振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】教育課程のあり方、教材や授業づくりについて、参考資料をもとに疑問点をまとめ、講義に臨みます（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義をもとに、再度教育課程とは何かという課題についての仮説を再構成し、学校インターンシップの経験を重ね合わせてノートを作成します（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

学修票提出80点（基本概念の理解、授業前・授業時の学修状況確認）、授業への取り組み（学修票の内容を含む）20点（主体的、能動的学修態度の確認）を総合して評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーの内容を次回の授業時に紹介し、コメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】文部科学省『小学校学習指導要領』

その他、使用する資料は配布する。

【推薦書】 授業時に適宜紹介する。

【参考図書】授業時に提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	羽田 邦弘、狩野 浩二		
ナンバリング	KBa313		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

教育課程編成の実際について、経験(87年から四年間、宮城県中学校教諭、91年から二年間東北高校兼任講師)を元に講じます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、教育職員免許法及び、児童教育学科に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」の中の「教育課程の意義及び編成の方法」について学修する。卒業必修であり、教育職員免許状(中等)取得のために必修の科目である(中高英語取得の際は、「教育課程論A」の受講により履修済と認められる)。

各学校における教育は、各学校の教育課程によって進められる。教育課程の歴史、法的根拠、諸外国との比較により、教育課程の意義、及び編成の方法を学ぶ。

講義科目である。講義中に執筆する学修票を使用し、次回講義で紹介する。

- ・教育課程の意味や史の変遷が理解できる。
- ・学習指導要領と教育課程編成の関係が理解できる。
- ・教育課程の編成の手続き、教育課程の果たす役割が理解できる。

1 (豊かな教師力) 及び 2 (確かな実践力) に対応する講義である。

内容

アクティブラーニングとして、討論、学生の発表、省察、リアクションペーパーとその交流を図ります。

- 【第1回】学校教育と学校を取り巻く教育環境の変化
- 【第2回】教育課程の意義と教育課程編成・実施に関する法制
- 【第3回】教育課程と学習指導要領
- 【第4回】教育課程と教科書制度
- 【第5回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(1)
- 【第6回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(2)
- 【第7回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(3)
- 【第8回】新学習指導要領の特徴と教育課程の編成
- 【第9回】新学習指導要領と教育課程の編成 小学校
- 【第10回】新学習指導要領と教育課程の編成 中学校
- 【第11回】新学習指導要領と教育課程の編成 高等学校
- 【第12回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(1)
- 【第13回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(2)
- 【第14回】教育課程の評価方法及び教育課程の改善

【第15回】まとめ これからの時代の教育課程を再考する

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】カリキュラムのあり方について、予想や仮説を持ち、経験をもとに疑問点をまとめて講義に臨む（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を踏まえ、カリキュラムのあり方を再度考察し、ノートづくりを行なう（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加（20点：内容理解、主体的・能動的な学修態度確認）、課題への取組（40点：基本概念、歴史、理論についての理解度確認）、まとめのレポート（40点：到達目標への達成度確認）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業ごとにリアクションペーパーを提出し、その内容を次回の授業時に紹介しながら、内容の定着を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】学習指導要領 中学校

【推薦書】

・奈須正裕『よくわかる 小学校・中学校 新学習指導要領全文と要点解説』教育開発研究所

・澤井陽介『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』東洋館出版社ベスト新書

【参考図書】随時紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa314		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員及び指導主事、教科調査官（文部科学省）の経験をもつ教員が担当し、「国語科」の学習指導要領の理解、学習指導の具体的な方法、学習評価の効果的な進め方等について、実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の必修科目である。小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修科目である。2年選択科目「教材研究A」と関連し、3年選択科目「授業研究A（B）」の基礎となる。

科目の概要

小学校学習指導要領に基づき、「国語科」の目標と内容について理解する。〔知識及び技能〕の内容と関連を図りつつ、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について、指導内容と活動とを結び付けて学び、学習指導略案を作成する。また、新しい学習指導要領でも引き続き重視されている「言語活動」について、その背景と、授業づくりへの生かし方について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心とするが、理解した内容の定着・応用を図るため、実際に授業を構想し、学習指導略案を作成することを基本とする。その際、ペアやグループで意見交換しながら進める形をとる。【ディスカッション】【レポート】【ロールプレイ】

到達目標

1. 学習指導要領国語の目標と内容に関する基礎的な内容を説明することができる。（平常点25%、レポート10%）
2. 学習指導要領の内容と教材・題材を結び付けて、学習指導案の略案を作成することができる。（平常点25%、レポート10%）
3. 「国語科」の学習内容に関心を持ち、積極的に授業作りを行うことができる。（平常点25%、レポート5%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5 指導法の工夫

内容

1	ガイダンス～子どもの学力の状況，今，求められる学力と教育の動向～
2	教育課程における国語科の位置，学習指導要領の理解 【レポート】
3	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
4	「話すこと・聞くこと」の内容と指導 ～言語活動～ 【ディスカッション】
5	「話すこと・聞くこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～ 【ロールプレイ】
6	「書くこと」の内容と指導 ～言語活動～ 【ディスカッション】
7	「書くこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～ 【ロールプレイ】
8	国語科における学習評価の基本的な考え方
9	「読むこと」の内容と指導 ～言語活動～ 【ディスカッション】
10	「読むこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～ 【ロールプレイ】
11	伝統的な言語文化に関する指導、国語科授業におけるICTの活用 【ICT】
12	文字の指導，語句・語彙の指導 【レポート】
13	書写の指導の基本、書写の学習指導略案の作成 【ロールプレイ】
14	国語科における学習評価
15	これからの国語科教育の在り方～振り返りとまとめ～【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスと予告に基づき、必要な事前準備を行う[各授業に対して45分]。

【事後学修】返却する小レポート等に基づいて復習する[各授業に対して45分]。

評価方法および評価の基準

毎回の小レポートや学習指導略案（75%）、最終的な論述レポート（25%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、小レポート等の作成とともに質疑を受け付け、次回授業の冒頭で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）

【推薦書】【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa315		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者がその経験を活かし、小学校算数科の授業づくりについて講義する。

特に新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を模擬授業の中で紹介する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。1年次の「算数」の上に立ち、小学校算数科の目標、内容、指導方法等を理解することをねらいにおく。

科目の概要

小学校算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」[図形]「測定」「変化と関係」「データの活用」の5領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法の在り方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を参考に、指導計画と1時間の指導案を作成し、模擬授業を通して実際の授業の在り方を考える。

授業の方法 (ALを含む)

学生が作成した指導計画・指導案を基に模擬授業で発表し、グループワークや討議・討論を取り入れながら体験的に学ぶ。

【模擬授業】【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- 1 教科用図書の内容を十分に理解し、それを活かした学習指導案を作成することができる。
- 2 子供の反応を活かしながら、関心意欲を喚起する授業を行うことができる。
- 3 自己の課題に気付き、学び続けようとする姿勢をもつことができる。

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行い、その模擬授業に対して学生による相互評価を取り入れる。最後に指導講評を行う。

よって、指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 指導法の工夫

内容

1	算数科教育の目的・目標（ガイダンス）
2	学習指導要領における算数科の指導内容と育成すべき資質・能力
3	「数学的な見方・考え方」を働かせた主体的・対話的で深い学び
4	「数と計算」領域における指導上の留意点と評価
5	「数と計算」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
6	「図形」領域における指導上の留意点と評価
7	「図形」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
8	「測定」領域における指導上の留意点と評価
9	「測定」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
10	「変化と関係」領域における指導上の留意点と評価
11	「変化と関係」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
12	「データの活用」領域における指導上の留意点と評価
13	「データの活用」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
14	情報機器及び教材の効果的な活用法と授業設計
15	まとめ～数学的に考える資質・能力の育成～

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

指示した単元の指導計画案の作成、指導案の作成をグループで行う。（各授業60分）

【事後学修】

授業中出された課題の整理とを解決するための改善案をまとめておく。（各授業45分）

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（40％）と筆記試験（60％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出（20％／40％）、筆記試験（20％／60％）

到達目標2．課題提出（10％／40％）、筆記試験（20％／60％）

到達目標3．課題提出（10％／40％）、筆記試験（20％／60％）

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（日本文教出版社）

【推薦書】学力向上フロインティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び 4 - 6年実践編」明治図書

【参考図書】

算数教育研究協議会用テキスト 埼玉県算数数学教育研究会小学校部会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	初等理科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、理科教育に関する理論と実践について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修科目です。1年で学んだ「理科」と関連し、2年生では、小学校理科における「問題解決の在り方」について理論と実践について学修します。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の4領域をもって構成します。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等です。この から を中心としながら、学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業や実習を行うとともに、授業研究・研究協議を実施します。学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、指導技術を身に付けます。

授業の方法（ALを含む）

本科目では講義を中心とするが、小学校理科における観察・実験などの演習や学生自身による模擬授業、研究協議を取り入れた授業を行います。

到達目標

- 1.理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。（レポート、指導案等20/60%）（最終試験20/40%）
- 2.理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。（レポート、指導案等20/60%）（最終試験10/40%）
- 3.構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。（レポート、指導案等20/60%）（最終試験10/40%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

小学校理科が目指す目標について理解するとともに、その具体的な内容や主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法及び評価についてグループワークを通して学びます。本授業では、1年次の「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育に関する基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業も行います。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学びます。

1	(1) 初等理科教育法のガイダンス (2) 小学校理科教育が目指す方向性(資質・能力)
2	(1) 小学校理科A区分「物質・エネルギー」の目標と内容 (2) A区分の教材研究【グループワーク】
3	(1) 小学校理科B区分「生命・地球」の目標と内容 (2) B区分の教材研究/ESD【グループワーク】
4	(1) 理科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 理科における「見方・考え方」【ロールプレイ】
5	(1) 理科授業における安全教育 (2) 安全教育に関する演習【ロールプレイ】
6	(1) 理科で目指すカリキュラム・マネジメントの視点 (2) 板書、発問に関する演習【ロールプレイ】
7	(1) 理科の年間指導計画・単元計画作成のポイント(2) 指導案作成と演習【討議・討論】
8	(1) ICTの活用とプログラミング教育 (2) プログラミングに関する実験演習【ICT活用】
9	(1) 理科の学習と自然災害との関連 (2) 自然災害に関する観察・実験演習【ロールプレイ】
10	(1) 障害のある児童に対応した理科授業のあり方(2) 障害に対応した観察・実験演習「ロールプレイ」
11	(1) 理科の学習と道徳科との関連 (2) 道徳と関連した模擬授業演習【ロールプレイ】
12	(1) 理科の指導と評価のあり方 (2) 評価計画演習【討議・討論】
13	指導案作成と模擬授業及び研究協議(基礎)【ロールプレイ】【討議・討論】
14	指導案作成と模擬授業及び研究協議(応用)【ロールプレイ】【討議・討論】
15	(1)理科の授業づくりに関する自己省察 (2) 理科教育の目標や内容等に関するまとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】模擬授業や演習の内容について事前に調べ、キーワードや自分ならどのように指導するかについての考えや留意点等を整理して授業に臨みます。(各授業に対して60分 各回の担当班は模擬授業の準備含90分)

【事後学修】模擬授業や演習後の協議で出された意見等を集約するとともに、授業研究の記録を分析するなどして自己省察を行い、報告書を作成し毎回提出します。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度と毎時間提出するレポート30%、模擬授業の準備、指導案等30%、最終試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』(平成29年7月)

【推薦書】文部科学省『小学校理科の観察,実験の手引き』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/sensei/ouen/1304651.htm

国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

【参考図書】塚田昭一編著「新学習指導要領の展開」明治図書出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

模擬授業を行う班は、必ず予備実験を行ってから授業に臨んでください。

科目名	初等理科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、理科教育に関する理論と実践について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修科目です。1年で学んだ「理科」と関連し、2年生では、小学校理科における「問題解決の在り方」について理論と実践について学修します。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の4領域をもって構成します。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等です。この から を中心としながら、学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業や実習を行うとともに、授業研究・研究協議を実施します。学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、指導技術を身に付けます。

授業の方法（ALを含む）

本科目では講義を中心とするが、小学校理科における観察・実験などの演習や学生自身による模擬授業、研究協議を取り入れた授業を行います。

到達目標

- 1.理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。（レポート、指導案等20/60%）（最終試験20/40%）
- 2.理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。（レポート、指導案等20/60%）（最終試験10/40%）
- 3.構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。（レポート、指導案等20/60%）（最終試験10/40%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

小学校理科が目指す目標について理解するとともに、その具体的な内容や主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法及び評価についてグループワークを通して学びます。本授業では、1年次の「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育に関する基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業も行います。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学びます。

1	(1) 初等理科教育法のガイダンス (2) 小学校理科教育が目指す方向性(資質・能力)
2	(1) 小学校理科A区分「物質・エネルギー」の目標と内容 (2) A区分の教材研究【グループワーク】
3	(1) 小学校理科B区分「生命・地球」の目標と内容 (2) B区分の教材研究/ESD【グループワーク】
4	(1) 理科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 理科における「見方・考え方」【ロールプレイ】
5	(1) 理科授業における安全教育 (2) 安全教育に関する演習【ロールプレイ】
6	(1) 理科で目指すカリキュラム・マネジメントの視点 (2) 板書、発問に関する演習【ロールプレイ】
7	(1) 理科の年間指導計画・単元計画作成のポイント(2) 指導案作成と演習【討議・討論】
8	(1) ICTの活用とプログラミング教育 (2) プログラミングに関する実験演習【ICT活用】
9	(1) 理科の学習と自然災害との関連 (2) 自然災害に関する観察・実験演習【ロールプレイ】
10	(1) 障害のある児童に対応した理科授業のあり方(2) 障害に対応した観察・実験演習「ロールプレイ」
11	(1) 理科の学習と道徳科との関連 (2) 道徳と関連した模擬授業演習【ロールプレイ】
12	(1) 理科の指導と評価のあり方 (2) 評価計画演習【討議・討論】
13	指導案作成と模擬授業及び研究協議(基礎)【ロールプレイ】【討議・討論】
14	指導案作成と模擬授業及び研究協議(応用)【ロールプレイ】【討議・討論】
15	(1)理科の授業づくりに関する自己省察 (2) 理科教育の目標や内容等に関するまとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】模擬授業や演習の内容について事前に調べ、キーワードや自分ならどのように指導するかについての考えや留意点等を整理して授業に臨みます。(各授業に対して60分 各回の担当班は模擬授業の準備含90分)

【事後学修】模擬授業や演習後の協議で出された意見等を集約するとともに、授業研究の記録を分析するなどして自己省察を行い、報告書を作成し毎回提出します。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度と毎時間提出するレポート30%、模擬授業の準備、指導案等30%、最終試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』(平成29年7月)

【推薦書】文部科学省『小学校理科の観察,実験の手引き』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/sensei/ouen/1304651.htm

国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

【参考図書】塚田昭一編著「新学習指導要領の展開」明治図書出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

模擬授業を行う班は、必ず予備実験を行ってから授業に臨んでください。

科目名	初等理科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、理科教育に関する理論と実践について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修科目です。1年で学んだ「理科」と関連し、2年生では、小学校理科における「問題解決の在り方」について理論と実践について学修します。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成します。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。

は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等です。この から を中心としながら、学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業や実習を行うとともに、授業研究・研究協議を実施します。学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、指導技術を身に付けます。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義を中心とするが、小学校理科における観察・実験などの演習や学生自身による模擬授業、研究協議を取り入れた授業を行います。

到達目標

1. 理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。(レポート、指導案等20/60%) (最終試験20/40%)
2. 理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。(レポート、指導案等20/60%) (最終試験10/40%)
3. 構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。(レポート、指導案等20/60%) (最終試験10/40%)

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

小学校理科が目指す目標について理解するとともに、その具体的な内容や主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法及び評価についてグループワークを通して学びます。本授業では、1年次の「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育に関する基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業も行います。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学びます。

1	(1) 初等理科教育法のガイダンス (2) 小学校理科教育が目指す方向性(資質・能力)
2	(1) 小学校理科A区分「物質・エネルギー」の目標と内容 (2) A区分の教材研究【グループワーク】
3	(1) 小学校理科B区分「生命・地球」の目標と内容 (2) B区分の教材研究/ESD【グループワーク】
4	(1) 理科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 理科における「見方・考え方」【ロールプレイ】
5	(1) 理科授業における安全教育 (2) 安全教育に関する演習【ロールプレイ】
6	(1) 理科で目指すカリキュラム・マネジメントの視点 (2) 板書、発問に関する演習【ロールプレイ】
7	(1) 理科の年間指導計画・単元計画作成のポイント(2) 指導案作成と演習【討議・討論】
8	(1) ICTの活用とプログラミング教育 (2) プログラミングに関する実験演習【ICT活用】
9	(1) 理科の学習と自然災害との関連 (2) 自然災害に関する観察・実験演習【ロールプレイ】
10	(1) 障害のある児童に対応した理科授業のあり方(2) 障害に対応した観察・実験演習「ロールプレイ」
11	(1) 理科の学習と道徳科との関連 (2) 道徳と関連した模擬授業演習【ロールプレイ】
12	(1) 理科の指導と評価のあり方 (2) 評価計画演習【討議・討論】
13	指導案作成と模擬授業及び研究協議(基礎)【ロールプレイ】【討議・討論】
14	指導案作成と模擬授業及び研究協議(応用)【ロールプレイ】【討議・討論】
15	(1)理科の授業づくりに関する自己省察 (2) 理科教育の目標や内容等に関するまとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】模擬授業や演習の内容について事前に調べ、キーワードや自分ならどのように指導するかについての考えや留意点等を整理して授業に臨みます。(各授業に対して60分 各回の担当班は模擬授業の準備含90分)

【事後学修】模擬授業や演習後の協議で出された意見等を集約するとともに、授業研究の記録を分析するなどして自己省察を行い、報告書を作成し毎回提出します。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度と毎時間提出するレポート30%、模擬授業の準備、指導案等30%、最終試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』(平成29年7月)

【推薦書】文部科学省『小学校理科の観察,実験の手引き』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/sensei/ouen/1304651.htm

国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

【参考図書】塚田昭一編著「新学習指導要領の展開」明治図書出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

模擬授業を行う班は、必ず予備実験を行ってから授業に臨んでください。

科目名	初等体育科教育		
担当教員名			
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として体育科の指導に携わった経験を持つ教員が担当し、小学校体育授業に関する内容・教材・指導法について実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけ、2年生前期に設定された小学校教諭免許取得の必修科目である。体育科の授業づくりと指導法の基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年次後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科で取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。体育実技を交えた活動や模擬授業の実践など、小学校の体育授業で扱う運動教材を身体感覚で理解していく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説に加えて、体育実技を通じた実践的な指導法の理解、グループによる模擬授業等の発表活動を取り入れた授業を行う。【実技】【模擬授業】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- 1) 小学校体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術を理解・習得する。
- 2) 模擬授業を通して、体育科の実践的な指導法と学習指導案作成の基本を身につける。
- 3) 小学校体育科の学習教材に関する体育実技の技能・体力を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5指導法の工夫

内容

1	オリエンテーション：発表活動の班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の進め方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて【実技】

6	運動領域別の指導法 : ボール運動(ブレルボール)、なわとび運動 ~実技を踏まえて 【実技】
7	運動領域別の指導法 : 陸上運動、鉄棒運動 ~実技を踏まえて 【実技】
8	学習指導案作成の基本的理解と実践(作業)
9	保健内容ポスター発表と振り返り(その1) 【プレゼンテーション】【レポート(知識)】
10	保健内容ポスター発表と振り返り(その2) 【プレゼンテーション】【レポート(知識)】
11	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について 【模擬授業】【レポート(知識)】
12	授業観察の方法と理解(授業評価を含む)、体育科と特別支援教育の接点(オリ・パラ教育)
13	体育内容の模擬授業と振り返り(その1) 【模擬授業】【レポート(知識)】
14	体育内容の模擬授業と振り返り(その2) 【模擬授業】【レポート(知識)】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備(90分)。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、発表活動15%、レポート25%、試験30%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(10%/30%) レポート(10%/25%) 試験(30%/30%)

到達目標 2) 授業への参加度(10%/30%) 発表活動(15%/15%) レポート(10%/25%)

到達目標 3) 授業への参加度(10%/30%) レポート(5%/25%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学修理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社(平成29年度版)

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	初等体育科教育		
担当教員名			
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として体育科の指導に携わった経験を持つ教員が担当し、小学校体育授業に関する内容・教材・指導法について実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけ、2年生前期に設定された小学校教諭免許取得の必修科目である。体育科の授業づくりと指導法の基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年次後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科で取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。体育実技を交えた活動や模擬授業の実践など、小学校の体育授業で扱う運動教材を身体感覚で理解していく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説に加えて、体育実技を通じた実践的な指導法の理解、グループによる模擬授業等の発表活動を取り入れた授業を行う。【実技】【模擬授業】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- 1) 小学校体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術を理解・習得する。
- 2) 模擬授業を通して、体育科の実践的な指導法と学習指導案作成の基本を身につける。
- 3) 小学校体育科の学習教材に関する体育実技の技能・体力を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5指導法の工夫

内容

1	オリエンテーション：発表活動の班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の進め方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて【実技】

6	運動領域別の指導法 : ボール運動(ブレルボール)、なわとび運動 ~実技を踏まえて 【実技】
7	運動領域別の指導法 : 陸上運動、鉄棒運動 ~実技を踏まえて 【実技】
8	学習指導案作成の基本的理解と実践(作業)
9	保健内容ポスター発表と振り返り(その1) 【プレゼンテーション】【レポート(知識)】
10	保健内容ポスター発表と振り返り(その2) 【プレゼンテーション】【レポート(知識)】
11	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について 【模擬授業】【レポート(知識)】
12	授業観察の方法と理解(授業評価を含む)、体育科と特別支援教育の接点(オリ・パラ教育)
13	体育内容の模擬授業と振り返り(その1)【模擬授業】【レポート(知識)】
14	体育内容の模擬授業と振り返り(その2)【模擬授業】【レポート(知識)】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備(90分)。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、発表活動15%、レポート25%、試験30%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(10%/30%) レポート(10%/25%) 試験(30%/30%)

到達目標 2) 授業への参加度(10%/30%) 発表活動(15%/15%) レポート(10%/25%)

到達目標 3) 授業への参加度(10%/30%) レポート(5%/25%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学修理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社(平成29年度版)

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	初等音楽科教育		
担当教員名	久保田 葉子、花房 伸恵		
ナンバリング	KBa318		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のあるものが、その経験を活かして、音楽科の授業づくりについて指導する。学校現場でアウトリーチ演奏の経験のある教員が、歌唱伴奏の方法を実演で示す。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の必修科目である。児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤として、特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説を中心として、グループによる実技の練習と指導法の検討、発表を行う。毎回リアクションペーパーや課題も提出し、学生の課題意識や質問を共有して学びを深める。【グループワーク】【実技】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について説明できる。
2. 実際にリコーダーや鍵盤ハーモニカ、指揮、音楽づくり等を経験し、奏法や指導上の工夫を説明できる。
3. グループワークに主体的に参加し、他の人の演奏の工夫や良さを感じ取り、評価することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3 学習内容・学習活動の設定 - 4 教材研究、学修指導案作成 - 5 指導法の工夫

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、グループ発表を取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション「音楽」教育について（音楽と学級経営・音楽と生徒指導）
2	小学校 音楽科の目標・音階、階名、音符、リズムについて【リアクションペーパー】
3	授業上手な教師を目指して・音階、階名、音符、リズムについて【リアクションペーパー】
4	学習指導要領と教科書・音階、階名、音符、リズムについて【リアクションペーパー】
5	中学年の音楽 リコーダー（指導上の留意点・デジタル教科書）【ICT】
6	低学年の音楽 歌唱指導（指導方法・弾き歌い・デジタル教科書）【ICT】
7	低学年の音楽 鍵盤ハーモニカ・打楽器（指導上の留意点・デジタル教科書）【ICT】

8	低学年の音楽 音楽づくり（指導法・デジタル教科書）【グループワーク】
9	低学年の音楽 鑑賞指導（指導法・CD）
10	低学年の音楽 合奏（指導法・CD）【グループワーク】
11	指導案の書き方・音楽科における評価・評定の在り方
12	我が国や郷土の音楽に関わる指導の充実（低中高学年）
13	本時の展開を考える（指導案づくり）
14	まとめ 合唱・合奏発表（鍵盤ハーモニカ・リコーダー・その他楽器使用）【実技】
15	まとめ 合唱・合奏発表（鍵盤ハーモニカ・リコーダー・その他楽器使用）【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキスト・小学校教科書の指定箇所の講読および歌唱・器楽・伴奏の個人練習。合唱・合奏発表の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の振り返りおよび配布資料の整理。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

1. 小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について説明できる。 評価の手段：毎回の課題（30%）、通常の授業への参加度・取り組み（10%）
2. 実際にリコーダーや鍵盤ハーモニカ、指揮、音楽づくり等を経験し、奏法や指導上の工夫を説明できる。 評価の手段：発表（40%）
3. グループワークに主体的に参加し、他の人の演奏の工夫や良さを感じ取り、評価することができる。 評価の手段：毎回の課題（10%）、発表（10%）

毎回の課題（40%）、発表（50%）、通常の授業への参加度・取り組み（10%）により評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト・その他] 小学校「音楽」1年生～2年生の教科書（教育芸術社）、鍵盤ハーモニカ、リコーダー「音楽科指導要領解説 音楽編」（文部科学省）、「新版 小学校音楽教育法」（教育出版）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

初等教育機関での造形教育に関わる実務経験が本授業での学習内容及び目的達成に活かされるものである。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科における「教職課程及び? 指導法に関する科目」の必修科目であり、「小学校教諭一種免許状」取得者にとって必修科目である。小学校図画工作科の教科としての歴史や性格、学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、指導に必要な基礎的な技能を養う。

科目の概要

小学校図画工作科について学習指導要領に基づいて目標や内容、特性について理解を深めるとともに、教材研究や演習などを通して、教科の主旨を踏まえた授業の構想と実践に関する技能を習得する。

授業の方法 (ALを含む)

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学ぶ。

【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1) 図画工作科の意義と役割、教科に関する基礎的知識及び実践的技能を發揮することができる。
- (2) 図画工作科の意義と役割、教科に関する基礎的知識及び実践的技能をもとに指導を構想することができる。
- (3) 図画工作科の意義と役割について理解を深め、教科に関する知識・技能を自ら学ぶ姿を醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 指導法の工夫

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 図画工作科の歴史・目的・性格、子どもの発達と造形表現【レポート(知識)】【レポート(表現)】
- 3 図画工作科の授業：造形遊び1【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 4 図画工作科の授業：造形遊び2【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 5 図画工作科の授業：造形遊び3【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】

- 6 図画工作科の授業：絵に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作・制作】
- 7 図画工作科の授業：絵に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作・制作】
- 8 図画工作科の授業：立体に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 9 図画工作科の授業：立体に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 10 図画工作科の授業：立体に表す活動3【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 11 図画工作科の授業：工作に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 12 図画工作科の授業：工作に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 13 図画工作科の授業：版に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 14 図画工作科の授業：版に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 15 まとめ 図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】必要に応じ授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。(各授業に対して60分)
- 【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の(3)を評価する(40%)。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

初等教育機関での造形教育に関わる実務経験が本授業での学習内容及び目的達成に活かされるものである。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科における「教職課程及び? 指導法に関する科目」の必修科目であり、「小学校教諭一種免許状」取得者にとって必修科目である。小学校図画工作科の教科としての歴史や性格、学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、指導に必要な基礎的な技能を養う。

科目の概要

小学校図画工作科について学習指導要領に基づいて目標や内容、特性について理解を深めるとともに、教材研究や演習などを通して、教科の主旨を踏まえた授業の構想と実践に関する技能を習得する。

授業の方法 (ALを含む)

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学ぶ。

【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1) 図画工作科の意義と役割、教科に関する基礎的知識及び実践的スキルを發揮することができる。
- (2) 図画工作科の意義と役割、教科に関する基礎的知識及び実践的スキルをもとに指導を構想することができる。
- (3) 図画工作科の意義と役割について理解を深め、教科に関する知識・スキルを自ら学ぶ姿を醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 指導法の工夫

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 図画工作科の歴史・目的・性格、子どもの発達と造形表現【レポート(知識)】【レポート(表現)】
- 3 図画工作科の授業：造形遊び1【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 4 図画工作科の授業：造形遊び2【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 5 図画工作科の授業：造形遊び3【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】

- 6 図画工作科の授業：絵に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作・制作】
- 7 図画工作科の授業：絵に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作・制作】
- 8 図画工作科の授業：立体に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 9 図画工作科の授業：立体に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 10 図画工作科の授業：立体に表す活動3【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 11 図画工作科の授業：工作に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 12 図画工作科の授業：工作に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 13 図画工作科の授業：版に表す活動1【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 14 図画工作科の授業：版に表す活動2【実技】【レポート(知識)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 15 まとめ 図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】必要に応じ授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。(各授業に対して60分)
- 【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の(3)を評価する(40%)。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕
・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	KBa320		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校で社会科を指導、副校長、教育行政に携わってきた経験を生かして、主体的、対話的で深い学びにつながる効果的な教科指導の方法を、演習を取り入れて助言、指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択必修科目である。小学校教諭免許取得のための教科指導法を学ぶ講座の1つである。学習指導要領に示されるねらいに従い、各学年の指導内容に示された事項をどのような教材や指導方法によって学ばせるのか等、その指導法全般について学修する科目である。

科目の概要

小学校社会科において児童が主体的、対話的で深い学びを実現し、その取組の中で学習内容を身に付けていけるように学習指導を計画する方法を習得する。

授業の方法（ALを含む）

学習指導要領の目標や内容をふまえて、小学校社会科の指導者の立場になって単元構成や1時間の授業の展開を考えて学習指導案として作成する。

到達目標

- 1 小学校社会科の学習指導要領の目標及び内容、内容の取り扱いを理解し、その要点を説明できる。
- 2 児童の学習意欲向上のための教材選択や学習展開を考えて学習指導案に表現できる。
- 3 主体的、対話的で深い学びを実現するための授業づくりの意義を理解し、各学年の学習指導案を作成することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 指導法の工夫

内容

毎回の講義内容を基に「自分が授業実践者として、どのように取組むか」という視点をもって自ら学習内容を吟味する機会をもつ。

1	オリエンテーション、小学校社会科の授業のあり方について
---	-----------------------------

2	主体的、対話的で深い学びを実現するための社会科授業の指導方法について
3	小学校社会科の学習指導案の構成と作成方法、学習評価の考え方
4	小学校3年生 身近な地域の学習に関わる単元の作り方について及び演習1
5	小学校3年生 身近な地域の学習に関わる単元の作り方について及び演習2
6	小学校4、5年生 地理的な学習に関わる単元の作り方について及び演習1
7	小学校4、5年生 地理的な学習に関わる単元の作り方について及び演習2
8	小学校4、5年生 地理的な学習に関わる単元の作り方について及び演習3
9	小学校6年生歴史的な学習に関わる単元の作り方について及び演習1
10	小学校6年生歴史的な学習に関わる単元の作り方について及び演習2
11	小学校6年生歴史的な学習に関わる単元の作り方について及び演習3
12	小学校6年生政治に関わる単元の作り方について及び演習1
13	小学校6年生政治に関わる単元の作り方について及び演習2
14	小学校6年生政治に関わる単元の作り方について及び演習3
15	講座の振り返り及びまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各時間に学修する社会科指導の進め方や内容について、事前に調べ確認しておく。毎時60分【事後学修】学習したことを毎時間、レポート等にまとめる。毎時60分

評価方法および評価の基準

到達目標1 課題レポート10%

到達目標2 課題レポート30% 授業内での取組（発表、交流等）10%

到達目標3 課題レポート40% 授業内での取組（発表、交流等）10%

到達目標1～3を総合的に60%以上到達することで合格とする。

【フィードバック】前回授業での振り返りレポートに記された不明な点、疑問点について授業の初めに補足説明を行い、内容理解が深まるように支援する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」日本文教出版（平成29年度版）

【参考図書】

文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社（平成29年度版）

小学校社会科の教科書及び教師用指導書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

魅力的な授業をつくるためには、指導者がその内容に興味をもち、正確に理解しておくことが大切です。自身の中学校までの社会科で地理、歴史、政治（日本国憲法を含む）等の内容は確実に思い出しておいてください。

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa321		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、体験的な活動を通して学ぶ生活科の指導原理について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の選択科目であり、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状を取得するための選択必修科目です。1年で学んだ「生活科」と関連し、2年生では、生活科の学習指導要領に基づいて教科の目標や内容について理解します。また、具体的な体験活動などを通して、生活科の主旨を踏まえた授業を構想し、実践的な指導力を身に付けます。

科目の概要

体験的な活動を通して学ぶ生活科の指導原理について、9つの内容について理解を深めます。また、実際の授業を分析し、指導者のかかわりや体験と表現を繰り返す学習過程や気づきの質を高めるポイントを理解しながら、模擬授業、指導案の作成に取り組みます。さらに、幼保小の学びと育ちを滑らかに接続する入学期のスタートカリキュラムについても学修します。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義を中心として、生活科で学ぶ内容について体験的に学習し、模擬授業や研究協議などのグループワークを取り入れた授業を行います。

到達目標

- 1.生活科の指導原理、学習場面における指導者のかかわりを理解することができる。(レポート、指導案等20/60%) (最終試験20/40%)
- 2.生活科の内容や取り扱いを理解し、指導計画、学習指導案を作成することができる。(レポート、指導案等20/60%) (最終試験10/40%)
- 3.生活科における気づきの質を高める児童の認識過程を理解し、意欲的に模擬授業に取り組むことができる。(レポート、指導案等20/60%) (最終試験10/40%)

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は実習や模擬授業、グループ協議を中心に、学びを深めていきます。

1	(1) 初等生活科教育のガイダンス (2) 生活科教育が目指す方向性(資質・能力)
2	(1) 学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (2) 学校探検の視点「実習」(安全指導)【実習】
3	(1) 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容(2) 自然物遊びの視点「制作」【創作・制作】
4	(1) 自分自身の生活や成長に関する内容 (2) 飼育/栽培の視点「実習」【実習】
5	(1) 生活科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 生活科における「見方・考え方」【ロールプレイ】【グループワーク】
6	(1) 幼児教育との連携 (2) スタートカリキュラムを意識した指導計画の作成【グループワーク】
7	(1) 障害のある児童に対応した生活科授業の工夫 (2) 道徳教育との関連【ロールプレイ】【グループワーク】
8	(1) 気付きの質が高まる視点を踏まえた学習指導案作り (2) 評価計画演習【討議・討論】
9	(1) 生活科で求められるICTの活用 (2) ICTを活用した実習【ICT活用】
10	(1) 実習 作物を収穫する (2) 収穫祭の計画作り【実習】
11	(1) 実習 収穫祭 収穫した作物の調理と発表 (2) 収穫祭の活動の相互評価【実習】
12	(1) 実習 町探検 (2) 調べた内容について発表と相互評価【実習】
13	(1) 模擬授業(廃品を利用した製作と遊び) 及び研究協議【ロールプレイ】【グループワーク】
14	(1) 模擬授業(自然物を使った製作と遊び) 及び研究協議実習【ロールプレイ】【グループワーク】
15	初等生活科教育のまとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業で扱う項目についてテキストや資料を読み、キーワードや指導する際の留意点等について調べ、授業に臨みます。担当班はプレゼンの準備をします。(各授業に対して60分、担当班は90分)

【事後学修】各回の授業で扱った内容や、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深め、レポートとしてまとめ提出する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度、毎回の授業レポート(30%) 模擬授業準備、指導案等(30%) 最終試験(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編(平成29年7月 文部科学省)

【推薦書】小学校生活科教科書「せいかつ」(上・下)

【参考図書】田村学著「新学習指導要領の展開」明治図書出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

模擬授業を行う班は、事前準備、踏査等を行い、安全に配慮して実施できるようにします。

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング	KBa322		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校学習指導要領作成協力者 (平成20年度,平成29年度), 文部科学省検定済小学校家庭科教科書の執筆ならびに編集委員、文部科学省「教員免許状更新講習」講師、国公立小学校にて家庭科の専科教員として24年間勤務。以上の実務経験の基に具体的実践的に講義を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の『教育課程及び指導法に関する科目の必修科目であり、小学校教諭一種免許取得に必要な科目である。学習指導要領を基に教科の指導法についての理解を深め、授業を行う際の基本的な事項並びに効果的な指導方法に関する知識と技能とを学修する。

科目の概要

・小学校家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解し、安全で効果的な家庭科の授業づくりについて学修する。

授業の方法 (ALを含む)

グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。
【グループワーク】【レポート】【ディスカッション】【模擬授業】【ケースメソッド】【創作、製作】

到達目標

- ・小学校家庭科の目標、内容、特性を他者に理解し、他者に説明することができる。
- ・児童の生活実態を踏まえた教科経営法と指導方法とを身に付け、効果的な指導計画を作成することができる。
- ・指導に必要な基礎的基本的な知識及び技能を身に付け、教材を考案し、作成することができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、仲間との意見交換や教師からの助言を踏まえた省察や改善を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3 学習内容・学習活動の設定、 - 4 教材研究、 - 5 指導方法の工夫、 - 5 指導技術・子どもの関心・意欲喚起

内容

1	授業ガイダンス (授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート)
2	家庭科の学びとは何か - 学習指導要領を基に教科目標と内容、育てる資質能力を理解する
3	家庭科の授業づくり 1 - 解説と演習 - グループワークによる授業設計のあり方の探究
4	家庭科の授業作り 2 - 解説と演習 - 年間指導計画・評価計画についての理解と演習

5	家庭科の授業作り3－演習－グループによるケースメソッドを用いた安全指導・管理に関する演習
6	内容A（家族・家庭生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
7	内容B（食生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる調理実習
8	内容B（衣生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究と実習
9	内容C（消費・環境）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
10	模擬授業（家族・家庭生活の題材）
11	模擬授業（食生活の題材）
12	模擬授業（調理の題材）
13	模擬授業（衣・住生活の題材）
14	模擬授業（消費・環境の題材）
15	学習のまとめ（これからの家庭科教育の在り方についてのグループディスカッション）・テスト

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回のキーワードや教科書の内容についてレジュメにまとめる（各授業に対して60分）課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領、参考文献等で調べてまとめる。（各授業に対して60分）・授業で示された課題図書を読む。（指示のあった回について60分以上）

評価方法および評価の基準

提出物、授業のリアクションペーパー等による平常点40%、指導案及び模擬授業40%、試験20%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。

【フィードバック】毎時間の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習－出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『スペシャリスト直伝 小学校家庭科授業 成功の極意』勝田映子著 明治図書、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい、『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループワークでは特に、各自が分担した事柄を調べて発表し合うジグソー学修やディスカッションを中心にを行います。積極的に活動に参画することを期待します。

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング	KBa322		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校学習指導要領作成協力者 (平成20年度,平成29年度), 文部科学省検定済小学校家庭科教科書の執筆ならびに編集委員、文部科学省「教員免許状更新講習」講師、国公立小学校にて家庭科の専科教員として24年間勤務。以上の実務経験の基に具体的実践的に講義を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許状取得に必須な科目である。教職課程の必修選択科目であり、学習指導要領を基に教科の教育法についての理解を深め、授業を行う際の基本的な事項並びに効果的な指導方法に関する知識と技能とを学修する。

科目の概要

・小学校家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解し、安全で効果的な家庭科の授業づくりについて学修する。

授業の方法 (ALを含む)

グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。
【グループワーク】【レポート】【ディスカッション】【模擬授業】【ケースメソッド】【創作、製作】

到達目標

- ・小学校家庭科の目標、内容、特性を他者に理解し、他者に説明することができる。
- ・児童の生活実態を踏まえた教科経営法と指導方法とを身に付け、効果的な指導計画を作成することができる。
- ・指導に必要な基礎的基本的な知識及び技能を身に付け、教材を考案し、作成することができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、仲間との意見交換や教師からの助言を踏まえた省察や改善を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3 学習内容・学習活動の設定、 - 4 教材研究、 - 5 指導方法の工夫、 - 5 指導技術・子どもの関心・意欲喚起

内容

1	授業ガイダンス (授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート)
2	家庭科の学びとは何か - 学習指導要領を基に教科目標と内容、育てる資質能力を理解する
3	家庭科の授業づくり 1 - 解説と演習 - グループワークによる授業設計のあり方の探究
4	家庭科の授業作り 2 - 解説と演習 - 年間指導計画・評価計画についての理解と演習

5	家庭科の授業作り3－演習－グループによるケースメソッドを用いた安全指導・管理に関する演習
6	内容A（家族・家庭生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
7	内容B（食生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる調理実習
8	内容B（衣生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究と実習
9	内容C（消費・環境）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
10	模擬授業（家族・家庭生活の題材）
11	模擬授業（食生活の題材）
12	模擬授業（調理の題材）
13	模擬授業（衣・住生活の題材）
14	模擬授業（消費・環境の題材）
15	学習のまとめ（これからの家庭科教育の在り方についてのグループディスカッション）・テスト

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回のキーワードや教科書の内容についてレジュメにまとめる（各授業に対して60分）課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領、参考文献等で調べてまとめる。（各授業に対して60分）・授業で示された課題図書を読む。（指示のあった回について60分以上）

評価方法および評価の基準

提出物、授業のリアクションペーパー等による平常点40%、指導案及び模擬授業40%、試験20%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを伏し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習－出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『スペシャリスト直伝 小学校家庭科授業 成功の極意』勝田映子著 明治図書、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい、『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループワークでは特に、各自が分担した事柄を調べて発表し合うジグソー学修やディスカッションを中心にを行います。積極的に活動に参画することを期待します。

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、日出間 均、三藤 あさみ		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員、学校管理職、指導主事等の経験をもつ教員が担当し、質の高い授業作りに不可欠な教材研究の方法を実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択科目であり、小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。前期で、国語・算数・社会について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。「初等国語科教育」「初等算数科教育」「初等社会科教育」との関連を図って学修する。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科等により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科等について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、教材を研究・解釈して授業展開に関連付ける実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目は演習を中心とし、ペアやグループによる協議、学習指導・教材作成を実践的に体験する。【レポート】【実技】【プレゼンテーション】

到達目標

- 1.それぞれの教科等について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究に応用することができる。（小レポート20%、最終レポート10%）
- 2.それぞれの教科等の基本的な学習指導・学習指導案の作成について理解し、工夫して実際の授業をイメージすることができる。（小レポート20%、最終レポート10%）
- 3.教材研究の重要性を自覚し、他者と協働しながら教材研究を進め、その成果を進んで表現することができる。（授業への取り組み30%、最終レポート10%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 教材研究、学習指導案作成

内容

小学校で学習するそれぞれの教科等の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第2学年の指導法の科目と関連し、第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1Aクラス：国語（富山）、算数（日出間）、社会（三藤） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1Bクラス：算数（日出間）＜社会（三藤）、国語（富山） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

授業の方法として、それぞれの教科の中で、【レポート】【実技】【プレゼンテーション】等のアクティブ・ラーニングを取り入れる。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前、授業時に示された課題に基づき、教材研究等の準備等を行う。[各授業に対して45分]

【事後学修】学修した知識・技能をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。[各授業に対して45分]

評価方法および評価の基準

小レポート（40%）、授業への取り組み（30%）、最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』。その他、適宜授業の中で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、日出間 均、三藤 あさみ		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員、学校管理職、指導主事等の経験をもつ教員が担当し、質の高い授業作りに不可欠な教材研究の方法を実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択科目であり、小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。前期で、国語・算数・社会について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。「初等国語科教育」「初等算数科教育」「初等社会科教育」との関連を図って学修する。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科等により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科等について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、教材を研究・解釈して授業展開に関連付ける実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目は演習を中心とし、ペアやグループによる協議、学習指導・教材作成を実践的に体験する。【レポート】【実技】【プレゼンテーション】

到達目標

- 1.それぞれの教科等について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究に応用することができる。（小レポート20%、最終レポート10%）
- 2.それぞれの教科等の基本的な学習指導・学習指導案の作成について理解し、工夫して実際の授業をイメージすることができる。（小レポート20%、最終レポート10%）
- 3.教材研究の重要性を自覚し、他者と協働しながら教材研究を進め、その成果を進んで表現することができる。（授業への取り組み30%、最終レポート10%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 教材研究、学習指導案作成

内容

小学校で学習するそれぞれの教科等の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。
学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。
必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第2学年の指導法の科目と関連し、第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1Aクラス：国語（富山）、算数（日出間）、社会（三藤） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1Bクラス：算数（日出間）、社会（三藤）、国語（富山） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

授業の方法として、それぞれの教科の中で、【レポート】【実技】【プレゼンテーション】等のアクティブ・ラーニングを取り入れる。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前、授業時に示された課題に基づき、教材研究等の準備等を行う。[各授業に対して45分]

【事後学修】学修した知識・技能をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。[各授業に対して45分]

評価方法および評価の基準

小レポート（40%）、授業への取り組み（30%）、最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』。その他、適宜授業の中で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教材研究 B		
担当教員名			
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 4 に該当する。

本科目は、教育課程及び指導法に関する科目の 1 つで小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。小学校で学習する各教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究したり、学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深めていく。必要に応じて、実技を交えたり学習指導案や資料を作成したりするなど、実践的な学習形態を用いて、第 3 年次で履修する「授業研究 A ・ B 」の基礎になる科目である。後期は体育・理科・道徳について、それぞれ 5 時間ずつ学ぶ。

科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、教材づくりと実践的な指導のあり方を理解する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- 1) それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。
- 2) それぞれの教科における学習指導案作成と教材づくりの関連性を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

「教材研究 B 」は以下の授業内容を 1 クラスで開講予定。受講者数 50 名以上の場合は 2 クラスとする。

2Aクラス：体育 (山本)、道徳 (綾井)、理科 (塚田) の順番にそれぞれ 5 時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究 A 」で 1A クラスを選択した者は 2A クラスを選択する。

2Bクラス：理科 (塚田)、体育 (山本)、道徳 (綾井) の順番にそれぞれ 5 時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究 A 」、1B クラスを選択した者は 2B クラスを選択する。

1	オリエンテーション、体育 (なわとび運動)	担当：山本
2	体育 (器械運動：マット運動、鉄棒運動)	担当：山本
3	体育 (ベースボール型ボール運動：ティーボール)	担当：山本

4	体育（ゴール型ボール運動：アルティメット）	担当：山本
5	体育（まとめ：体育科教材研究の考え方）	担当：山本
6	道徳（道徳の教材づくりについて）	担当：綾井
7	道徳（低学年の教材づくり：はしの上のおおかみ）	担当：綾井
8	道徳（中学年の教材づくり：絵はがきと切手）	担当：綾井
9	道徳（高学年の教材づくり：埴保己一に関する読み物資料）	担当：綾井
10	道徳（まとめ：道徳の教材研究の考え方）	担当：綾井
11	理科（3年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
12	理科（4年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
13	理科（5年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
14	理科（6年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
15	理科（まとめ：理科教材研究の考え方）	担当：塚田

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス等を資料をもとに、学習指導要領の内容の確認など予習を行う。各授業に対して45分。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理等の振り返りを行う。各授業に対して60分。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（30%）、毎回のリアクションペーパー（30%）、最終レポート等（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年度版）東洋館出版社』。その他、適宜授業の中で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教材研究B		
担当教員名	山本 悟、綾井 桜子、塚田 昭一		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として、各教科の指導経験に深く携わった教員が担当し、指導現場で有用な教材を取り上げながら指導法も踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけ、小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。小学校で学習する各教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究したり、学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。第3年次で履修する「授業研究A・B」の基礎になる科目である。

科目の概要

小学校では教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。本科目では体育科・道徳科・理科について学習指導要領に示された指導事項を学ぶとともに、教材づくりと実践的な指導のあり方を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説に加えて、実技・実験を交えたり学習指導案や資料を作成したりするなど、実践的な学習形態を取り入れた授業を行う。【実技、実験】【グループワーク】【レポート（知識）】

到達目標

- 1) それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。
- 2) それぞれの教科における学習指導案作成と教材づくりの関連性を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4教材研究、学習指導案作成

内容

「教材研究B」は以下に示す授業内容を1クラスで開講する。受講者数50名以上の場合は次のように2クラスとする予定（クラス分け：別途指示）。

- 2Aクラス：理科（塚田）、体育（山本）、道徳（綾井）の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。
 2Bクラス：体育（山本）、道徳（綾井）、理科（塚田）の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1	オリエンテーション、理科（3年生の学習内容と教材づくり）【実験】	担当：塚田
2	理科（4年生の学習内容と教材づくり）【実験】	担当：塚田
3	理科（5年生の学習内容と教材づくり）【実験】	担当：塚田

4	理科（6年生の学習内容と教材づくり）	【実験】	担当：塚田
5	理科（まとめ：理科教材研究の考え方）	【レポート（知識）】	担当：塚田
6	体育（なわとび運動）	【実技】	担当：山本
7	体育（器械運動：マット運動、鉄棒運動）	【実技】	担当：山本
8	体育（ベースボール型ボール運動：ティーボール）	【実技】	担当：山本
9	体育（ゴール型ボール運動：アルティメット）	【実技】	担当：山本
10	体育（まとめ：体育科教材研究の考え方）	【レポート（知識）】	担当：山本
11	道徳（道徳の教材づくりについて）		担当：綾井
12	道徳（低学年の教材づくり：はしの上のおおかみ）	【グループワーク】	担当：綾井
13	道徳（中学年の教材づくり：絵はがきと切手）	【グループワーク】	担当：綾井
14	道徳（高学年の教材づくり：すれちがい）	【グループワーク】	担当：綾井
15	道徳（まとめ：道徳の教材研究の考え方）	【レポート（知識）】	担当：綾井

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめる。各授業に対して60分。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された教材研究に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（40%）、リアクションペーパー等（15%）、レポート等（45%）で評価し、総合60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。

到達目標 1) 授業への参加度（40%/40%） リアクションペーパー等（15%/15%）

到達目標 2) レポート等（45%/45%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポート等はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年度版）東洋館出版社』。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	授業研究A		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員及び指導主事、教科調査官（文部科学省）の経験をもつ教員が担当し、教科「国語」の授業の構想と実施について、模擬授業を中心に具体的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。ここでは、「国語」について説明する。

具体的な学習指導案の作成、模擬授業の実施等により、国語科の授業について実践的に学ぶ。2年必修科目「初等国語科教育」で学修したことを授業として具体化する。

後期「授業研究B」も同様の内容で開講する。

科目の概要

学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として、教材研究、学習指導案の作成。模擬授業の実施、学習評価、映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また、児童に取り組みせる言語活動について、学生自身が体験して理解を深めるようにする。

授業の内容（ALを含む）

本科目では、模擬授業の形式の演習を中心とする。受講者数によりグループまたは個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。授業の様子を記録した映像資料を使って、授業内容について省察する。

【実技】【ディスカッション】【模擬授業】【レポート】

到達目標

- 1.国語科の授業作りの実際の指導について、これまで学習してきたことを応用することができる。（小レポートや作成物20%、模擬授業や発表活動10%）
- 2.よい授業とは何かを考え、授業作りを工夫することができる。（レポートや作成物20%、模擬授業や発表活動20%）
- 3.国語科の指導内容・指導方法に関心をもち、模擬授業に積極的に参加することができる。（小レポートや作成物10%、模擬授業や発表活動20%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5 指導技術、子供の関心・意欲喚起

内容

この授業は、学習指導案の作成と模擬授業を中心に、実践的な学びと理論を結び付けながら学修を進めていく。
具体的には、小学校の授業づくりについて、教材研究に加え、年間指導計画や学習指導案の作成、授業の導入から展開の仕方、子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶ。

15回の講義について、基本的に次のように進めていく。

- 第1回 ガイダンス～今、求められる国語科の授業の構想～
- 第2～4回 「話すこと・聞くこと」又は「書くこと」の教材研究と学習指導案の作成
【ディスカッション】
- 第5～7回 「話すこと・聞くこと」又は「書くこと」の模擬授業と省察 【模擬授業】
- 第8回 教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問についての理解
- 第9～11回 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成
【ディスカッション】
- 第12～14回 「読むこと」の模擬授業と省察 【模擬授業】
- 第15回 模擬授業の振り返り、「教育実習」の授業作りに向けて 【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成など）が必要[各授業に対して60分]。

【事後学修】模擬授業の反省を踏まえて、授業作りについて学びを深める[各授業に対して60分]。

評価方法および評価の基準

小レポートや作成物50%、模擬授業や発表活動への取組の様子50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

模擬授業の前（後）に授業者に個別に指導する時間を設け、疑問点等に対応する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	授業研究 A		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者がその経験を活かし、小学校算数科の授業づくりについて講義する。特に新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を模擬授業の中で紹介する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科専門科目の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけ、学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業作りの要点について模擬授業など実践的な活動を通してここでは算数コースの進め方を解説する。

算数科の授業構成を通し模擬授業中心にすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究(算数)」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

学生が作成した指導計画・指導案を基に模擬授業で発表し、グループワークや討議・討論を取り入れながら体験的に学ぶ。

【模擬授業】【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- 1 教科用図書の内容を十分に理解し、それを活かした学習指導案を作成し、模擬授業を1人で行うことができる。
- 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの工夫をすることができる。
- 3 自己の課題に気付き、学び続けようとする姿勢をもつことができる。

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行い、その模擬授業に対して学生による相互評価を取り入れる。最後に指導講評を行う。

よって、指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1 - 教材研究・学修指導案の作成

内容

学生一人一人が、深い教材研究のもと、学習指導案等を作成し、模擬授業を行う。
また、学生同士の協議を通して、模擬授業の成果と課題を明確にしていく。

模擬授業の中で、以下の項目について指導講評の中でふれていく。

- 基礎基本を確実に身につける指導のあり方
- 個に応じた指導のあり方
- 学力のとらえ方と評価の関係
- 一人一人の学力を向上させる指導のあり方
- 問題解決指導のあり方
- 補充的な学習の指導と教材開発のあり方
- 発展的な学習の指導と教材開発のあり方
- 発展的な学習の指導の実際
- TTのための指導計画の実際
- コース選択とコースガイダンスの実際
- IT機器の活用とプログラミング教育の実際
- 学習カードと評価を生かした指導の実際
- 評価のあり方と工夫の実際
- これからの算数教育
- 振り返りとまとめ

また、教育実習での本案・略案の作り方を予め学び、作成し、模擬授業をする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】指示された単元の指導計画や指導案を各自作成する。（各授業に対して60分）
- 【事後学修】模擬授業後の模擬研究協議会を振り返り、課題についてまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

- 模擬授業担当への取り組み（70%）と筆記試験（30%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。
- 到達目標1．課題提出（50% / 70%）、筆記試験（10% / 30%）
 - 到達目標2．課題提出（10% / 70%）、筆記試験（10% / 30%）
 - 到達目標3．課題提出（10% / 70%）、筆記試験（10% / 30%）

- 【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 東洋館出版
- 【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 明治図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	授業研究 A		
担当教員名	三藤 あさみ、塚田 昭一		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校、中学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に教科指導を行ってきた経験を活かして、効果的な教科指導のあり方について演習を中心に助言、指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の選択科目である。2年次に学んだ「教材研究」についての理解をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業を中心に解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

授業の方法 (ALを含む)

授業に見通しをもち、自身で作成した学習指導案を元にして模擬授業を行った後、児童役の学生と、授業の検討して課題を見出し、授業力を向上させる。

到達目標

- 1 問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解して学習指導案を作成できる。
- 2 各々の教材研究の進め方やその手立てを理解して模擬授業ができる。
- 3 模擬授業の児童役として仲間の授業を支援することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 4 教材研究、学習指導案作成 - 5 指導技術子どもの関心・意欲喚起

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの

接し方(話術、表情)、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は2名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期(授業研究A)

第1週:オリエンテーション:三藤、塚田

第2~8週:社会科に関する授業研究 :三藤

第9~15週:理科に関する授業研究 :塚田

後期(授業研究B)

第1週:オリエンテーション:三藤、塚田

第2~8週:社会科に関する授業研究 :三藤

第9~15週:理科に関する授業研究 :塚田

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時60分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後60分

評価方法および評価の基準

1 2教科それぞれで実施されるレポート、学習指導案 30% 2 模擬授業への準備、取組 10% 3 授業への取り組み(児童役として協力等)10%とし、総合的に60%以上の到達を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。【フィードバック】前回の授業のレポート、振り返りシート等に記された不明な点、疑問点について授業の初めに補足説明を行い、内容理解が深まるように支援する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 日本文教出版(平成29年度版)

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 東洋館出版社(平成29年度版)

【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

2年生「初等社会科」で作成した学習指導案に修正を加えて模擬授業を行います。作成した単元の知識をしっかりと理解しておいてください。(三藤)

理科の模擬授業を行う際には必ず予備実験を行い、安全への配慮を心掛けてください。(塚田)

科目名	授業研究A		
担当教員名			
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として、各教科の指導経験に深く携わった教員が担当し、指導現場で有用な教材を取り上げながら授業づくりに関する指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけ、小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点について模擬授業など実践的な活動を通して学ぶために少人数で授業を展開する。ここでは音楽・図工・体育コースの進め方を解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を実施する。受講生はいずれかのコースを選択して履修する。音楽・図工・体育コースでは、各々の科目に関する指導技術、指導案作成、授業研究の深め方等について、総合的な指導を展開する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説に加えて、実技、学習指導案作成および模擬授業など、実践的な学習形態を取り入れた授業を行う。【実技】【グループワーク】【模擬授業】【レポート（知識）】

到達目標

- 1) 音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを習得する。
- 2) それぞれの教科における指導計画と学習指導案の立案・作成に関する知識を理解するとともに、模擬授業を実践できる基本的な指導技術を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1教育活動の組み立て -4教材研究、学習指導案作成 -5指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

前期の授業研究Aは、体育科（5回）、音楽科（5回）、図工科（5回）の順に授業を実施予定。

1	体育科：実技指導「器械運動」を通して小学校体育科の授業づくりを考える 【実技】	：山本
2	体育科：体育授業の観察と評価、体育科授業実践研究の紹介と発表活動について 【グループワーク】	：山本
3	体育科：小学校体育授業の参観と省察（学外授業の実施）	：山本
4	体育科：実技指導「ボール運動」を通して体育科の授業づくりを考える 【実技】	：山本
5	体育科：体育授業実践研究に関する発表活動と振り返り、総まとめ 【グループワーク】【レポート（知識）】	

	：山本		
6	音楽科：小学校音楽科の授業づくりと教科等間のつながり		：久保田
7	音楽科：歌唱 詩の解釈、指揮、伴奏	【実技】	：久保田
8	音楽科：器楽 楽器の特徴を知る、合奏の指導法	【実技】	：久保田
9	音楽科：鑑賞と音楽づくり 即興的な表現、音楽へと構成する活動	【グループワーク】	：久保田
10	音楽科：模擬授業と省察	【模擬授業】【レポート（知識）】	：久保田
11	図工科：ガイダンス・図画工作科の特性を知る		：水島
12	図工科：図画工作科授業の観察から授業の要点を考える		：水島
13	図工科：図画工作科の指導案と教材研究		：水島
14	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える 水島	【模擬授業】【レポート（知識）】	：
15	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える 水島	【模擬授業】【レポート（知識）】	：

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う内容に関連したテキストや配付資料の講読（60分）。プレゼン活動の準備と発表資料作成（2時間）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理（30分）。授業で紹介した推薦書の自主的講読（30分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（40%）、リアクションペーパー等（15%）、課題作成・発表活動・レポート等（45%）で評価し、総合60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。

到達目標 1) 授業への参加度（40%/40%）リアクションペーパー等（15%/15%）

到達目標 2) 課題作成・発表活動・レポート等（45%/45%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポート等はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度版）」 東洋館出版社

【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	授業研究 B		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員及び指導主事、教科調査官（文部科学省）の経験をもつ教員が担当し、教科「国語」の授業の構想と実施について、模擬授業を中心に具体的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。ここでは、「国語」について説明する。

具体的な学習指導案の作成、模擬授業の実施等により、国語科の授業について実践的に学ぶ。2年必修科目「初等国語科教育」で学修したことを授業として具体化する。

前期「授業研究 B」も同様の内容で開講する。

科目の概要

学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として、教材研究、学習指導案の作成。模擬授業の実施、学習評価、映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また、児童に取り組みせる言語活動について、学生自身が体験して理解を深めるようにする。

授業の内容（ALを含む）

本科目では、模擬授業の形式の演習を中心とする。受講者数によりグループまたは個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。授業の様子を記録した映像資料を使って、授業内容について省察する。

【実技】【ディスカッション】【模擬授業】【レポート】

到達目標

- 1.国語科の授業作りの実際の指導について、これまで学習してきたことを応用することができる。（小レポートや作成物20%、模擬授業や発表活動10%）
- 2.よい授業とは何かを考え、授業作りを工夫することができる。（レポートや作成物20%、模擬授業や発表活動20%）
- 3.国語科の指導内容・指導方法に関心をもち、模擬授業に積極的に参加することができる。（小レポートや作成物10%、模擬授業や発表活動20%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5 指導技術、子供の関心・意欲喚起

内容

この授業は、学習指導案の作成と模擬授業を中心に、実践的な学びと理論を結び付けながら学修を進めていく。
具体的には、小学校の授業づくりについて、教材研究に加え、年間指導計画や学習指導案の作成、授業の導入から展開の仕方、子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶ。

15回の講義について、基本的に次のように進めていく。

- 第1回 ガイダンス～今、求められる国語科の授業の構想～
- 第2～4回 「話すこと・聞くこと」又は「書くこと」の教材研究と学習指導案の作成
【ディスカッション】
- 第5～7回 「話すこと・聞くこと」又は「書くこと」の模擬授業と省察 【模擬授業】
- 第8回 教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問についての理解
- 第9～11回 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成
【ディスカッション】
- 第12～14回 「読むこと」の模擬授業と省察 【模擬授業】
- 第15回 模擬授業の振り返り、「教育実習」の授業作りに向けて 【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成など）が必要[各授業に対して60分]。

【事後学修】模擬授業の反省を踏まえて、授業作りについて学びを深める[各授業に対して60分]。

評価方法および評価の基準

小レポートや作成物50%、模擬授業や発表活動への取組の様子50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

模擬授業の前（後）に授業者に個別に指導する時間を設け、疑問点等に対応する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	授業研究 B		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者がその経験を活かし、小学校算数科の授業づくりについて講義する。特に新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を模擬授業の中で紹介する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科専門科目の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけ、学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業作りの要点について模擬授業など実践的な活動を通してここでは算数コースの進め方を解説する。

算数科の授業構成を通し模擬授業中心にすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究(算数)」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

学生が作成した指導計画・指導案を基に模擬授業で発表し、グループワークや討議・討論を取り入れながら体験的に学ぶ。

【模擬授業】【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- 1 教科用図書の内容を十分に理解し、それを活かした学習指導案を作成し、模擬授業を1人で行うことができる。
- 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの工夫をすることができる。
- 3 自己の課題に気付き、学び続けようとする姿勢をもつことができる。

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行い、その模擬授業に対して学生による相互評価を取り入れる。最後に指導講評を行う。

よって、指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1 - 教材研究・学修指導案の作成

内容

学生一人一人が、深い教材研究のもと、学習指導案等を作成し、模擬授業を行う。
また、学生同士の協議を通して、模擬授業の成果と課題を明確にしていく。

模擬授業の中で、以下の項目について指導講評の中でふれていく。

基礎基本を確実に身につける指導のあり方
個に応じた指導のあり方
学力のとらえ方と評価の関係
一人一人の学力を向上させる指導のあり方
問題解決指導のあり方
補充的な学習の指導と教材開発のあり方
発展的な学習の指導と教材開発のあり方
発展的な学習の指導の実際
TTのための指導計画の実際
コース選択とコースガイダンスの実際
IT機器の活用とプログラミング教育の実際
学習カードと評価を生かした指導の実際
評価のあり方と工夫の実際
これからの算数教育
振り返りとまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】指示された単元の指導計画や指導案を各自作成する。（各授業に対して60分）
- 【事後学修】模擬授業後に模擬研究協議会を振り返り、課題についてまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（70%）と筆記試験（30%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出（50% / 70%）、筆記試験（10% / 30%）
到達目標2．課題提出（10% / 70%）、筆記試験（10% / 30%）
到達目標3．課題提出（10% / 70%）、筆記試験（10% / 30%）

- 【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編 東洋館出版
- 【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 明治図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	授業研究 B		
担当教員名	三藤 あさみ、塚田 昭一		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校、中学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に教科指導を行ってきた経験を活かして、効果的な教科指導の在り方について演習を中心に助言、指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の選択科目である。2年次に学んだ「教材研究」についての理解をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業を中心に解説などを加えながら総合的に学修することをめざす。

授業の方法 (ALを含む)

授業に見通しをもち、自身で作成した学習指導案を元にして模擬授業を行った後、児童役の学生と、授業の検討して課題を見出し、授業力を向上させる。

到達目標

- 1 問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解して学習指導案を作成できる。
- 2 各々の教材研究の進め方やその手立てを理解して模擬授業ができる。
- 3 模擬授業の児童役として仲間の授業を支援することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 4 教材研究、学習指導案作成 - 5 指導技術子どもの関心・意欲喚起

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの

接し方(話術、表情)、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図している。

前期(授業研究A)

- 第1週:オリエンテーション:三藤、塚田
- 第2~8週:社会科に関する授業研究 :三藤
- 第9~15週:理科に関する授業研究 :塚田

後期(授業研究B)

- 第1週:オリエンテーション:三藤、塚田
- 第2~8週:社会科に関する授業研究 :三藤
- 第9~15週:理科に関する授業研究 :塚田

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時60分
- 【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後60分

評価方法および評価の基準

1 2教科それぞれで実施されるレポート、学習指導案 30% 2 模擬授業への準備、取組 10% 3 授業への取り組み(児童役として協力等)10%とし、総合的に60%以上の到達を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。【フィードバック】前回の授業のレポート、振り返りシート等に記された不明な点、疑問点について授業の初めに補足説明を行い、内容理解が深まるように支援する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 日本文教出版(平成29年度版)
- 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 東洋館出版社(平成29年度版)
- 【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

2年生「初等社会科」で作成した学習指導案に修正を加えて模擬授業を行います。作成した単元の知識をしっかりと理解しておいてください。(三藤)

理科の模擬授業を行う際には必ず予備実験を行い、安全への配慮を心掛けてください。(塚田)

科目名	授業研究B		
担当教員名	山本 悟、久保田 葉子、名達 英詔		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として、各教科の指導経験に深く携わった教員が担当し、指導現場で有用な教材を取り上げながら授業づくりに関する指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけ、小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点について模擬授業など実践的な活動を通して学ぶために少人数で授業を展開する。ここでは音楽・図工・体育コースの進め方を解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を実施する。受講生はいずれかのコースを選択して履修する。音楽・図工・体育コースでは、各々の科目に関する指導技術、指導案作成、授業研究の深め方等について、総合的な指導を展開する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説に加えて、実技、学習指導案作成および模擬授業など、実践的な学習形態を取り入れた授業を行う。【実技】【グループワーク】【模擬授業】【レポート（知識）】

到達目標

- 1) 音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを習得する。
- 2) それぞれの教科における指導計画と学習指導案の立案・作成に関する知識を理解するとともに、模擬授業を実践できる基本的な指導技術を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1教育活動の組み立て -4教材研究、学習指導案作成 -5指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

前期の授業研究Aは、体育科（5回）、音楽科（5回）、図工科（5回）の順に授業を実施予定。

1	体育科：実技指導「器械運動」を通して小学校体育科の授業づくりを考える 【実技】	：山本
2	体育科：体育授業の観察と評価、体育科授業実践研究の紹介と発表活動について 【グループワーク】	：山本
3	体育科：小学校体育授業の参観と省察（学外授業の実施）	：山本
4	体育科：実技指導「ボール運動」を通して体育科の授業づくりを考える 【実技】	：山本
5	体育科：体育授業実践研究に関する発表活動と振り返り、総まとめ 【グループワーク】【レポート（知識）】	

	：山本		
6	音楽科：小学校音楽科の授業づくりと教科等間のつながり		：久保田
7	音楽科：歌唱 詩の解釈、指揮、伴奏	【実技】	：久保田
8	音楽科：器楽 楽器の特徴を知る、合奏の指導法	【実技】	：久保田
9	音楽科：鑑賞と音楽づくり 即興的な表現、音楽へと構成する活動	【グループワーク】	：久保田
10	音楽科：模擬授業と省察	【模擬授業】【レポート（知識）】	：久保田
11	図工科：ガイダンス・図画工作科の特性を知る		：名達
12	図工科：図画工作科授業の観察から授業の要点を考える		：名達
13	図工科：図画工作科の指導案と教材研究		：名達
14	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える 名達	【模擬授業】【レポート（知識）】	：
15	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える 名達	【模擬授業】【レポート（知識）】	：

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う内容に関連したテキストや配付資料の講読（60分）。プレゼン活動の準備と発表資料作成（2時間）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理（30分）。授業で紹介した推薦書の自主的講読（30分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（40%）、リアクションペーパー等（15%）、課題作成・発表活動・レポート等（45%）で評価し、総合60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。

到達目標 1) 授業への参加度（40%/40%）リアクションペーパー等（15%/15%）

到達目標 2) 課題作成・発表活動・レポート等（45%/45%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポート等はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度版）」 東洋館出版社

【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	道徳教育 A		
担当教員名	綾井 桜子、大友 みどり		
ナンバリング	KBa424		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校等での実務を経験した教員が経験を活かして、指導案の作成や授業の組み立てについて指導する (第6回~第15回)。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の教育課程及び指導法に関する科目の必修科目である。小学校教諭一種免許状の取得に必要な「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」(必修)の一つである。

科目の概要

「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解するとともに、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。特に、道徳的行為を成り立たせる心情、判断力、実践意欲・態度について理解し、実際に授業を構想し模擬授業を行うなかで、「特別の教科 道徳」(道徳科)における指導の仕方を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

第7回目までは講義を中心とし、第8回~第14回までは、個人およびグループでの指導案作成と模擬授業(グループ)が中心となる。なお、第4回に、前週分の内容について小テストを実施する予定である。【リアクションペーパー】【小テスト】【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

- ・道徳教育の意義や課題について説明することができる。道徳教育の本質や理念について述べるができる。(リアクションペーパー 20%、レポート課題 30%)
- ・小学校における道徳教育と道徳科の果たす役割について正しく理解することができる。(小テスト 20%)
- ・道徳科の授業の進め方を理解し、グループ内で相互に検討を行いながら、学習指導案の作成と模擬授業を行うことができる。(指導案作成ならびに模擬授業 30%)

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 教材研究、学習指導案作成、
- 1 子どもから学び、共に成長する姿勢

内容

本授業は、講義のほか、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら進めていく。

1	道徳の本質；道徳とは【綾井】
2	道徳教育の特質 / 道徳的に行動するとは【綾井】

3	学習指導要領における道徳教育、「特別の教科 道徳」について（目標・価値内容項目）【綾井】
4	道徳科の成立の背景 / 道徳科における主体的・対話的で深い学び【綾井】
5	考え、議論する道徳授業のために 道徳科における問題解決的な学習について【綾井】
6	道徳の授業と教材分析・指導の工夫について 【大友】
7	道徳の授業と教材分析・指導の工夫について 【大友】
8	指導案の作成 ー学習指導案の作成手順【大友】
9	指導案の作成 ー学習指導案の作成【大友】
10	指導案の作成 ー学習指導案の吟味・検討【大友】
11	模擬授業（指導案発表） 【大友】
12	模擬授業（指導案発表） 【大友】
13	模擬授業（指導案発表） 【大友】
14	模擬授業（指導案発表） 【大友・綾井】
15	道徳の評価 / まとめと振り返り【大友・綾井】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】文部科学省ホームページ「道徳教育アーカイブ」を閲覧する。授業前半にて行う小テストの前には、授業内容を復習する。また、第8回～第14回など模擬授業の前には、授業以外にグループ単位で指導案を完成させるほか、十分に準備し練習する。（いずれも各授業つき90分）

【事後学修】『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』について、授業時に扱った箇所を熟読する。ノートのみまとめを行う。（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

レポートおよび課題提出70点、授業への取り組み（リアクションペーパーの内容を含む）30点の合計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、次回以降の授業時に紹介し、コメントを加えるほか、質問に答える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 不要

【推薦書】 荒木寿友 / 藤井基貴 編著『新しい教職教育講座 教職教育編7 道徳教育』ミネルヴァ書房、2019年。
ほか、授業時に適宜紹介する。

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』、文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』ほか授業にて提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	道徳教育 B		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBa424		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択科目である。本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校教諭一種免許状・高等学校一種免許状取得に必要な「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の必修科目である。

科目の概要

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から実施された「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解する。あわせて、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。また、学生相互の意見交換を大切にし、常に自ら思考し、判断し、道徳的に行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

講義のほか、知識の定着をはかるための小テストを前半に実施する。授業では、終盤にリアクションペーパーを記述する (発表も含む)。内容に関する小課題について、グループでのディスカッション、発表を行うことがある。【リアクションペーパー】【小テスト】【ディスカッション】【グループワーク】、【討議・討論】

到達目標

- ・道徳教育の意義や課題、道徳教育の本質や理念について理解し、説明することができる。(リアクションペーパー 15%)、小テスト含む筆記試験 25%)
- ・学校における道徳教育と「道徳科」の授業の果たす役割について理解し、説明することができる。(リアクションペーパー 15%)、(小テスト含む筆記試験 25%)
- ・道徳科教材をもとに、「道徳科」の授業の内容を組み立てることができる。(提出物 20%)

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 学習内容・学習活動の設定
- 1 子どもから学び、共に成長する姿勢

内容

本授業は、講義を中心に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら進めていく。

1	現代社会と道徳
2	道徳とは、道徳的に行動するとは / 道徳教育の特質
3	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標、内容等について
4	道徳科成立の背景、目標、内容

5	学校における道德教育のあゆみ
6	教材の分析について
7	「考え、議論する道德」と対話への道德教育
8	道德科における指導方法と授業について（自我関与的な学習）
9	道德科における指導方法と授業について（問題解決的な学習）
10	学習指導案について
11	道德科における評価について
12	道德性の発達について
13	道德性の発達について
14	モラル・ディスカッション・アプローチについて
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次週に扱う内容に関連する教科書等の該当ページ（授業内にて指示）に目を通しておく（30分）。提出課題については、発表も含めて、十分に準備する（一つの課題につき2時間程度）

【事後学修】文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』（文部科学省ホームページ掲載）について、授業時に扱った箇所を熟読する（30分）。ノートのとまとめを行う（30分）。

評価方法および評価の基準

小テストおよび筆記試験50点、授業への取り組み（リアクションペーパー・提出物）50点の合計100点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週以降の授業内にて紹介し、コメントし、質問等に答える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】荒木寿友／藤井基貴編著『道德教育』ミネルヴァ書房、2019年。

【推薦書】授業時に適宜、紹介する。

【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』、文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編』。ほか授業時に提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別活動A		
担当教員名	狩野 浩二、小池 幸		
ナンバリング	KBa327		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

それぞれ、特別活動について、実践的(小池幸先生は、長年にわたり埼玉県内の学校で実践されてきました。狩野は、4年間の中学校教員、2年間の高校教員としての経験があります)に講じます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法施行規則 (改正前・旧課程) および、児童教育学科に定める、小学校教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものであり、受講者は、必ず履修を完了させる。卒業必修であり、教育職員免許状に定める必修科目である、。

科目の概要

学校教育法施行規則に定められた小学校の「教育課程」である「特別活動」は、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の4つの内容で構成されており、これらを、目標である「集団や社会の形成者……」を基に、「為すことによって学ぶ」ことを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点からの資質・能力の育成を、児童の発達段階に応じて身に付けていく教育活動である。

授業の方法 (ALを含む)

講義を主とし、グループ活動などを適宜取り入れる。リアクションペーパーの作成により、授業前学修や授業の理解度を確認する。

到達目標

ア 特別活動の3つの特質である「望ましい集団活動」「自主的活動」「実践的活動」について理解するとともに、個人や集団に対して、教員としての心構えや適切な係わり方を身に付ける。

イ 「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の各内容を理解するとともに、その実践的な指導方法を身に付ける。

ウ 4つの内容展開の中核である「合意形成」及び「意思決定」に至る2つの「話し合い」の方法を理解するとともに、その実践的な指導力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1「カリキュラムの創造」、 -2「学級経営」、 -4「学習指導案づくり」、 -2「校務運営」に深く関わる科目である。

内容

本授業は、グループワーク・ディスカッション等を中心に展開する。また、模擬授業や場面指導等も設定し、「自ら気づき、考え、実行する」個々の積極的な係わりも具現化する。授業への参加は、受講者一人一人の「意見・考え・願い」等の発表が絶対条件になる。

1	授業の内容、方向性に関するオリエンテーション及び教育課程における特別活動の位置付け（小池）
2	特別活動の目標と4つの内容（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）の係わり（狩野）
3	特別活動と学級経営（狩野）
4	教育に関する今日的な課題（狩野）
5	特別活動の基盤となる学級活動における2つの話し合い方法（合意形成と意思決定）の実際と評価の在り方（小池）
6	異年齢による集団活動を通して、学校生活の向上と充実を図る児童会活動の実際と評価の在り方（小池）
7	異年齢による集団活動を通して、共通の興味・関心を追求するクラブ活動の実際と評価の在り方（小池）
8	全校や学年の児童による体験的な活動を通して、豊かな学校生活を彩る学校行事の実際と評価の在り方（小池）
9	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その1（指導案作成手順と評価）（小池）
10	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その2（グループワークを中心）（小池）
11	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その3（グループワークを中心）（小池）
12	指導案に基づいた学級活動（1）の模擬授業発表会及び全体でのディスカッションによる反省会（小池）
13	模擬授業実施に向けた学級活動（2）（3）の指導案作成その1（指導案作成手順と評価）（小池）
14	模擬授業実施に向けた学級活動（2）（3）の指導案作成その2（グループワークを中心）（小池）
15	指導案に基づいた学級活動（2）（3）の模擬授業発表会及び全体でのディスカッションによる反省会、本授業の総まとめ（小池）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】本時の授業内容の教科書等の該当ページを熟読し、要点をまとめるとともに、自分の意見や思い、願い等を別枠に自分の言葉で記し、課題レポートを作成しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】本時の学習課題を自分の言葉でまとめるとともに、授業中に指示されたホームページの閲覧や、関係するキーワードの図書館等での確実な調査を行っておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（基本概念の理解、協働的な学修等の確認）、毎回のリアクションペーパー・課題レポート等30%（実践的指導力の確認）、筆記試験40%（基本概念の理解、教師としての資質や能力の確認）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、事前に一つ一つ確認し、本時最初に返却するとともに、全体の共通課題となった質問や疑問を解決した後、授業展開を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』 政府刊行物 （東洋館出版社）

【推薦書】O・F・ボルノウ著 森昭・岡田渥美訳 『教育を支えるもの』 黎明書房（2006年）

【参考図書】文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 政府刊行物（東洋館出版社）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別活動 B		
担当教員名			
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科のDP1・2・3・4に該当する。本科目は、教育職員免許法施行規則（改正前・旧課程）に定める、中学校教諭・高等学校教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものであるが、受講者は、選択科目として履修できる。

科目の概要

学校教育法施行規則に定められた中・高等学校の「教育課程」である「特別活動」は、学級活動（高等学校はホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事の3つの内容で構成され、これらを、目標である「集団や社会の形成者・・・」を基に、「為すことによって学ぶ」ことを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点からの資質・能力を、生徒に身に付けていく教育活動である。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

ア 特別活動の3つの特質である「望ましい集団活動」「自主的活動」「実践的活動」の理解と、個人や集団に対して、教員としての心構えや適切な係わり方を身に付ける。

イ 「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」の各内容の理解と実践的な指導方法を身に付ける。

ウ 3つの内容展開の中核である「合意形成」及び「意思決定」に至る2つの「話し合い」の方法を理解するとともに、その実践的な指導力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本授業は、グループワーク・ディスカッション等を中心に展開する。また、模擬授業や場面指導等も設定し、「自ら気付き、考え、実行する」個々の積極的な係わりも具現化する。授業への参加は、受講者一人一人の「意見・考え・願い」等の発表が絶対条件になる。

中学校、高等学校とも3つの内容で構成されているが、中学校では学級活動と呼称し、高等学校ではホームルーム活動と呼称する。本授業では、学級活動・ホームルーム活動は学級活動として表記する。

1	授業の内容、方向性に関するオリエンテーション及び教育課程における特別活動の位置付け
2	特別活動の目標と3つの内容（学級活動・生徒会活動・学校行事）の係わり
3	特別活動における2つの話し合い方法（合意形成・意思決定に至る話し合い）と学級活動の関連

4	生徒会活動・学校行事の指導と評価の在り方
5	模擬授業実施に向けた学級活動(1)の指導案作成その1(指導案作成手順と評価)
6	模擬授業実施に向けた学級活動(1)の指導案作成その2(グループワークを中心)
7	指導案に基づいた学級活動(1)の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
8	学級活動(2)の「ウ」心身ともに健康で安全な生活態度の形成の内容理解
9	学級活動(2)の「エ」食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成の内容理解
10	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その1(指導案作成手順と評価)
11	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その2(グループワークを中心)
12	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その3(グループワークを中心)
13	指導案に基づいた学級活動(2)(3)の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
14	特別活動と学級経営・人間関係形成・社会参画・自己実現及び3つの学びの係わり
15	今日的教育課題に係わる特別活動の必要性和重要性

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】本時の授業内容の教科書等の該当ページを熟読し、要点をまとめるとともに、自分の意見や思い、願い等を別枠に自分の言葉で記し、課題レポートを作成しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】本時の学習課題を自分の言葉でまとめるとともに、授業中に指示されたホームページの閲覧や、関係するキーワードの図書館等での確実な調査を行っておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、毎回のリアクションペーパー・課題レポート等30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、事前に一つ一つ確認し、本時最初に返却するとともに、全体の共通課題となった質問や疑問を解決した後、授業展開を図る。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物(東洋館出版社)

文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物(東山書房)

【推薦書】O・F・ボルノウ著 森昭・岡田渥美訳『教育を支えるもの』 黎明書房(2006年)

【参考図書】文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 政府刊行物(東山書房)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育方法A		
担当教員名	狩野 浩二、安達 一寿		
ナンバリング	KBa329		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

確かな実践力について、経験(87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師)を元に講じます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

教育職員免許法施行規則および、児童教育学科で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目（卒業、免許必修）である。同施行規則で定められた科目には、「教育課程および指導法に関する科目」に位置づけられ、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっている。

本科目では、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考え、その原理や原則について追究するものである。

講義を主体とし、適宜、学修票の執筆を通して、授業前学修、授業中の理解度を確認する。

- ・教育の方法・技術の基礎概念を理解する。
- ・授業における子ども理解に関する基礎理論を理解する。
- ・授業による子どもの変革に関する基礎理論を理解する。

ディプロマポリシー（学授与方針） -4「学習指導案づくり」、 -5「確かな指導法」、 -2「確かな教師観」に深く関係する科目である。

内容

アクティブラーニングとして、討論、省察、学生の発表、リアクションペーパーとその反映を図ります。

- 1 ガイダンス、教育方法論の課題（狩野）
- 2 授業づくりとは（狩野）
- 3 教育の方法・技術とは（狩野）
- 4 子どもに求められる資質・能力と教育の方法・技術（狩野）
- 5 子どもの学びと授業（狩野）
- 6 授業の構想・計画と教材研究（狩野）
- 7 授業の展開と探究型学習（狩野）
- 8 学習評価の意味と方法（安達）
- 9 授業研究と授業づくり（狩野）
- 10 教材づくり・教材研究と授業づくり ICTの活用（安達）
- 11 学習指導案と授業実践（安達）
- 12 ICTを活用した授業づくり（安達）
- 13 授業づくりを通じた教師教育の可能性（狩野）

14 これからの時代の授業づくり（安達）

15 まとめ（狩野）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを読み、教育の方法・技術とは何かをまとめ、疑問点を析出し、講義に臨みます（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を振り返り、あらためて教育の方法・技術について考えをノートに整理します（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

評価は、授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%（教師観の確立、主体的・能動的な学修態度の確認）、課題の提出状況と達成度を90%（基礎概念・理論に関する理解度確認）とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。

【フィードバック】各授業ごとに、学修票を提出し、その内容を踏まえて、次回授業時に、内容についてコメントし、内容の定着を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】狩野浩二『教育の方法・技術 新しい時代の授業づくりに向けて』ジダイ社（教室で紹介します）、学習指導要領

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育方法B		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿		
ナンバリング	KBa330		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」の必修科目である。中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目である。

科目の概要

本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

授業の方法 (ALを含む)

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

ディプロマ・ポリシーとの関係

-4 子ども理解 -5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

第1回：教育の方法・技術に関わる基礎概念(安達・星野)

第2回：教育方法の理論と歴史(星野)

第3回：学習理論の基礎(星野)

第4回：学習理論の展開(星野)

第5回：カリキュラム開発と類型(星野)

- 第6回：教育評価の理論(星野)
- 第7回：教育課程と学習指導要領(安達)
- 第8回：授業における教師の役割と指導技術(安達)
- 第9回：教授組織と学習組織(安達)
- 第10回：授業設計の手順と教材(安達)
- 第11回：教育メディアの活用(安達)
- 第12回：ICTを活用した授業設計(安達)
- 第13回：情報活用能力と情報モラルの指導(安達)
- 第14回：総合課題(安達)
- 第15回：まとめ(安達・星野)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る(2時間)
- 【事後学修】総合課題の見直し(1時間)

評価方法および評価の基準

- 「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」
 - 1 授業ごとの課題提出(30%)
 - 2 最終試験の達成度(70%)
- 「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」
 - 1 授業ごとの課題提出(30%)
 - 2 最終試験の達成度(70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
特に定めない

- 【参考書・推薦書】
 - ・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化
 - ・松田稔樹他著 学習者とともに取り組む授業改善 学文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容総論		
担当教員名	小谷 直路		
ナンバリング	KBa331		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 4 に該当する。

幼稚園教諭免許取得の必修科目である。幼稚園教育における指導や指導計画の考え方を理解し、実践に必要な基本的な知識・技能を身に付ける科目である。

科目の概要

保育の展開を考えるにあたり理解が必要な基本的な事項について学んでいく。具体的な保育場面での事例を取り上げ、保育者としてどのように幼児の発達を捉え、どのように保育内容を精選し、どのように指導をすすめるかについて検討する。また、保育の実践力の向上につながるように、学生同士で協議したり、自らの考えを文章化したりすることにも取り組む。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・園生活全体を通して総合的に指導するという幼稚園教育における指導の考え方を理解する。
- ・幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。
- ・幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	保育の基本（1）社会とのつながりをふまえた保育の在り方
2	保育の基本（2）幼稚園教育要領における保育内容の考え方
3	保育の基本（3）遊びを通した総合的な指導
4	保育の基本（4）一人一人に応じた指導

5	保育と計画（1）幼児理解に基づいた保育の展開
6	保育と計画（2）指導計画作成の考え方
7	保育と計画（3）指導計画作成の実際
8	保育と計画（4）園行事の意味と指導の実際
9	保育における保育者の役割（1）環境の構成
10	保育における保育者の役割（2）教材研究
11	保育における保育者の役割（3）記録の意義と実際
12	保育における保育者の役割（4）幼児理解と指導の評価
13	今日的課題をふまえた保育内容（1）保育内容の史的変遷
14	今日的課題をふまえた保育内容（2）小学校教育との接続
15	今日的課題をふまえた保育内容（3）遊びの意味

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う内容に関連した資料検索、発表準備(各授業に対して1時間)

【事後学修】授業のまとめ、提示する課題作成(各授業に対して1時間)

評価方法および評価の基準

最終レポート提出20%、授業への参加度・取組40%、毎時リアクションペーパー（小レポート）40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回のリアクションペーパーの内容に応答し、理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省 幼稚園教育指導要領(2017)

文部科学省 幼稚園教育要領解説(2018)

【参考図書】

授業の中で、適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	渡部 美佳		
ナンバリング	KBa332		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択科目である。また、本科目では幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、保育における「環境」の重要性を学ぶ。

科目の概要

乳幼児期の発達を踏まえ、保育における身近な「環境」との豊かな関わりを育むための指導内容と援助の在り方について学習する。

授業の方法（ALを含む）

本授業は講義を中心に、グループワーク・フィールドワーク・プレゼンテーション等を取り入れた授業を行う。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】【フィールドワーク】

到達目標

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」のねらい及び内容を説明することができる。
- ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な場면을想定した保育を展開する方法を工夫することができる。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等との繋がりを理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -5 指導法の工夫

内容

1	領域「環境」とは（１）？ 幼児教育の基本と保育内容「環境」について？
2	領域「環境」とは（２）？ 子どもの発達と領域「環境」について？
3	身近な環境を知る（１）？ 身近な「植物」について？ 【フィールドワーク】
4	身近な環境を知る（２）？ 身近な「動物」について？ 【プレゼンテーション】
5	身近な環境と保育の実際

6	ものとのかかわりと保育の実際
7	標識・文字等とのかかわりと保育の実際【グループワーク】
8	数量・図形等とのかかわりと保育の実際
9	園外環境とのかかわりと保育の実際
10	領域「環境」に関わる指導案の作成
11	身近な施設と保育の実際
12	年中行事と保育の実際【模擬授業】
13	保育と教育の連続性
14	環境に関わる現代的課題・保育実践の動向
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の指定された箇所を読み、授業に臨む。[各授業に対して60分]

【事後学習】授業を振り返り、理解できたことや今後に生かせる内容などをまとめ、復習ノートを作成する。授業中に指示した課題をまとめる。[各授業に対して60分]

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（30%）、期末レポート（70%）で評価し、60点以上を合格とする。

- ・到達目標1. 課題提出（10%, 30%）、期末レポート（30%, 70%）
- ・到達目標2. 課題提出（10%, 30%）、期末レポート（15%, 70%）
- ・到達目標3. 課題提出（10%, 30%）、期末レポート（25%, 70%）

【フィードバック】提出された課題・レポートにはコメントを付し、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大澤力編著 「新版 実践保育内容シリーズ「環境」」 一藝社

【参考図書】教室で紹介

【推薦書】教室で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	森田 満理子		
ナンバリング	KBa333		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園教員として保育に当たった経験から、理論を実践に引き付けて授業を行います。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択科目である。幼稚園教諭免許の取得のための科目である。

科目の概要

社会の中で主体として生きていくうえで基本となる、自立、人とかかわる意欲と人間関係を調整する力、よろこびをもって集団生活をすすめる力等を育む保育について、事例考察や模擬保育の実践を通して学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義とともに、テキストや配布資料の事例の事前学習をもとにした討論・討議、DVDの視聴、教材研究と指導案の作成についての学習などを組みあわせて行う。【討論・討議】【ロールプレイ】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

- （１）領域「人間関係」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。
- （２）主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、乳幼児理解に基づいて保育を構想する方法を身に付ける。
- （３）幼児の発達の特性を踏まえた教材や環境構成の重要性を理解し、指導案を作成し、模擬保育やその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

「 - 5 指導法の工夫」

内容

DVDの視聴やテキストの事例については、グループワーク、ディスカッション、発表を通して理解を深める。

1	幼児教育の基本と領域「人間関係」
2	好きな人との信頼関係を基盤に育つ

3	自我の芽生え
4	園生活に適応するとは【討議・討論】
5	教師やいろいろな友達のいる環境、5回までのまとめ【レポート(知識)】
6	簡単なルールのある遊び (実際に遊んで感じ・考えよう)【ロールプレイ】
7	道徳性・規範意識の芽ばえ
8	自己発揮と自己抑制
9	折り合う
10	集団生活や遊びをみんなとすすめる (当番活動の事例を通して考える)【討議・討論】
11	協同的な活動における体験・学びの芽生え
12	幼児とともに協同的な活動を創造・展開する保育者の役割(事例を手がかりに)【討議・討論】
13	園内の関係の充実から地域へ 地域で暮らす人々・専門家との出会い、まとめ【レポート(表現)】
14	ルールのある遊びについての教材研究, 情報機器及び教材の活用【ロールプレイ】【制作】
15	ルールのある遊びについての指導案の作成と評価, 情報機器及び教材の活用【ロールプレイ】【制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う内容部分(指定箇所)を講読し、自分なりの考えをもって授業に参加する。演習等で発表する場合は、その準備をする。(1時間~2時間)

【事後学修】授業で学んだ子ども同士のかかわりや保育者の援助についてどのように受け止めたか、また、自分が保育者の立場だったらどのように援助するかなどについて考えをまとめる。(30分)。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)(2)について、授業中の取り組みと授業後のレポート(知識)による評価(40%)、(3)について指導案の作成と模擬保育による評価(20%)、(1)(2)(3)について最終レポートによる評価(40%)とし、60点以上を合格とする。

レポート(知識)は授業内にフィードバックする。レポート(表現)は、授業終了後に返却する形でフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】無藤隆・古賀松香 実践事例から学ぶ保育内容 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」- 乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは - 北大路書房 2016

【推薦書】【参考図書】授業の中で、適宜、図書・資料を紹介する幼稚園教育要領(平成29年3月告示、文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示、厚生労働省)

今井和子監修 0・1・2歳児の担任になったら読む本 育ちの理解と指導計画【改訂版】 小学館 2019

加藤繁美編著 年齢別 保育研究 5歳児の協同的学びと対話的保育 ひとなる書房 2005

佐伯胖編著 共感 育ち合う保育のなかで ミネルヴァ書房 2007

文部科学省特別選定DVD 3年間の保育記録 岩波映像株式会社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

事前に読むよう指示したテキストや配布資料については、必ずよく読んでください。

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa334		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の必修科目であり、幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目である。この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容と指導法について学修する。子どもを受容し安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かってほしいとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。また、絵本の読み聞かせと「おはなし会」の計画と実施に取り組む。

授業の方法

授業は、領域「言葉」の内容に関する講義と、その内容を実践に生かしていくための「読み聞かせ」「おはなし会の企画」等の演習、また、実際の保育の場面に即した事例研究等を組わせて進める。

【実技】【事例研究】【グループワーク】

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解し、応用する。（小レポート及び演習等への参加状況25%、最終レポート10%）
2. 絵本等の児童文化財を用いて、「読み聞かせ」や「おはなし会」を工夫して実践する。（小レポート及び演習等への参加状況25%、最終レポート10%）
3. 自身の言葉遣いに関心を持ち、グループワーク等で進んでコミュニケーションする。（小レポート及び演習等への参加状況25%、最終レポート5%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5 指導法の工夫

内容

1	ガイダンス～幼児教育の目的と領域「言葉」～
2	幼児教育の基本 【事例研究】
3	領域「言葉」の内容の整理
4	乳幼児期の言葉の発達,「ブックスタート」の本を読む 【レポート】
5	絵本の読み方,選び方
6	絵本の読み聞かせの基本と「おはなし会」
7	読み聞かせの実際,「おはなし会」の計画 【実技】
8	「おはなし会」の計画と練習 【グループワーク】
9	「おはなし会」の実施 【実技】
10	「おはなし会」の実施 【実技】
11	感情表現と言葉～内言と外言～ 【事例研究】
12	文字との出会い,「園だより」の作成 【実技】
13	幼稚園・保育所・小学校の連携～「スタート・カリキュラム」について知る～
14	「おはなし会」と「読み聞かせ」の省察 記録映像の分析 【ICT】
15	まとめ～乳幼児の言葉と保育者の役割～ 【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】演習等に関して、事前の予習・準備が必要[各授業に対して45分]。

【事後学修】返却した小レポート等に基づいて復習する[各授業に対して45分]。

評価方法および評価の基準

毎回の小レポート及び演習等への参加状況75%,最終的な論述レポート25%とし,総合評価60点以上を合格とする。

小レポートの中に質疑等を含め,次回の授業で回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『幼稚園教育要領(平成29年告示)解説』

【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	山本 悟、井上 由利子		
ナンバリング	KBa335		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園教員として幼児の健康教育に携わった経験を持つ教員が担当し、幼稚園現場の実際の様子や実態に応じた学びを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づく幼稚園教諭免許取得の選択必修科目であり、幼稚園教育要領の領域「健康」に関する専門的な知識と実践的指導力を身に付けることを目的としている。

科目の概要

幼稚園教育における健康・安全に必要な基本的な生活習慣や健康づくり、および幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解する。指導法を学ぶ場として、受講者全員に模擬保育を体験させる。

授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説に加えて、ゲームや手遊び歌の実技指導、グループに模擬保育と振り返り活動などの実践的な授業を行う。【模擬授業】【実技】【レポート(知識)】

到達目標

- 1) 幼児期の健康、生活習慣の指導に関する知識や技能を身に付ける。
- 2) 幼児期の運動の重要性を理解し、指導の方法を考えることができる。
- 3) 健康に関する教材や保育の学習指導案作成、模擬保育の体験を通して指導法の基本を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1教育活動の組み立て -5指導法の工夫

内容

1	幼稚園教育要領の領域「健康」について	: 山本、井上
2	幼児期の健康的な生活について	: 井上
3	子どもの心身の発育・発達とその特性	: 井上
4	模擬保育の構想（模擬保育の進め方と指導計画立案の理解）	: 山本、井上
5	模擬保育の構想（子どもの運動遊びの理解～ワークショップ）	【実技】: 井上、山本
6	幼稚園における実際活動の解説（1）: 運動遊び	: 井上
7	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	【模擬授業】【レポート(知識)】: 山本、井上
8	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	【模擬授業】【レポート(知識)】: 山本、井上

9	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	【模擬授業】【レポート（知識）】	：山本、井上
10	幼稚園における実際活動の解説（2）：健康指導	～模擬保育の振り返り	：井上
11	子どもの生活リズムに関する指導法（模擬保育）	【模擬授業】【レポート（知識）】	：山本、井上
12	子どもの保健に関する指導法（模擬保育）	【模擬授業】【レポート（知識）】	：山本、井上
13	子どもの安全に関する指導法（模擬保育）	【模擬授業】【レポート（知識）】	：山本、井上
14	幼稚園における実際活動の解説（3）：安全指導と避難訓練	～模擬保育の振り返り	：井上
15	子どもの救急法、まとめ	【実技】	：山本、井上

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「幼稚園教育要領解説」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。模擬授業の指導案作成（90分×1～2回）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、模擬保育発表活動と振り返りレポート40%、まとめのレポート30%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度（10%/30%）まとめのレポート（10%/30%）

到達目標 2) 授業への参加度（10%/30%）まとめのレポート（10%/30%）

到達目標 3) 授業への参加度（10%/30%）模擬保育と振り返り（40%/40%）まとめのレポート（10%/30%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館(平成29年度版)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBa336		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園・保育園・小学校で実際に教えていた音楽リズムの経験をもとに、子どもの発達の様子や導入方法などを教える。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択科目である。

児童教育学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

幼児期における音楽教育の必要性和切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動や、小学校の低学年の音楽活動についても学ぶことを目的とする。

科目の概要

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる簡単な伴奏法も学ぶ。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

わらべ歌、子どもの歌を使ったリズム遊び、音楽あそび、運動会や発表会での作品の振り付けなど、既存のものや、自分で考案したものなどを指導できるようになることを学修目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 教育活動の組み立て - 5 指導法の工夫

内容

この講義は、毎回子どもの歌や童謡に合わせて手遊びをしたり、歌ったり動いたり遊んだりする指導法を学ぶ。簡単な和音を使い、歌いながら伴奏できるよう弾く実技も学ぶ。

小学校の低学年の教科書に掲載の曲も取り上げる。

(1)前半の50分

歌いながら簡単な伴奏ができる方法を勉強する。子どもの歌を季節・行事・生活・あそびなどのジャンルに分け、その中から課題を2～3曲選曲し、子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

簡単な和音での編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

(2)後半40分

わらべ歌・手遊び・リズム遊び・リズムダンスなどを中心として2～3曲動く。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップ・ギャロップなどの符点のリズムの捉え方

フレーズごとの流れるリズムの捉え方

縦乗りのリズムの捉え方

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う課題曲2～3曲の楽譜を読譜し練習する。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業の振り返りおよび配布資料の整理。(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

毎回の課題(40%)と発表(50%)、通常の授業への参加

学習理解を度・取り組み(10%)により評価を行い、60%を以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

・年間とおして!毎日やくだつ!保育ベスト30あそび(清水玲子 キングレコード)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KBa337		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1)子どもの興味関心と深く関わる「人的、物的、自然や社会の事象」をいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野におきながら理解できる。
- (2)身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくり、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開について構想できる。
- (3)生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児に共感し、造形を通して認め励ます保育のあり方を考え、自ら実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5指導法の工夫

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考えます。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行います。

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

1	プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
2	自然との出会い-1- 身近な自然物(葉や枝など)を活かして 感じる【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】
3	自然との出会い-2- 身近な自然物(葉や枝など)を活かして 切る、割る等【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
4	自然との出会い-3- 身近な自然物(葉や枝など)を活かして 結ぶ、つなげる等【実技】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
5	自然との出会い-4- 身近な自然物(葉や枝など)を活かして 組み合わせる【実技】【レポート(知識)】【討議・討論】【レポート(表現)】【創作・制作】
6	自然との出会い-5- 身近な自然物(葉や枝など)を活かして 活かす【実技】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
7	ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作・制作】
8	ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
9	ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
10	ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料 色水遊びを活かして【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
11	ものやひととの出会い-5- 光とのかかわり 透明な素材から【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
12	ものやひととの出会い-6- 布とのかかわり 大きな布から【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
13	ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
14	ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】
15	エピローグ 全体の振り返りと総括【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり,教科書等で確認すること。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどを自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブックにより到達目標(1)(2)を評価する(60%)。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標(3)を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業

内において振り返りを行う。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』 一藝社
磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、子どもの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技が中心となるので、作業しやすい服装を心がけてください。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなどの環境設定等に気を配りながら活動しましょう。

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KBa337		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1)子どもの興味関心と深く関わる「人的、物的、自然や社会の事象」をいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野におきながら理解できる。
- (2)身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくり、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開について構想できる。
- (3)生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児に共感し、造形を通して認め励ます保育のあり方を考え、自ら実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5指導法の工夫

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考えます。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行います。

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

1	プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
2	自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】
3	自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
4	自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等【実技】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
5	自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる【実技】【レポート(知識)】【討議・討論】【レポート(表現)】【創作・制作】
6	自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす【実技】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
7	ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【創作・制作】
8	ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
9	ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
10	ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料 色水遊びを活かして【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【創作・制作】
11	ものやひととの出会い-5- 光とのかかわり 透明な素材から【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
12	ものやひととの出会い-6- 布とのかかわり 大きな布から【実技】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
13	ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】
14	ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】
15	エピローグ 全体の振り返りと総括【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】【創作・制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり，教科書等で確認すること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどを自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブックにより到達目標（1）（2）を評価する（60%）。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標（3）を評価する

(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社
磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、子どもの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技が中心となるので、作業しやすい服装を心がけてください。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなどの環境設定等に気を配りながら活動しましょう。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	岡本 明博		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床発達心理士や児童指導員として、児童発達支援センターで障害のある児童の指導に携わった経験を持った教員が担当し、様々な障害等により特別な支援を必要とする児童の理解と支援について事例を取り入れながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の教職課程及び指導法に関する科目の必修科目で、教員免許状取得のための必修科目である。通常の学級に6.5%の割合で在籍するとされている「学習障害（LD）」、「注意欠陥多動性障害（AD/HD）」、「自閉スペクトラム症（ASD）」等の児童に対し、適切かつ効果的に支援する力を身に付けることが求められる。

科目の概要

LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び認知特性についてより具体的に学ぶとともに、適切かつ効果的な指導法を身に付け、個々の教育的ニーズに応えることができるような資質・能力を養う。授業では、疑似体験等を通して児童生徒の辛さを体験した上で、実際の授業に活かせるようなアセスメント、個別の指導計画の作成、支援方法、関係機関との連携等について実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、演習による内容を中心として、グループによる討議やディスカッションを取り入れた授業を行う【討議・討論】。

到達目標

1. LD・AD/HD・ASD等の障害特性について説明することができる。
2. アセスメントにより認知特性を把握し、支援策を述べることができる。
3. 個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとにした、関係機関との連携の在り方を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 教育活動の組み立て、 -5 指導法の工夫

内容

この授業は講義を基本に、「LD・ADHD等心理的疑似体験プログラム」等を通して、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	学習障害（LD）の理解【討議・討論】
---	--------------------

2	注意欠陥多動性障害（AD/HD）の理解【討議・討論】
3	自閉スペクトラム症（ASD）の理解【討議・討論】
4	アセスメントの基礎【討議・討論】
5	心理アセスメント【討議・討論】
6	読み・書きの指導【討議・討論】
7	多層指導モデル【討議・討論】
8	算数の指導～計算する・推論する～【討議・討論】
9	行動の指導～行動の三分割：ペアレント・トレーニングの手法を生かして～【討議・討論】
10	社会性の指導～ソーシャル・スキル・トレーニング～【討議・討論】
11	通常の学級における支援～学びのユニバーサルデザイン（UDL）～【討議・討論】
12	学校における支援体制～ケース検討会～【討議・討論】
13	学校における支援体制～個別の指導計画の作成～【討議・討論】
14	保護者との連携・地域との連携【討議・討論】
15	社会的自立・就労の問題・まとめ【討議・討論】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法等を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し60分）

【事後学習】授業については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解を深められるよう整理するとともに、インターンシップ等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（毎回のリアクションペーパーを含む）30%、レポート試験による評価70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

到達目標1.授業への参加態度（10%/30%）、レポート試験（30%/70%）

到達目標2.授業への参加態度（10%/30%）、レポート試験（30%/70%）

到達目標3.授業への参加態度（10%/30%）、レポート試験（10%/70%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。レポート試験後に、ポイントについて授業の中で解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

【推薦書】 「S.E.N.S養成セミナー特別支援教育の理論と実践・・・（第3版）」金剛出版

【参考図書】 授業の中で、その都度推薦図書を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	岡本 明博		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床発達心理士や児童指導員として、児童発達支援センターで障害のある児童の指導に携わった経験を持った教員が担当し、様々な障害等により特別な支援を必要とする児童の理解と支援について事例を取り入れながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の教職課程及び指導法に関する科目の必修科目で、教員免許状取得のための必修科目である。通常の学級に6.5%の割合で在籍するとされている「学習障害（LD）」、「注意欠陥多動性障害（AD/HD）」、「自閉スペクトラム症（ASD）」等の児童に対し、適切かつ効果的に支援する力を身に付けることが求められる。

科目の概要

LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び認知特性についてより具体的に学ぶとともに、適切かつ効果的な指導法を身に付け、個々の教育的ニーズに応えることができるような資質・能力を養う。授業では、疑似体験等を通して児童生徒の辛さを体験した上で、実際の授業に活かせるようなアセスメント、個別の指導計画の作成、支援方法、関係機関との連携等について実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、演習による内容を中心として、グループによる討議やディスカッションを取り入れた授業を行う【討議・討論】。

到達目標

1. LD・AD/HD・ASD等の障害特性について説明することができる。
2. アセスメントにより認知特性を把握し、支援策を述べることができる。
3. 個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとにした、関係機関との連携の在り方を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 教育活動の組み立て、 -5 指導法の工夫

内容

この授業は講義を基本に、「LD・ADHD等心理的疑似体験プログラム」等を通して、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	学習障害（LD）の理解【討議・討論】
---	--------------------

2	注意欠陥多動性障害（AD/HD）の理解【討議・討論】
3	自閉スペクトラム症（ASD）の理解【討議・討論】
4	アセスメントの基礎【討議・討論】
5	心理アセスメント【討議・討論】
6	読み・書きの指導【討議・討論】
7	多層指導モデル【討議・討論】
8	算数の指導～計算する・推論する～【討議・討論】
9	行動の指導～行動の三分割：ペアレント・トレーニングの手法を生かして～【討議・討論】
10	社会性の指導～ソーシャル・スキル・トレーニング～【討議・討論】
11	通常の学級における支援～学びのユニバーサルデザイン（UDL）～【討議・討論】
12	学校における支援体制～ケース検討会～【討議・討論】
13	学校における支援体制～個別の指導計画の作成～【討議・討論】
14	保護者との連携・地域との連携【討議・討論】
15	社会的自立・就労の問題・まとめ【討議・討論】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法等を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し60分）

【事後学習】授業については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解を深められるよう整理するとともに、学校インターンシップ等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（毎回のリアクションペーパーを含む）30%、レポート試験による評価70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

到達目標1.授業への参加態度（10%/30%）、レポート試験（30%/70%）

到達目標2.授業への参加態度（10%/30%）、レポート試験（30%/70%）

到達目標3.授業への参加態度（10%/30%）、レポート試験（10%/70%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。レポート試験後に、ポイントについて授業の中で解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

【推薦書】 「S.E.N.S養成セミナー特別支援教育の理論と実践・・・（第3版）」金剛出版

【参考図書】 授業の中で、その都度推薦図書を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	知的障害教育課程論		
担当教員名	中西 郁、岡本 明博		
ナンバリング	KBa439		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

特別支援学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に知的障害特別支援学校で指導を行ってきた経験を活かして、知的障害教育の教育課程の実践等について講義を中心に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の「特別支援教育領域に関する科目」に該当する。知的障害特別支援学校の教育課程の構造や知的障害教育における領域別の指導、教科別の指導、各教科等を合わせた指導の意義を理解し、学習指導案を作成できる知識と技能を学修する。

科目の概要

既習の知的障害教育概論の内容を踏まえ、専門的な事項について理解を深めることを目的とする。また、知的障害教育の教育課程を編成する上で重要な知的障害教育の教科、各教科等を合わせた指導の意義を理解し、学習指導案を作成していく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、ディスカッションによる事例の検討、学習指導案の作成等の演習も取り入れて授業を行う。

到達目標

1. 知的障害のある児童の学習上の特性や教育課程の特徴を理解し、知的障害教育の教育課程の特徴を説明することができる。
2. 知的障害特別支援学校の授業時数の考え方を理解するとともに、時間割や学習指導案を作成することができる。
3. 知的障害の障害特性を踏まえ、知的障害のある児童の関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 教材研究、学習指導案作成 -5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起 -3 主体的・継続的学修

内容

1	知的障害教育における教育課程の意義、重要性（中西）
2	教育課程の法制、仕組（中西）
3	知的障害教育における教育課程の内容～各教科の指導～（中西）
4	知的障害教育における教育課程の内容～領域別の指導、各教科等を合わせた指導～（中西）
5	知的障害教育における教育課程の授業時数と時間割（中西）

6	知的障害特別支援学級、知的障害特別支援学校の指導案作成の基礎・基本（中西）
7	知的障害教育の教科「国語」の指導案の作成（演習）その1（中西）
8	知的障害教育の教科「国語」の指導案の作成（演習）その2（中西）
9	知的障害教育の教科「国語」の指導案の作成（演習）その3（中西）
10	「日常生活の指導(朝の会)」の指導案の作成（演習）その1（岡本）
11	「日常生活の指導(朝の会)」の指導案の作成（演習）その2（岡本）
12	「日常生活の指導(朝の会)」の指導案の作成（演習）その3（岡本）
13	指導案作成のまとめ（演習）（中西）
14	知的障害を併せ有する自閉症の指導～自立活動の指導～（中西）
15	まとめ（中西）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布資料を参考に授業内容を整理し、提示された課題を教科書で確認しながらまとめておく。（各授業に対して90分）

評価方法および評価の基準

各授業で指示する課題（レポート等）への取り組み（30％）と試験（70％）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10％/30％） 筆記試験（40％/70％）

到達目標2 課題提出（10％/30％） 筆記試験（15％/70％）

到達目標3 課題提出（10％/30％） 筆記試験（15％/70％）

【フィードバック】提出された課題（レポート等）は、翌週以降の授業内で活用（紹介）し、前回の学習内容を振り返り、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・「初めて学ぶ知的障害教育の理論と指導」中西 郁 他 著 大学図書出版

- ・「特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領（平成29年4月告示）」 文部科学省
- ・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省
- ・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

部科学省

【推薦書】「特別支援教育の基礎」中西 郁 他 著 大学図書出版

【参考書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	肢体不自由教育課程論		
担当教員名	阿部 晴美		
ナンバリング	KBa440		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の教育課程及び指導法に関する選択科目です。特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目になっています。

科目の概要

「肢体不自由教育概論」で学んだ内容を踏まえ、さらに肢体不自由教育に関する専門的事項を学ぶ。「自立活動」の指導内容および指導計画の作成と評価について講義と実習をまじえて学習します。

授業の方法（ALを含む）

講義、模擬体験による実技、演習、レポートを基にしたディスカッション、事例研究など【実技、リアクションペーパー、レポート、ケースメソッド、グループワーク】

到達目標

- 1) 肢体不自由教育の教育課程の構造と自立活動の意義について説明することができる。
- 2) 自立活動の指導内容を説明し、具体的な指導法を工夫することができる。
- 3) 肢体不自由児の事例から実態を把握し、個別の指導計画が作成することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 2学級経営・学級づくり

内容

この授業は講義を基本に、課題レポートをもとにしたディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。また、肢体不自由児の摂食指導や介助の疑似体験などの実技を通し、より具体的に理解できるようにする。

1	肢体不自由教育における教育課程の編成と自立活動の意義
2	肢体不自由児の障害特性と自立活動【グループワーク】
3	健康の保持
4	心理的な安定および人間関係の形成
5	環境の把握
6	身体の動き 1【実技】
7	身体の動き 2【実技】
8	コミュニケーション

9	摂食指導 1【実技】
10	摂食指導 2【実技】
11	肢体不自由の障害特性を踏まえた授業づくり
12	個別の指導計画の作成【ケースメソッド】
13	授業研究及び授業改善の方法
14	今後の肢体不自由教育の展望(演習)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業範囲の参考図書を読んで、不明な点や質問点をまとめておく。(30分)

【事後学修】授業での配布資料を参考にして授業内容を整理して理解を深める。出された課題に対する解決策を考える。また、インターンシップ等の体験で学習内容を役立てるようにする。(60分)

評価方法および評価の基準

各授業毎の平常点(25%)、課題提出(25%)と筆記試験(50%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 課題提出10%/25%、平常点5%/25%、筆記試験15%/50%

到達目標 2 平常点10%/25%、筆記試験20%/50%

到達目標 3 課題提出15%/25% 平常点10%/25%、筆記試験15%/50%

【フィードバック】リアクションペーパーには、授業で理解したこと、関心のあること、疑問・質問などを記入すること。疑問・質問については、次回の授業でフィードバックする。また、前回の授業に関する問題に解答する。提出された課題には、コメントを付し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

「特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」平成29年4月告示、文部科学省、平成30年、海文堂出版株式会社、本体440円+税

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」平成30年3月、文部科学省、平成30年、開隆堂出版株式会社、本体159円+税

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合の成績が60%に達しない場合、再試験を行うことがある。

科目名	病弱教育課程論		
担当教員名	細谷 忠司		
ナンバリング	KBa441		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元特別支援学校教員が実務経験を基に学校場面で活用できる指導方法について講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教育課程及び指導法に関する科目」の選択科目である。本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の「特別支援教育領域に関する科目」に該当する。

科目の概要

特別支援教育 (特に病弱教育) における教育課程について、編成における基本的な考え方とその手順、内容及び配慮事項等について理解する。また、教育課程の実施にあたって必要な個々の病状や教育環境、児童生徒の発達に応じた個別の指導計画の作成について、指導上配慮すべき点や教材・教具の創意・工夫について理解する。また、ICTや遠隔授業等の活用についても全講義を通じて積極的に学んでいく。

授業の方法

講義を基本にししながら、各時間において、授業内容に関する内容について、意見交換や討論を行う。

【グループワーク】 【実技】 【ディスカッション】

到達目標

1. 病弱教育における教育課程の内容、個別の指導計画作成の手順や配慮事項等について理解する。
2. 病状や活動制限等に応じた学習活動の設定や、教材・教具の創意・工夫等について考え、具体的方法をまとめることができる。
3. ICTを活用した指導方法等について理解し積極的に活用できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することとする。

-2 学級経営・学級づくり

内容

1	病弱教育について
2	病弱教育における教育課程編成(1)
3	病弱教育における教育課程編成(2)
4	病弱教育における自立活動(1)
5	病弱教育における自立活動(2)
6	病弱児の疾患と教育の実際(1) (教科指導)
7	病弱児の疾患と教育の実際(2) (教科指導)

8	病弱児の疾患と教育の実際(3) (教科指導)
9	病弱教育における教科等の指導 情報機器等の活用等 (教材教具の工夫) (1)
10	病弱教育における教科等の指導 情報機器等の活用等 (教材教具の工夫) (2)
11	病弱教育における教科等の指導 情報機器等の活用等 (教材教具の工夫) (3)
12	復学支援について(1)
13	復学支援について(2)
14	まとめ
15	総合解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 健康や疾患に関連する文献や図書を読んでおく。(45分)

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。(45分)

評価方法および評価の基準

授業回に指示する課題への取り組み(40%)と筆記試験(60%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出(20%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標2．課題提出(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3．課題提出(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

【フィードバック】 提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用(紹介)していく。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業のときに適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」で、中学校・高等学校教諭の英語免許取得のための必修科目です。英語教科教育法II～IVと同様、必修科目であり、この科目の単位が取れないと教育実習を行うことはできません。

科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

- 1 中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領について理解することができる。
- 2 中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科書について理解することができる。
- 3 学習到達目標に基づく授業の組立てについて理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫
- 5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

英語科の指導法について、講義を中心にグループワークやディスカッションを交えて基本的な指導技術を学びます。

1	英語教育の目標
2	英語科カリキュラムの特色（学校教育内の位置づけ等を背景にして）

3	中学校外国語（英語）学習指導要領の概要とその実践方法
4	高等学校外国語（英語）学習指導要領の概要とその実践方法
5	小学校外国語活動・外国語科学習指導要領の概要と中高との連携
6	外国語の習得に関する理論
7	各種の英語教授法理論と方法
8	英語の音声的な特徴に関する指導
9	語彙・表現の学習と指導
10	リスニングの学習と指導
11	リーディングの学習と指導
12	スピーキングの学習と指導
13	ライティングの学習と指導
14	5つの領域を統合した言語活動の指導
15	音声・映像教材・ITC等を活用した学習と指導

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点（25%/80%） 授業参加度（5%/20%）

到達目標2 平常点（25%/80%） 授業参加度（5%/20%）

到達目標3 平常点（30%/80%） 授業参加度（10%/20%）

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」で、中学校・高等学校教諭の英語免許取得のための必修科目です。英語教科教育法II～IVと同様、必修科目であり、この科目の単位が取れないと教育実習を行うことはできません。

科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

- 1 中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領について理解することができる。
- 2 中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科書について理解することができる。
- 3 学習到達目標に基づく授業の組立てについて理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫
- 5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

英語科の指導法について、講義を中心にグループワークやディスカッションを交えて基本的な指導技術を学びます。

1	英語教育の目標
2	英語科カリキュラムの特色（学校教育内の位置づけ等を背景にして）

3	中学校外国語（英語）学習指導要領の概要とその実践方法
4	高等学校外国語（英語）学習指導要領の概要とその実践方法
5	小学校外国語活動・外国語科学習指導要領の概要と中高との連携
6	外国語の習得に関する理論
7	各種の英語教授法理論と方法
8	英語の音声的な特徴に関する指導
9	語彙・表現の学習と指導
10	リスニングの学習と指導
11	リーディングの学習と指導
12	スピーキングの学習と指導
13	ライティングの学習と指導
14	5つの領域を統合した言語活動の指導
15	音声・映像教材・ITC等を活用した学習と指導

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点（25%/80%） 授業参加度（5%/20%）

到達目標2 平常点（25%/80%） 授業参加度（5%/20%）

到達目標3 平常点（30%/80%） 授業参加度（10%/20%）

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」で、中学校・高等学校教諭の英語免許取得のための必修科目です。英語教科教育法、
、と同様、この科目の単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法の単位を取得していないと履修できません。

科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校（高等学校）で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、模擬授業を行いグループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。
【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

- 1 年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解することができる。
- 2 4技能、5領域の指導について理解することができる。
- 3 新出語句の導入、文法事項の導入と展開について、指導案を作成し指導実践することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫
- 5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	学習指導要領の復習、文における基本的イントネーションとその指導法
2	異文化理解に関する指導、文字及び基本的な符号とその指導法
3	教室英語のまとめ、文の構成・基本文型とその指導法
4	ALT等とのTTによる指導法、文の種類（疑問文、命令文、感嘆文、there構文）とその指導法
5	習熟度別指導法、名詞・名詞句とその指導法
6	教員による模擬授業（文法事項の導入編）・測定と評価(1)、代名詞とその指導法
7	教員による模擬授業（本文理解編）・測定と評価(2)、動詞・動詞句とその指導法
8	フラッシュカードの使い方と単語発音練習・音読練習の実践(1)、時制・相とその指導法
9	フラッシュカードの使い方と単語発音練習・音読練習の実践(2)、態とその指導法
10	本文のOral Introduction & Interactionの指導案と実践(1)、形容詞・副詞とその指導法
11	本文のOral Introduction & Interactionの指導案と実践(2)、不定詞とその指導法
12	本文のOral Introduction & Interactionの指導案と実践(3)、動名詞とその指導法
13	文法事項の導入と展開の指導案と実践(1)、分詞とその指導法、準動詞の指導法
14	文法事項の導入と展開の指導案と実践(2)、現在完了とその指導法
15	文法事項の導入と展開の指導案と実践(2)、関係詞とその指導法

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。（担当時に120分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。（担当時に30分）

評価方法および評価の基準

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点（25%/80%） 授業参加度(5%/20%)

到達目標2 平常点（25%/80%） 授業参加度(5%/20%)

到達目標3 平常点（30%/80%） 授業参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回の授業レポート及び模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」で、中学校・高等学校教諭の英語免許取得のための必修科目です。英語教科教育法、
、と同様、この科目の単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法の単位を取得していないと履修できません。

科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校（高等学校）で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、模擬授業を行いグループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。
【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

- 1 年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解することができる。
- 2 4技能、5領域の指導について理解することができる。
- 3 新出語句の導入、文法事項の導入と展開について、指導案を作成し指導実践することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫
- 5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	学習指導要領の復習、文における基本的イントネーションとその指導法
2	異文化理解に関する指導、文字及び基本的な符号とその指導法
3	教室英語のまとめ、文の構成・基本文型とその指導法
4	ALT等とのTTによる指導法、文の種類（疑問文、命令文、感嘆文、there構文）とその指導法
5	習熟度別指導法、名詞・名詞句とその指導法
6	教員による模擬授業（文法事項の導入編）・測定と評価(1)、代名詞とその指導法
7	教員による模擬授業（本文理解編）・測定と評価(2)、動詞・動詞句とその指導法
8	フラッシュカードの使い方と単語発音練習・音読練習の実践(1)、時制・相とその指導法
9	フラッシュカードの使い方と単語発音練習・音読練習の実践(2)、態とその指導法
10	本文のOral Introduction & Interactionの指導案と実践(1)、形容詞・副詞とその指導法
11	本文のOral Introduction & Interactionの指導案と実践(2)、不定詞とその指導法
12	本文のOral Introduction & Interactionの指導案と実践(3)、動名詞とその指導法
13	文法事項の導入と展開の指導案と実践(1)、分詞とその指導法、準動詞の指導法
14	文法事項の導入と展開の指導案と実践(2)、現在完了とその指導法
15	文法事項の導入と展開の指導案と実践(2)、関係詞とその指導法

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。（担当時に120分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。（担当時に30分）

評価方法および評価の基準

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点（25%/80%） 授業参加度(5%/20%)

到達目標2 平常点（25%/80%） 授業参加度(5%/20%)

到達目標3 平常点（30%/80%） 授業参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回の授業レポート及び模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa342		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」で、中学校・高等学校教諭の英語免許取得のための必修科目です。英語教科教育法、 、 と同様、必修科目であり、この科目の単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法 の単位が取得できていないと履修できません。

科目の概要

「英語教科教育法Ⅰ,Ⅱ」（2年前期後期）で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学びます。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4年次の教育実習への橋渡しとします。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、模擬授業を行いグループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

実践的指導力の育成を目指します。

- 1 小中高等学校を通じた英語教育の在り方の基本について理解している。
- 2 英語の音声や文字、表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 3 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫
- 5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育

成を目指します。 加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	中学校・高校英語の学習指導要領の復習
2	公開研究授業のビデオ視聴(1): 1時間の授業構成
3	公開研究授業のビデオ視聴(2): 指導方法、教育機器の活用
4	授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)
5	教材研究(中学英語教科書と副教材の分析)と学習評価
6	教材研究(高校英語教科書と副教材の分析)と学習評価
7	Listening、Speakingの実際的指導
8	Reading、Writingの実際的指導
9	学習指導案の書き方(1): 単元観・生徒観・単元の目標と評価基準・観点別学習状況の評価
10	学習指導案の書き方(2): 1時間の授業構成
11	学習指導案の書き方(3): Warm-up、復習
12	学習指導案の書き方(4): 新教材の導入、展開、まとめ、板書計画
13	パート別模擬授業(1): Warm-up、復習部分
14	パート別模擬授業(2): 文法事項導入の模擬授業
15	パート別模擬授業(3): 本文理解の模擬授業

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。(担当時に120分)

【事後学修】次回の模擬授業に向け、様々な指導法を含めた改善策の検討を行う。(担当時に30分)

評価方法および評価の基準

(1) 平常点(スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等)80%

(2) 授業参加度 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点(25%/80%) 授業参加度(5%/20%)

到達目標2 平常点(25%/80%) 授業参加度(5%/20%)

到達目標3 平常点(30%/80%) 授業参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回の授業レポート及び模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 (東京書籍)

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月版)

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa442		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」で、中学校・高等学校教諭の英語免許取得のための必修科目です。英語教科教育法、 、 と同様、必修科目であり、この科目の単位が取れないと教育実習に出ることはできません。また、本科目は、英語科教育法 の単位を取得しないと履修できません。

科目の概要

「英語教科教育法 ・ 」(2年前期・後期)及び「英語教科教育法 ・ 」(3年前期)で習得した英語教育の理論と方法についての知識を、実際に授業を行うための具体的な技術・方法に直接結び付け、自分なりの教授法が確立できるようにします。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、模擬授業を行いグループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

教育実習における授業実践を行う技量を身に付ける。

- 1 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 2 1単位時間の学習指導案を作成し、授業指導に生かすことができる。
- 3 観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-5 指導法の工夫

内容

模擬授業を中心に、グループディスカッション等を通じて、実践的指導技術を身に付ける。

(1) 教育実習校での使用予定の教材研究を行った上で、指導案を作成し、それに基づいて30分の模擬授業を行う。教師役の学生と生徒役の学生がそれぞれ模擬授業の後で、協議する。

(2) 前期に引き続き、教える立場に立った英文法について総点検を行う。

(3) 教科書に使用されている世界の文化的背景についての知識も深める。

1	ビデオ視聴によって学ぶ指導方法、英語力アップのための演習（基本的イントネーション）
2	1時間の模擬授業(文法事項導入)、英語力アップのための演習（文字及び基本的な符号）
3	1時間の模擬授業(本文理解)、英語力アップのための演習（基本文型）
4	1時間の模擬授業(文法事項導入)、英語力アップのための演習（文の種類）
5	1時間の模擬授業(本文理解)、英語力アップのための演習（名詞、名詞句）
6	1時間の模擬授業(文法事項導入)、英語力アップのための演習（代名詞）
7	ビデオ視聴によって学ぶ指導方法、英語力アップのための演習（動詞・動詞句）
8	1時間の模擬授業(本文理解)、英語力アップのための演習（時制）
9	1時間の模擬授業(文法事項導入)、英語力アップのための演習（態）
10	1時間の模擬授業(本文理解)、英語力アップのための演習（形容詞・副詞）
11	1時間の模擬授業(文法事項導入)、英語力アップのための演習（不定詞）
12	1時間の模擬授業(本文理解)、英語力アップのための演習（動名詞）
13	ビデオ視聴によって学ぶ指導方法、英語力アップのための演習（分詞）
14	1時間の模擬授業(文法事項導入)、英語力アップのための演習（現在完了）
15	1時間の模擬授業(本文理解)、英語力アップのための演習（関係詞）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教育実習を前提に、これまで学んできた指導法をふまえ、具体的な指導案を検討する。（担当時に180分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行うとともに、自身の英語運用能力の向上に努める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点（25%/80%） 授業参加度(5%/20%)

到達目標2 平常点（25%/80%） 授業参加度(5%/20%)

到達目標3 平常点（30%/80%） 授業参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回の授業レポート及び模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	初等英語科教育		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa443		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

英語の指導経験を有する教員が、専門性をもって具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導に関する科目」に当たり、小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目となっています。

科目の概要

小学校学習指導要領に基づき、「外国語（英語）」の目標と内容について理解するとともに、模擬授業を通じて教材研究、指導案の作成、授業指導、評価等の実践的指導力の育成を図ります。。

授業の方法（ALを含む）

グループで指導案の検討を行ったり、指導法について意見交換をしたりします。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- 1 小学校学習指導要領における外国語の目標・内容を理解することができる。
- 2 小学校外国語の学習指導案を作成することができる。
- 3 基礎的基本的な授業指導を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 学習内容・学習活動の設定
- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫

内容

1	小学校の外国語教育について
2	学校段階間の接続と連携
3	第二言語習得理論とその活用
4	外国語の教授法

5	Warm-up の方法と活用 / Classroom English の活用
6	語彙指導と文法事項の導入
7	Oral Introduction / Oral Interaction について
8	年間指導計画、単元計画、学習指導案について
9	ALT等とのTTの進め方
10	ICT活用について
11	学習状況の評価について
12	指導案の検討
13	模擬授業(1) 発表
14	模擬授業(2) 協議
15	まとめ(授業内容全般にわたるレポート)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前時に示されたワークシート、模擬授業の準備等(各授業に対して45分)

【事後学修】他の履修生の授業レポートを読み、考察する。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

(1) 平常点(授業レポート、英語の小テスト、模擬授業、模擬授業評価レポート等)80%

(2) 授業参加度 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点(25%/80%) 授業参加度(5%/20%)

到達目標2 平常点(25%/80%) 授業参加度(5%/20%)

到達目標3 平常点(30%/80%) 授業参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回の授業レポート及び模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月版)

吉田研作(監修)、小学校英語始める教科書、mpi、2017年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生徒指導・進路指導 A		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング	KBa343		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学習指導と両輪となり、学校教育を推進する中核となるものである。しかしながら、生徒指導の本質や理念を十分に理解することは難しい。生徒指導について、正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標に関わる事項について事例や課題を通して、具体的な学びを進める。また、進路指導に関しても、主体的・対話的な深い学びとなるように、学生自らの小中学校における体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の望ましい生き方・在り方に係る指導を可能とする。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。

生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。

小学校における進路指導・キャリア教育についての理解を深めることができる。

・到達目標のレベルをC評価 (60 点以上) とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

授業では、生徒指導上の事例や課題について、自ら追究する場やグループで追究する場を設ける。また、その結果を発表することを通して、主体的で対話的な学習とする。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、互いに高め合える授業をめざす。

1	ガイダンス。生徒指導の意義。学生の生徒指導上の経験確認。
2	生徒指導で児童につけたい力について。
3	生徒指導上の問題発生時の指導について。個別指導。
4	生徒指導上の問題発生時の指導について。集団指導。
5	生徒指導上の問題の再発防止、予防的指導について。組織的な指導。

6	健全な成長（教育の目的）を促すための指導について。
7	「生徒指導は児童理解に始まり、児童理解に終わる」、児童理解について。
8	生徒指導を活かした、より良い授業について。
9	生徒指導を活かした、授業以外の場面での指導について。
10	教師による「懲戒」と「体罰」について。
11	いじめ問題について。
12	生徒指導上の問題についての保護者対応について。
13	進路指導とキャリア教育。
14	小学校段階のキャリア教育。
15	生徒指導と進路指導に共通する内容のまとめ。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書の該当ページに目を通し、毎時の課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】本時の学習内容を復習し、課題をまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標

生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。

評価の手段 筆記試験

生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。

評価の手段 提出物、平常点

小学校における進路指導・キャリア教育についての理解を深めることができる。

評価の手段 提出物、平常点

評価の比率 筆記試験40%、提出物30%、平常点30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】生徒指導提要・文部科学省・教育図書株式会社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生徒指導・進路指導 B		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング	KBa344		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職免許法に定められた「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」として開講する。教員として不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止、キャリア教育の推進、組織的な生徒指導の在り方等について学修するとともに、自分自身の生き方を考える。

科目の概要

中高の教員に必要な、生徒指導及び進路指導・キャリア教育を円滑に進めていくために必要な知識・技能、指導力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。
- ・生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。
- ・中学校等における進路指導・キャリア教育についての理解を深めることができる。
- ・到達目標のレベルをC評価 (60点以上) とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

主体的・対話的で深い学びを通して、生徒指導、進路指導の知識を深め、実践力を養う。

1	ガイダンス、学生の生徒指導上の体験を確認する。
2	学習指導と生徒指導は両輪について
3	生徒指導でつきたい力とは
4	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 1
5	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 2
6	再発防止のための指導とは

7	健全な成長を促すための指導とは
8	児童生徒理解とは
9	学校のあらゆる場面での指導とは
10	生徒指導を活かしたより良い授業とは
11	給食の時間における生徒指導とは
12	教師による「懲戒」と「体罰」とは
13	いじめ問題について 事例3
14	進路指導・キャリア教育とは
15	中学校における進路指導の進め方

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 次回の授業範囲の教科書を読み、試験問題を作成してくる。

【事後学修】 毎回の授業の課題を完成して提出する。

評価方法および評価の基準

各到達目標の評価方法及び評価の基準

生徒指導の意義や目的、内容、方法についての理解を深めることができる。

評価の手段 筆記試験

生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決能力を高めることができる。

評価の手段 提出物、平常点

中学校等における進路指導・キャリア教育についての理解を深めることができる。

評価の手段 提出物、平常点

評価の比率

筆記試験 40%

提出物 30%

平常点 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『生徒指導提要』, 文部科学省, 教育図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	林 恵津子		
ナンバリング	KBa145		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「生徒指導・教育相談および進路指導等に関する科目」の選択科目である。

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法について理解し、保育実践と結びつけて考える力を身に付けることを目的としている。

科目の概要

「一人一人の幼児を理解すること」の意義や重要性について、理論から学ぶ。また、幼児の行動記録やビデオ記録等の読み取りや協議を通して、幼児の発達や個と集団の関係について、家庭との連携を含めて考え、幼児を理解する方法について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

アクティブラーニングを取り入れている。教科書に基づき、毎回ワークシートに自分の考えを記述する。また、グループディスカッションを行うことで、他者の考えを受けとめ、自分の考えも修正・展開し、多面的に考えることを大切にしている。

到達目標

- ・ 幼児の遊びや生活の実態に即した幼児理解の意義を理解する。
- ・ 幼児理解から発達や学びを捉える方法について理解する。
- ・ 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解する。
- ・ 幼児のつまずきや保護者への対応に関する基本的な考え方や方法について知る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1 教育活動の組み立て

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。グループワークでは課題シートを配付する。グループワークでの内容を文字にすることで、理解を確実にする。

1	幼児理解の意義と重要性(幼児理解の出発点としての幼児理解)
2	幼児の発達に関する課題、幼児理解のための教師の姿勢
3	一人一人の幼児の理解（3歳児の発達や学びの過程）

4	一人一人の幼児の理解 (4歳児の発達や学びの過程)
5	一人一人の幼児の理解 (5歳児の発達や学びの過程)
6	幼児理解の方法と記録をとることの意義・留意点
7	「自分」の世界と「友達」の世界の広がり
8	個の育ちと集団の育ちの関係
9	幼児の発達を捉える視点と様々な記録の方法
10	演習；記録の工夫と実際 (保育場面の観察・記録)
11	演習；記録の工夫と実際 (保育場面の観察・記録と分析・考察)
12	発表と協議；記録の読み取りから深める幼児理解と評価
13	幼児理解の積み重ねと評価、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点
14	演習；保護者の子育てに関する多様な状況とカウンセリングマインド
15	まとめ 幼児教育の今後の展望

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容部分(指定箇所)の講読、課題の発見(1時間)

【事後学修】講義・協議から学んだ内容整理、課題に関するレポート作成、提出(1時間)

評価方法および評価の基準

子どもの発達をふまえて子どもの表出行動を説明できる。ワークシート30%

子どもの表出行動からその意図を多面的に考察できる。ワークシート30%

保護者に子どもの表出行動を説明できる。ワークシート20%

子どもの発達と内面の理解に基づき、保育・教育を展開することができる。ワークシート20%

総合評価60点以上を合格とする。提出された課題は、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】清水益治・森俊之 編集、新・基本保育シリーズ 子どもの理解と援助、中央法規出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの表出行動から、子どもたちの発達状況や行動意図を考えます。「考えること」を大切にしています。積極的に参加して下さい。

科目名	教育相談 A		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KBa347		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

カウンセラーとして教育現場に従事していた経験をもとに、教育相談の理論や技法について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目」の選択科目である。

近年、学校現場では、不登校やいじめ、校内暴力といった問題に加えて、発達障害や小児うつ、心身症など心理学的課題も増加している。それらに適切に対処するためには、教育相談に係る基本的知見の獲得が求められる。そこで、本科目は教職基礎・教科教育学分野の1科目として「生徒指導・進路指導」等と関連させながら児童生徒への教育相談活動について学ぶ。

科目の概要

教育相談の理論や技法に関する基礎的知識について、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学ぶ。また、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

授業の方法

本講義では、講義による解説を中心として、各授業回に感想や疑問点、要望等の提出を求め、次回にフィードバックを行う。また、実際の事例を教材として対応方法について検討を行う。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】

到達目標

- ・学校教育における教育相談の重要性を認識する。
- ・児童生徒を指導するために身につけておくべきカウンセリング理論や技法などの基礎知識を習得する。
- ・個々の児童生徒の状況を把握し評価するための基礎知識を習得する。
- ・地域・社会・家庭との連携について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

2- : 子ども理解

内容

この授業は、講義を基本に、適宜グループワークを取り入れながら学びを深めていく。

1	教育相談の歴史と今日的課題【リアクションペーパー】
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割【リアクションペーパー】
3	相談援助における児童の理解【リアクションペーパー】
4	幼児期・児童期の人格形成と適応【リアクションペーパー】
5	教育相談・援助の基本：カウンセリング理論【リアクションペーパー】
6	教育相談・援助の基本：カウンセリング技法【リアクションペーパー】
7	児童の行動の理解と対応 不登校【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
8	児童の行動の理解と対応 いじめ【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
9	児童の行動の理解と対応 児童虐待【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
10	児童の行動の理解と対応 発達障害【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
11	児童の行動の理解と対応 気分障害及び心身症【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 予告した次回の講義内容について、関連図書などで事前学習をする（各授業に対して60分）

【事後学修】 学習した知識の定着をおこない、実際場面での活用方法についてまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組みおよび課題（30%）、筆記試験（70%）、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 授業への取り組みと課題(5%)、筆記試験(15%)

到達目標 2 . 授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(30%)

到達目標 3 . 授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(15%)

到達目標 4 . 授業への取り組みと課題(5%)、筆記試験(10%)

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書】 会沢信彦・安西順子 『教師のたまごのための教育相談』北樹出版 2017

吉田圭吾著 『教師のための教育相談の技術』金子書房 2007

【参考図書】 講義の中で必要に応じて適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

児童期の発達心理学についてあらかじめ予習されることをお勧めします。

合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

科目名	教育相談 B		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング	KBa346		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員・スクールカウンセラーとして学校で児童生徒および保護者の教育相談・カウンセリングに携わった経験を持つ教員が担当し、学校での相談について演習を取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目」の選択である。

学校内で他の教員との連携による組織的な指導援助を行うことが必要である。子どもの声を受け止め、公平かつ受容的な態度で接することを学び、相互の意見交流をする体験を通し、教員として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につけ、教育相談の基本的な理解と、基本的知識と技能を学修する。

科目の概要

学校現場では不登校・いじめ・校内暴力・非行・虐待・貧困・学級崩壊などさまざまな問題が生じている。学校に通う児童生徒に発達障害・引きこもり・摂食障害など発達と教育に関わる心理学的課題を数多く抱えているものがある。本講義では教育相談に必要な基本的知見の獲得、教育相談の理解を狙いとする。具体的には、教育相談に係る相談援助技術に関する諸理論、問題理解のための基礎知識や理解の仕方、実際の困難例、外部機関との連携方法などについて実践的要素を組み入れた講義を行う。

授業の方法 (ALを含む)

講義を中心として、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、ケースメソッド、プレゼンテーションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【ディスカッション】【ロールプレイ】【ケースメソッド】【プレゼンテーション】

到達目標

(1) 教育における教育相談の重要性を理解し、学校現場において児童生徒を指導するために身に付けておくべきカウンセリングに関する理論と技法等の基礎知識を説明することができる。(2) 評価するための知識と地域・社会・家庭との連携について理解し、説明することができる。(3) 個々の児童の児童生徒の状況を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、ディスカッション、ロールプレイ、ケースメソッド、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	教育相談とは何か。今日的課題について。	
2	学校教育における「教育相談」の位置づけと役割 ミニテスト】	【グループワーク】【プレゼンテーション】【
3	相談援助における児童生徒の理解	【ケースメソッド】【プレゼンテーション】
4	児童期的人格形成と適応	【グループワーク】 【プレゼンテーション】
5	思春期・青年期的人格形成と適応 シオン】【ミニテスト】	【ロールプレイ】【プレゼンテ
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論	【グループワーク】【プレゼンテーション】
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法	【ロールプレイ】 【プレゼンテーション】
8	児童生徒の行動の理解と対応：不登校 ミニテスト】	【グループワーク】【プレゼンテーション】【
9	児童生徒の行動の理解と対応：いじめ	【ディスカッション】【プレゼンテーション】
10	児童生徒の行動の理解と対応：発達障害	【ディスカッション】【プレゼンテーション】
11	児童生徒の行動の理解と対応：非行	【ロールプレイ】【プレゼンテーション】【ミニテスト】
12	教育相談の実際（事例から学ぶ）：校内連携	【ケースメソッド】【プレゼンテーション】
13	教育相談の実際（事例から学ぶ）：家庭・地域との連携	【ケースメソッド】【プレゼンテーション】
14	教育相談の実際（事例から学ぶ）：事件・事故・災害時の緊急対応	【グループワーク】【プレゼンテーション】
15	まとめ（全員）	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】最近の児童生徒を取り巻く問題について新聞、ネット（出所を明確にする）等で調べ、資料を作成する。各自がテーマを選択し、プレゼンテーションを行う。（各授業に対して45分、プレゼン制作に180分）【事後学修】授業で取り上げたテーマについてホームページ、新聞、図書で各自内容の理解を深め各自のテーマをまとめる。ミニテストの問題を検討する。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度10%、毎回のレポート10%、プレゼン20% 試験60%により評価を行い、60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎授業で前回授業の内容について質疑への返答、教員採用試験問題の検討を行う。レポートについてはコメントを記載し返却する。試験については試験後に解答し、質疑応答時間を設ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】

森田健宏・吉田佐治子 編著 教育相談 ミネルヴァ書房

漆澤恭子 編著 クラスと授業のユニバーサルデザイン 明治図書

学校心理士資格認定委員会 編 学校心理学ガイドブック 風間書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習事前事後指導		
担当教員名	富山 哲也、日出間 均、狩野 浩二、三藤 あさみ 他		
ナンバリング	KBb348		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員及び学校管理職、教育委員会における指導行政の経験をもつ教員が担当し、幼稚園・小学校の教育実習を行うために必要な内容について実践的に指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育実習に関する科目」の選択科目である。教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。

科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えをはじめ、学習指導案の作成の方法、実際の授業の進め方等について講義・演習を行う。また、教育実習後の学修について協議する。

授業の方法（ALを含む）

本科目は演習を中心とし、ペアやグループによる協議・発表、体験内容のレポートなどを適宜取り入れる。 【ディスカッション】【レポート】【事例研究】

学修目標（=到達目標）

- 1.教育実習を行うために必要な知識・技能について学び、理解することができる。（提出物15%、試験20%）
- 2.教育実習の具体的な内容をイメージし、知識・技能を工夫して活用することができる。（提出物15%、試験20%、学習態度等10%）
- 3.教育実習の意義と重要性を認識し、責任感と積極性を発揮して授業に臨むことができる。（学習態度等20%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 他者との協働、役割・職務遂行

内容

前期

- 介護等体験に関する説明と計画 1 〔教職支援課、細谷〕
- 介護等体験に関する説明と計画 2 〔片居木、細谷〕
- 介護等体験に関する説明と計画 3 〔細谷〕

自身の資質・能力の把握（PROGを参考に）〔就職支援課〕
学校インターンシップの計画づくり〔塚田、富山〕
ガイダンス～教育実習の意義と心構え〔狩野〕
教育実習の概要を知る〔富山〕【レポート】
教育実習での授業づくり（算数科1・2）〔日出間〕
幼稚園実習に関する説明と計画1・2〔綾井、岡本〕
学校インターンシップの進捗確認（合同）〔塚田、富山〕
教育実習での授業づくり（社会科1・2）〔三藤〕【レポート】
幼稚園実習に関する説明と計画3〔綾井、塚田〕

後期

ガイダンス～4年生の経験から学ぶ～〔日出間、三藤〕
教育公務員の服務について〔三藤〕
教育公務員の研修について〔三藤〕
実習での授業の実際（観察 参加 実習）〔富山〕【事例研究】
学習指導と評価〔富山〕
幼稚園実習に関する省察〔綾井、岡本〕【レポート】
実習中の心得（先生方、学級への関わり方）〔三藤〕
「教育実習日誌」の作成〔綾井〕
「チーム学校」の取組と実習生の関わり〔塚田〕【ディスカッション】
教育実習での授業づくり（国語）〔富山〕
学校インターンシップのまとめと引継ぎ〔塚田〕
演習（信頼される教員になるために）〔日出間〕【事例研究】
支援を必要とする子への対応1・2〔細谷〕【事例研究】
まとめと振り返り〔日出間〕【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス及び事前予告に即して、事前の学修が必要〔各授業に対して45分〕。

【事後学修】配布されたプリントや講義の内容をまとめて整理しておく〔各授業に対して45分〕。

評価方法および評価の基準

毎回の提出物（30%）、試験（40%）、学習態度・積極性・発言等（30%）によって総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

なお、この科目は「介護等体験」の事前事後指導を含んでおり、「介護等体験」に関するレポートの提出が必須である。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

次のテキストを～回で使用するので、各自購入して参加すること。

- (1) 増田雅暢 他著『第5版よくわかる社会福祉施設～教員免許志願者のためのガイドブック』全国社会福祉協議会
- (2) 全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック フィリア～豊かでかけがえのない体験を得るために～』

ジアース教育新社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名	山本 悟、日出間 均、星野 敦子、綾井 桜子 他		
ナンバリング	KBb449		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	4
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小中学校教員として、各教科の指導経験に深く携わった教員が担当し、指導現場の実態を踏まえた情報を紹介しながら指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育実習に関する科目」の選択科目である。小学校の教員免許を取得するための必修科目であり、4週間の小学校現場での実習を行う。

科目の概要

4年次の5～6月ごろに、小学校（特に、新座市、朝霞市、和光市、志木市を中心とする埼玉県および清瀬市、東久留米市を中心とする東京都などの地域）での実習を行う。その際、学生という立場ではあるが、教員の一人としての自覚を持ち、小学生の前に立つことになる。指導教員の授業参観だけでなく、学級担任として清掃、給食のような生徒指導や学習補助、および実際の授業も体験する。学校長はじめ指導教員からの講話を直接聞いたり、学習指導案を作成したりするなど、教育現場でしかできない学びをする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、小学校（特に、新座市、朝霞市、和光市、志木市を中心とする埼玉県および清瀬市、東久留米市を中心とする東京都などの地域）での実習を行うことが中心である。各学校での講義や教育実践を通して、教員としての資質の向上を図る。受講生による授業、研究協議、指導など一連の学びを経験する。【実習】【ロールプレイ】【討議・討論】

到達目標

小学校の教員としての自覚を持ち、各教科等における実践的な指導力や学級経営に関する知識・技能を身に付ける。
4週間という長期の実習期間において見通しをもち、健康に実習することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 指導法の工夫
- 5 指導技術、どもの関心・意欲喚起
- 2 使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

内容

配属校によって違いがあるが、概ね次のような流れになる。

第1週では学校現場の様子に慣れる。特に、校長より教務など学校組織における様々な役割に関する講話を受け学びを深めるとともに、配属学級の児童を知り、授業を参観する。

第2週以降は配属された学級担任の補助として、積極的に学級指導に関わる。授業の担当などが示され、準備を進めることになる。

第3週も同様な活動を進め、実際に学習指導案を書き授業を体験する。

第4週では研究授業に向けて準備をし、実際に研究授業を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する授業の準備（実習中 一日2時間以上）

【事後学修】一日の振り返りと実習日誌の整理、授業後のプリント・小テスト等の評価、（実習中 一日2時間以上）

評価方法および評価の基準

出勤状況、教師としての実務能力、教材研究を含めた授業実践に関する能力、児童に対する態度などについて、小学校現場で指導に当たった実習校の評価及び実習日誌等の評価を加えて総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】【参考図書】必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼稚園教育実習（事前事後指導含む）		
担当教員名	綾井 桜子、岡本 明博、三藤 あさみ、塚田 昭一 他		
ナンバリング	KBb450		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

児童発達支援センターで障害のある乳幼児の療育に携わってきた経験を持つ教員が、実際に幼児教育・療育を行ってきた経験を活かして、幼稚園での教育実習における実際的な方法等について演習も取り入れながら指導する。また、小学校等での実務をもつ教員が、実務の経験を活かして、幼小連携の視点も取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育実習に関する科目」の選択科目である。本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

科目の概要

幼稚園教育の基本、幼児の発達の特徴、教育実習を行う際の心構え等について学び、他の幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。

授業の方法（ALを含む）

実習を中心としながら、事前ならびに事後においてグループごとのディスカッション、報告を取り入れながら進める。【実習】、【グループディスカッション】

到達目標

- ・幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について述べることができる。
- ・幼稚園教諭として必要な保育観、指導力、知識、子ども理解のありかたを実習を通じて知り、日誌に表現することができる。
- ・幼稚園教育と小学校教育の接続について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 教育活動の組み立て、 - 4 子ども理解、 - 1 子どもから学び、共に成長する姿勢

内容

この授業は、（１）事前指導ならびに（３）事後指導にて、グループディスカッションを取り入れ、（２）の総合実習の学びを深めてゆく。

（１）事前指導

幼稚園教育の基本となる考え方について学び、課題意識をもって実習に臨めるよう、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達の特性理解、観察・記録の方法と実際

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案の作成

保育内容（指導）と評価、日誌の書き方

実習園におけるオリエンテーション（園長、実習担当の教職員等による）

（２）総合実習

小学校教諭一種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は１週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

- ・実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ・幼児集団を指導する責任実習（部分・１回）を行う。
- ・実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

（３）事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

保育における教師の役割

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習先の教育方針、特性の理解。提示する課題に関する事前調査、情報検索、発表準備（１時間）

【事後学修】学修のまとめとして提示する課題に関するレポートの作成（１時間）

評価方法および評価の基準

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を50%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を50%とし、総合的に評価し、60点以上を合格とする。【フィードバック】授業におけるプレゼンテーション、および提出物についてコメントを加えるほか、質問に答える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年告示）フレーベル館

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館

【推薦書】幼少年教育研究所編「新版 遊びの指導」同文書院

全国幼児教育研究協会編「4歳児の遊びアイデア集」チャイルド

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別支援学校教育実習(事前事後指導含む)		
担当教員名	中西 郁、岡本 明博、細谷 忠司		
ナンバリング	KBb451		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	3
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

特別支援学校、教育行政等に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に特別支援学校で指導を行ってきた経験を活かして、特別支援学校の学級経営や教科指導の在り方について講義を中心に演習も取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の「心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習」に該当する。教育実習をはじめ、教育実習の係わる事前事後の指導を通して特別支援学校における学級経営や教科指導等の基本的な知識と技能を学修する。

科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習に臨む心構えをはじめ、教材作成の工夫を学ぶとともに、学習指導案の作成の方法、実際の授業の進め方等について講義・演習を行う。そのうえで、特別支援学校で実習を行い、特別支援学校の指導の実際や学校運営の実際を体験する。また、教育実習後には、教育実習で学修したことを学生間で共有し、卒業後の教職等に活かせるようにする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、指導案の作成等の演習を取り入れて授業を行う。

到達目標

1. 特別支援学校の教育の実際について理解し、障害の特性、教育課程編成について説明することができる。
2. 障害のある児童等の指導方法について学ぶとともに、学習指導案を作成できる。
3. 教育実習の意義と心構えについて学び、児童生徒の関心・意欲を喚起授業、学級経営を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 他者との協働、役割、職務遂行 -1 子どもから学び共に成長する姿勢 -2 使命・職務理解、職責を果たす姿勢

内容

1 事前指導 (8時限相当の時間を配当する)

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における服務、勤務の心得
- (3) 実習記録の作成方法
- (4) 特別支援学校の授業構成
- (5) 特別支援学校の学習指導案の作成

2 中間指導（4時限相当の時間を配当する）

- (1) 実習校の児童の障害特性
- (2) 実習校の児童の支援方法、指導の基本的な考え方
- (3) 実習校の児童の障害特性に応じた教材教具の作成の工夫
- (4) 実習校の児童の障害特性に応じた学習指導案の作成

3 事後指導（3時限相当の時間を配当する）

- (1) 教育実習の総括的な反省
- (2) 実習での学修を卒業後の進路先での活用についての検討

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

実習校のホームページから実習校の教育内容等について調べておく。また、特別支援学校学習指導要領の「第2章各教科」の内容を熟読しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業担当教員に作成した学習指導案を提出し、添削を受ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題で提出された指導案（30%）、教育実習の取組の様子（実習日誌の記述内容）・実習校の評価（70%）によって総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 指導案提出（10%/30%） 教育実習の取組（30%/70%）

到達目標2 指導案提出（10%/30%） 教育実習の取組（20%/70%）

到達目標3 指導案提出（10%/30%） 教育実習の取組（20%/70%）

【フィードバック】提出された課題（指導案）等は、次回の授業等までに添削して返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・「特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

【推薦書】「特別支援教育の基礎」中西 郁 他 著 大学図書出版

【参考図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBb352		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教育実習に関する科目」の選択科目です。

科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって、具体的に事前・中間・事後指導を行います。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる意見交換を行いながら、教育実習が円滑に行えるようすすめます。【グループワーク】

到達目標

- ・教育実習の目標や内容を理解することができる。
- ・教科指導について、実効性のある指導案を作成することができる。
- ・社会人としての基本的態度を身に付けることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 他者との協働、役割・職務遂行

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会

- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】模擬授業の教材研究・指導案作成・教材作成等（2時間以上）
- 【事後学修】模擬授業の指導を受け、指導案等の修正を行う。（2時間以上）

評価方法および評価の基準

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 【フィードバック】レポートのシェアリングを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）
- 【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習校への事前連絡、巡回指導の日程調整、事後の挨拶などを確実に行うこと。

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美、松岡 敬明		
ナンバリング	KBb352		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教育実習に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。英語科教科教育法I～IVや教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

授業の方法（ALを含む）

教育実習で実際に使用する教科書を用い、担当箇所の語句・発音・文法事項・本文音読・本文導入・本文理解などを確認し、指導案を作成する。

到達目標

- ・担当箇所の文法事項導入・本文導入・内容理解に関する適切な指導案が書ける。
- ・担当箇所の語句・文を正しい発音とイントネーションで音声化・音読できる。
- ・指導教員のアドバイスを受け、適切な修正ができる。
- ・実習期間を振り返り、学び・反省点・改善点等を報告書の形で書き、下級生に自らの体験を話すことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 他社との協調、役割・職務遂行

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成・単語と本文発音確認
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業箇所の指導案・教材を作成する・単語と本文の音声を聞き、発音練習をする（最低2時間）

【事後学修】指導案・教材・模擬授業に対する教員のコメントを受け、指導案・教材を修正する（最低30分）

評価方法および評価の基準

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された指導案・教材はコメントを記載し、次回授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校で使用する教科用図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名			
ナンバリング	KBb453		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実習	単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教育実習に関する科目」の選択科目である。

科目の概要

学校現場における実際の勤務経験を通して、教科指導を始め教員の職務について体験的に学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義や演習を通じて得た知識や技術、方法等を実際に行うことを通じて学習する。【実技】

到達目標

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する知識・理論を活用してし、教員を目指す者としての実践的指導力を身に付ける。

- ・学習指導案を作成し、それに基づき実際の授業展開を行うことができる。
- ・生徒の学習状況を適切に把握し、評価することができる。
- ・校務分掌等、教員の職務全般について実践的に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫
- 1 他者との協働、役割・職務遂行

内容

協力校における3週間以上の参観実習および教壇実習からなる授業担当による教育実習を行い、専門教科の教授法に加えて、特別活動等を通じて学級経営の在り方についても、実践的に学ぶ。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する授業の準備(2時間以上)

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備(2時間以上)

評価方法および評価の基準

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について、振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育実習		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBb454		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校や高等学校における英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の実習（必修）、高等学校一種「英語科」（2週間以上の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

科目の概要

学校現場における実際の勤務経験を通して、教科指導を始め教員の職務について体験的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義や演習を通じて得た知識や技術、方法等を実際に行うことを通じて学習する。【実技】

到達目標

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する知識・理論を活用してし、教員を目指す者としての実践的指導力を身に付ける。

- ・学習指導案を作成し、それに基づき実際の授業展開を行うことができる。
- ・生徒の学習状況を適切に把握し、評価することができる。
- ・校務分掌等、教員の職務全般について実践的に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫
- 1 他者との協働、役割・職務遂行

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する授業の準備（2時間以上）

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備（2時間以上）

評価方法および評価の基準

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について、振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職実践演習（幼・小・中・高）		
担当教員名	山本 悟、日出間 均、星野 敦子、綾井 桜子 他		
ナンバリング	KBb555		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

- ・小学校及び中学校教員として指導現場に深く携わった経験を持つ教員が担当し、教職に関わる様々な実践的内容を取り入れながら4年間の学びの複合的に整理する指導を行う。
- ・現職の小学校教員による講話と質疑応答を通じて、教職に関する理解を深める。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「教育実践論」に位置づく科目で、幼・小・中・高の教員免許状取得に必要な選択必修科目である。教職課程で履修したその他の授業科目、教育実習や学校ボランティア等の様々な活動を通して身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて省察することを意図している。

科目の概要

学校教育の具体的な課題や教育の最新事情と学校が抱える課題を取り上げ、集団討議法や事例研究等を活用しながら授業を展開し、教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにする科目である。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心としながら、リアクションペーパーによる振り返り、大学周辺の小学校の開催する授業研究発表会の参観活動等を交えた授業を行う。【リアクションペーパー】【フィールドワーク】【レポート(表現)】

到達目標

- 1) 教職の意義や教員の役割、職務内容、子供に対する責務等を理解し、遂行できるようになる。
- 2) 教員組織における役割分担や教職員が協力して校務運営に携わる方法を理解し、自己発揮する資質を高める。
- 3) 個々の子供の特性や状況を把握し、学級集団を維持し機能を発揮する手立て及び実践的授業力や指導力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2学級経営・学級づくり -1他者との協働、役割・職務遂行 -2使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

内容

教職実践演習は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる。よって、授業は、講義・演習を通じて、理論と実践を有機的に統合できるようワークショップ形式等の実践的な形式で展開する（外部講師の専門的指導も含める）。そして、教職生活をより円滑にスタートできるように、教職に対する使命感や責任感、教育的愛情等や、対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営、教科・保育内容等の指導力に関する事項について、自己省察し、必要な資質・能力をさらに高めていく。

1	(1) 教職実践演習のねらいと内容の理解(2) 教育実習での学びと省察 : 山本、中西、三藤
2	新学習指導要領とこれからの学校教育について : 松岡、塚田
3	新しい授業づくり(アクティブ・ラーニング、プログラミング教育) : 富山、星野
4	授業研究、教材研究、指導法特講(受講者の模擬授業と振り返り) : 富山、久保田
5	授業研究、教材研究、指導法特講(新しい指導法と授業づくりを学ぶ)【リアクションペーパー】 : 学外講師、山本
6	教員としてのキャリア教育【フィールドワーク】【レポート(表現)】 : 狩野、綾井
7	保健安全指導について(アレルギー問題、アライキショック)。【リアクションペーパー】 : 山本、保健管理センターに講師依頼
8	学校行事と安全指導について(災害、不審者対応、他) : 日出間、塚田
9	学級経営、生徒指導、保護者対応(地域社会を含む)について : 塚田、三藤
10	教師に求められる資質・能力と教職の再考【リアクションペーパー】 : 外部講師、日出間、羽田
11	教育の最新事情と学校の実情(総合的学習の時間、特別活動を中心に) : 星野、狩野
12	教育の最新事情と学校の実情(特別支援教育及び幼小連携を中心に) : 中西、岡本、細谷
13	教育の最新事情と学校の実情(道徳及び英語教育を中心に) : 綾井、松岡、設楽
14	学習指導の評価と評定および授業改善の方策に向けて : 狩野、富山
15	まとめ「子供観や教育観について、授業を振り返り論述する」【レポート(表現)】 : 山本、富山

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前時に事前課題を提示する。課題に関連したテキストの講読と資料収集を進めて理解する(60分)。【事後学修】毎回の講義記録をノート等に整理する(60分)。課題に指定した小レポートを作成する(1時間)。大学周辺の小学校で開催される公開研究会に参加し、レポートを作成する(2時間)。

評価方法および評価の基準

授業への参加度 : 30%、リアクションペーパー : 15%、小学校公開研究会参加レポート : 25%、まとめのレポート : 30%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(10%/30%) リアクションペーパー(5%/15%)まとめのレポート(10%/30%)

到達目標 2) 授業への参加度(10%/30%) リアクションペーパー(5%/15%)まとめのレポート(15%/30%)

到達目標 3) 授業への参加度(10%/30%) リアクションペーパー(5%/15%)小学校公開研究会参加レポート(25%/25%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領(29年度版) 東洋館出版社

【参考図書】各回で参考となる資料の配布及び参考図書を提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	国語		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBc256		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2, 4 に該当する。小学校教諭一種、幼稚園教諭一種免許を取得するための必修科目である。国際化・情報化の進展を踏まえ、理解と表現の基礎となる国語の働きと我が国の言語文化について学ぶ。

科目の概要

内容は、小学校学習指導要領国語の〔知識及び技能〕「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の枠組みを基本としながら、国語科の背景となる日本語学、日本文学、中国文学の基礎的知識の習得を目指す。日常生活・社会生活における具体的な表現活動を通して内容の理解を深めることをねらいとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 国語に関心をもち、自らの考えを積極的に表現しようとする。
2. 表現活動に取り組む中で、国語について考え認識を深める。
3. 国語に関する基礎的な知識を実践を通して身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス～言葉の特徴やきまりについて考える～
2	文字とその指導（平仮名、片仮名、ローマ字）、学習指導要領の見方
3	文字とその指導（漢字）
4	語句、語彙とその指導
5	ことわざ、慣用句、故事成語とその指導
6	文字による表現の実際～新聞を作る～
7	文字による表現の実際～新聞を作る～
8	言葉遣い（敬語）とその指導
9	伝統的な言語文化とその指導～日本の古典、漢詩・漢文、故事成語～

10	音読，朗読，暗唱に関する指導～古典の暗唱～
11	書写の指導～平仮名の基本～
12	言葉のきまりとその指導～主語・述語，修飾語・被修飾語～
13	本，読書に関する基礎知識と指導～持参した本を紹介する～
14	絵本の基礎知識～絵本の価値と読み聞かせ～
15	まとめ～言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化（〔知識及び技能〕）の内容を振り返る～

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス及び次回の予告に即して、内容について関心をもち必要に応じて調査しておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】返却した小レポートを中心にした復習や、発展的な学修を求める（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

毎回の小レポート75%，最終的な論述レポート25%とし，総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、小レポートの作成とともに質疑を受け付け、次回授業の冒頭で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』

【推薦書】講義の中で紹介する。

【参考図書】講義の中で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	算数		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBc257		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1、2、4に該当する。専門科目のうち、教科に関する科目「算数」（必修科目）であり、2年次の「初等算数教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づける。

科目の概要

小学校学習指導要領算数編に示されている「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の内容について理解し、具体的な授業づくりの仕方について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 算数に関心をもち、算数科の学びの基本について理解する。
- 算数科の指導内容や指導方法について、領域毎に考察していく。
- 算数に関する基礎的な知識について、実践を通して身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容	
1	ガイダンス。～算数を学ぶ価値について考える～
2	算数科の小学校学習指導要領の見方
3	「数と計算」領域における教材と授業づくり（下学年）
4	「数と計算」領域における教材と授業づくり（上学年）
5	「図形」数と計算」領域における教材と授業づくり
6	「測定」領域における教材と授業づくり
7	「変化と関係」領域における教材と授業づくり
8	「データの活用」領域における教材と授業づくり
9	算数科における主体的な学びとは？

10	算数科における対話的な学びとは？
11	算数科における深い学びとは？
12	数学的活動を通じた算数の学び（低学年）
13	数学的活動を通じた算数の学び（中学年）
14	数学的活動を通じた算数の学び（高学年）
15	振り返りとまとめ～算数科の本質を探る～

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】文部科学省の小学校学習指導要領解説（算数編）の各内容について、事前に予習し、自分なりに内容を整理しまとめておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業については、復習することを必須とし、授業でふれた問題について、振り返り、自力解決できるようにしておく。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

小レポート（平常点）、授業への参加態度（取り組み）（60%）、試験（40%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（日本文教出版）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子、清水 玲子、棚谷 祐一		
ナンバリング	KBc258		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

作曲・編曲の経験のある教員が楽器法を、学校現場でアウトリーチ演奏の経験のある教員が音楽史と鑑賞を担当し、楽器の特性や作曲家の仕事を、具体的な作品を基に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科に関する科目」の選択科目である。音楽の役割を考えながら、日本の音楽と世界の音楽について学ぶ。また小学校教科書に掲載されている音楽など様々な音楽に触れ、この芸術が人間にとってどのように影響を与えるかなどを考察する。

科目の概要

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で音楽を楽しみ、日本・世界の音楽、またピアノ音楽も取り上げ講義を行う。実際に歌う・鑑賞をするなどを通して、情操教育の大切さを確認する。また音楽の基礎知識も学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

音楽作品を聴いて様々なジャンル、楽器、時代ごとの様式の特徴や違いを理解する。学生によるリアクションペーパーで述べられた感想や質問をクラス内で共有し、考察を深める。作品をテーマを設定して分析的に聴取した後、口頭によるプレゼンテーションを行う回もある。【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

1. いろいろな音楽を学ぶことにより、楽器の奏法や特徴を説明できる。
2. 音楽史を学び、それぞれの時代の様式や作品の特徴について述べるができる。
3. 音楽を鑑賞し、その特徴や音楽から受けた印象を言葉で表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3 学習内容・学習活動の設定

内容

毎回のテーマに加えて、音楽の基礎知識・楽典などの講義も行う。

この授業は講義を基本に、グループディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス 自分を取りまく音楽と音楽の役割について(清水)【リアクションペーパー】
2	明治以降の日本の音楽の歴史～子どもの歌・文部省唱歌から見る～(清水)【リアクションペーパー】
3	映像と音楽について(清水)【リアクションペーパー】
4	舞台と音楽について(清水)【リアクションペーパー】
5	日本の合唱曲について(清水)【リアクションペーパー】
6	世界の音楽について アジア・オセアニア・中東(棚谷)【リアクションペーパー】
7	世界の音楽について アフリカ・ヨーロッパ・アメリカ大陸(棚谷)【リアクションペーパー】
8	ポピュラー音楽の歴史(棚谷)【リアクションペーパー】
9	楽器について 管楽器・弦楽器・打楽器およびそれらのアンサンブル(棚谷)【リアクションペーパー】
10	楽器について 電気楽器・電子楽器その他(棚谷)【レポート(知識)】
11	ピアノから見る音楽史 パロック・古典(久保田)【リアクションペーパー】
12	ピアノから見る音楽史 ロマン派・近代(久保田)【リアクションペーパー】
13	ピアノから見る音楽史 現代(久保田)【リアクションペーパー】
14	鑑賞について(久保田)【プレゼンテーション】
15	まとめ(久保田)【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業で扱うテーマと音楽を予告、または授業で使用するパワーポイントデータを格納するので、各自予習し、質問内容を整理しておく。(各授業に対して45分)

【事後学修】授業の振り返りおよび配布資料の整理(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

1. いろいろな音楽を学ぶことにより、楽器の奏法や特徴を説明できる。 評価方法：毎回の課題20%、通常の授業への参加度10%
2. 音楽史を学び、それぞれの時代の様式や作品の特徴について述べる事ができる。 評価方法：毎回の課題20%、レポート30%
3. 音楽を鑑賞し、その特徴や音楽から受けた印象を言葉で表現できる。 評価方法：毎回の課題20%

毎回の課題60%、レポート30%、通常の授業への参加度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、図書・辞典・映像資料・音源などを使用し、授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	図画工作		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担います。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものでしょうか。

科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

様々な材料体験や表現・鑑賞を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学びます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：新聞紙 1
5	身近にある材料を使った表現：新聞紙 2
6	様々な描画材料を使った表現：絵の具等
7	様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等

8	様々な描画材料を使った表現：複合材
9	身近にある材料を使った表現：自然材
10	身近にある材料を使った表現：人工材
11	粘土を使った表現：土ねんど
12	粘土を使った表現：合成粘土
13	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 1
14	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 2
15	まとめ：図画工作について考える

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	図画工作		
担当教員名			
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担います。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものでしょうか。

科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

様々な材料体験や表現・鑑賞を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学びます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：新聞紙 1
5	身近にある材料を使った表現：新聞紙 2
6	様々な描画材料を使った表現：絵の具等
7	様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等

8	様々な描画材料を使った表現：複合材
9	身近にある材料を使った表現：自然材
10	身近にある材料を使った表現：人工材
11	粘土を使った表現：土ねんど
12	粘土を使った表現：合成粘土
13	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 1
14	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 2
15	まとめ：図画工作について考える

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBC260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として体育科の指導に携わった経験を持つ教員が担当し、小学校体育授業に関する内容・教材・指導法について実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「教科に関する科目」に位置づけ、幼稚園教諭・小学校教諭免許取得に必要な選択必修科目である。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎、および体育授業の運営と実践的指導力を学修する。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

科目の概要

授業は運動教材を扱うため、実技を交えて展開する。小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。体育科の授業づくりに関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では体育実技を中心に授業を進める。授業終盤にはグループによる模擬授業等の発表活動を取り入れた授業を行う。

【実技】【模擬授業】【レポート(知識)】

到達目標

1) 身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝え指導するための基本的な知識・技能及び保健衛生に関する知識を理解する。

2) 小学校体育科の学習内容と授業づくりについて実技を通して理解を深める。

3) 模擬授業を通して体育科の実践的な指導力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1教育活動の組み立て -3学習内容・学習活動の設定

内容

2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進め、授業は2つのクラスに分かれて行う予定（クラス分け:別途指示）。

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	【実技】	: 山本、佐藤
2	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走	: 跳び方のコツを探る）	【実技】 : 山本
3	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走	: チーム対抗の競走）	【実技】 : 山本
4	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）	【実技】	: 山本
5	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	【実技】	: 山本

6	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	【実技】	佐藤
7	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	【実技】	佐藤
8	表現運動（リズムダンスとその工夫）	【実技】	佐藤
9	表現運動（創作活動と発表会）	【実技】	佐藤
10	模擬授業（器械運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価、指導案作成の復習）	【模擬授業】	【レポート（知識）】
			山本
11	模擬授業（表現運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	【模擬授業】	【レポート（知識）】
			山本
12	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	【模擬授業】	【レポート（知識）】
			山本
13	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	【実技】	佐藤
14	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	【実技】	佐藤
15	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）	【実技】	佐藤

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備（90分）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、授業ノート・配付資料整理30%、模擬授業の発表およびレポート40%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度（10%/30%）授業ノート・配付資料整理（15%/30%）

到達目標 2) 授業への参加度（10%/30%）授業ノート・配付資料整理（15%/30%）

到達目標 3) 授業への参加度（10%/30%）模擬授業の発表およびレポート（40%/40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成29年度版）

【推薦書】高橋健夫、他編著「すべての子どもが必ずできる 体育の基本」 学研教育みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBc260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として体育科の指導に携わった経験を持つ教員が担当し、小学校体育授業に関する内容・教材・指導法について実践的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「教科に関する科目」に位置づけ、幼稚園教諭・小学校教諭免許取得に必要な選択必修科目である。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎、および体育授業の運営と実践的指導力を学修する。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

科目の概要

授業は運動教材を扱うため、実技を交えて展開する。小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。体育科の授業づくりに関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では体育実技を中心に授業を進める。授業終盤にはグループによる模擬授業等の発表活動を取り入れた授業を行う。

【実技】【模擬授業】【レポート】

到達目標

1) 身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝え指導するための基本的な知識・技能及び保健衛生に関する知識を理解する。

2) 小学校体育科の学習内容と授業づくりについて実技を通して理解を深める。

3) 模擬授業を通して体育科の実践的な指導力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1教育活動の組み立て -3学習内容・学習活動の設定

内容

2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進め、授業は2つのクラスに分かれて行う予定（クラス分け:別途指示）。

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	【実技】	: 山本、佐藤
2	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール:基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	【実技】	: 佐藤
3	ネット型ボール運動（プレルボール:基本技能とゲームの進め方の理解）	【実技】	: 佐藤
4	表現運動（リズムダンスとその工夫）	【実技】	: 佐藤
5	表現運動（創作活動と発表会）	【実技】	: 佐藤

6	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走：跳び方のコツを探る）	【実技】	：山本
7	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走：チーム対抗の競走）	【実技】	：山本
8	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）	【実技】	：山本
9	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	【実技】	：山本
10	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	【実技】	：佐藤
11	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	【実技】	：佐藤
12	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）	【実技】	：佐藤
13	模擬授業（器械運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価、指導案作成の復習）	【模擬授業】	【レポート（知識）】
			：山本
14	模擬授業（表現運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	【模擬授業】	【レポート（知識）】
			：山本
15	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	【模擬授業】	【レポート（知識）】
			：山本

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備（90分）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、授業ノート・配付資料整理30%、模擬授業の発表およびレポート40%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度（10%/30%）授業ノート・配付資料整理（15%/30%）

到達目標 2) 授業への参加度（10%/30%）授業ノート・配付資料整理（15%/30%）

到達目標 3) 授業への参加度（10%/30%）模擬授業の発表およびレポート（40%/40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成29年度版）

【推薦書】高橋健夫、他編著「すべての子どもが必ずできる 体育の基本」 学研教育みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	KBc261		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2に該当する。「社会科」が学校教育の中で、担っている役割を認識し、社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と3分野に分かれるが、各分野で扱う内容（学習の具体的な内容や学習活動）について事例を取り上げ、理解を深めさせると共に、身に付けるべき資質・能力・態度について考察する。

社会科における思考力・判断力・表現力を高めるための資料の取扱いや活用方法について具体的に学ぶと共に、教師が身に付けるべき指導力の具体的な内容について関心を深める。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

小学校教育における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。また、学習した内容について、自分なりのとらえ方や考え方を深めることができ、社会的事象に対する関心を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業では、毎回の講義内容を基に「自分が授業実践者として、どのように取組むか」という視点をもって自ら学習内容を吟味する機会をもつ。また、自分で考えたことを他の人と共有し、話し合い等を通して授業力を育成する。

- 1 ガイダンス：社会科を学ぶ目的とその役割
- 2 次期学習指導要領の改訂の要点と身に付けさせるべき資質・能力・態度について
- 3 中学年社会科の学習内容 3 学年
- 4 中学年社会科の学習内容 4 学年
- 5 高学年社会科の学習内容 5 学年

- 6 高学年社会科の学習内容 6 学年
- 7 社会科学習における地理的内容について
- 8 社会科学習における図表の活用(1) 地図の見方・活用の仕方について
- 9 社会科学習における図表の活用(2) 統計資料等の活用の仕方について
- 10 社会科学習における歴史的内容について
- 11 社会科学習における公民的内容について
- 12 社会科における学習活動の具体例(1)
- 13 社会科における学習活動の具体例(2)
- 14 社会科学習で身に付けたい資質・能力・態度
- 15 まとめと振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代を代表する人物の主な事績をそれぞれの授業内容に合わせて予習し、理解しておく。

【事後学修】その時間に理解した内容及び自分の考えをまとめる。

(毎時間30分)

評価方法および評価の基準

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み(授業のまとめ、小テスト等)40点、とし

総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎回授業最後に提出する振り返りレポートに記された不明点、疑問点について、次の授業の初めに補足説明を行い、理解が深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」日本文教出版(平成29年度版)

【参考図書】

文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社(平成29年度版)

小学校社会科の教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBc262		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科DP2に該当する。「遊び」や「身近な生活」を通して学ぶ生活科は幼児期の教育と極めて密接な関係をもっている。幼児期の遊びの発達段階を理解しつつ遊びの中ではぐくまれていく力にも視点をあて、体験や具体的な活動を通して資質・能力を育てる指導者のかかわりを理解する。

科目の概要

幼児期や小学校低学年における遊びの価値や発達段階を学んだり、身近な自然や社会とのかかわりでもある遊ぶおもちゃを作ったり、表現活動を工夫したりして体験を通して学ぶ学習過程を理解する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・生活科における遊びや体験の価値についてさまざまな資料から理解することができる。
- ・体験したことを表現する多様な方法のあることを理解し、適切な活用を考えることができる
- ・主体的な学習を促す環境の構成や学習材の吟味などを通して、質の高い気付きが生まれるような学習環境を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、フィールドワーク、グループワーク、実習などを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス	2年間を見通した生活科の全体計画
2	十文字の春探し（描画法）	
3	飼育栽培の指導法及び栽培計画（アサガオ、ミニトマト等）	
4	飼育栽培活動 実際に種や苗を植える（アサガオ、ミニトマト等）	

5	学校生活に関する活動 「学校探検」を行う際の指導の在り方と実習
6	家庭生活に関する活動 「家族の一員とお手伝い」を行う際の指導の在り方と実習
7	自然や地域行事に関する活動「春、夏、秋、冬探し」を行う際の指導の在り方と実習
8	身近な自然や物を使って遊びをつくり出す活動 「昔遊び」を行う際の指導の在り方と実習
9	自分自身の成長を振り返る活動「自分の成長（1年生）」を行う際の指導の在り方と実習
10	飼育栽培活動「アサガオ、ミニトマト等」の活用を行う際の指導の在り方と実習
11	公共物や公共施設を利用する際の指導の在り方と実習
12	地域に関する活動「町探検」を行う際の指導の在り方と実習
13	自分自身の成長を振り返る活動「自分の成長（2年生）」を行う際の指導の在り方と実習
14	飼育栽培活動「動物飼育」を行う際の指導の在り方と実習
15	生活科のまとめ/幼稚園との互惠性のある交流・連携

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回で扱う内容について、テキストや資料を読み、キーワードや留意点について調べ、A4 1枚程度にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】各回の内容についてまとめ、レポートとして提出する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回の授業レポート（30%） 授業での課題レポート、課題作品（50%） 授業への参加度（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編（平成29年7月 文部科学省）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	理科		
担当教員名			
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科のDP2に該当する。専門科目のうち、教科に関する科目「理科」（選択科目）であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」（「必修」）の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。本科目を履修することにより実践的な指導力が身に付く。

科目の概要

小学校理科の学習指導要領に示されている、観察、実験、飼育、栽培について、実際に植物を育てたり、小学校理科で行う実験を行ったりしながら、学校現場で活用できる観察・実験の技能を習得する。特に、本授業では、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるよう内容である。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論をグループで協議しながら学びを深めていく。

1	（１）理科における観察・実験等のガイダンス（２）全国・学力学習状況調査及び技能の課題
2	（１）観察・実験の方法（植物の観察と植物の種蒔き）（２）実験器具、薬品の扱い方
3	（１）物質・エネルギー領域（２）実験：「物と重さ」

4	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「振り子の運動」
5	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「メダカの卵の観察（継続観察）」
6	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「植物の発芽、成長、結実（継続観察）」
7	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「磁石の性質」
8	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「電気の利用」（プログラミング含む）
9	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「人の体のつくりと運動」
10	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「流れる水の働きと土地の変化」
11	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「水溶液の性質」
12	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「てこの規則性」
13	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「太陽と地面の様子」
14	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「季節と生物」
15	(1) 理科「観察・実験」のまとめ	(2) 理科の学びを深める方途

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の観察・実験の指導のポイントについて、A4 1枚程度にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】各回の実際の観察・実験したことをレポートとしてまとめ、提出する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

実験毎のワークシート30%、観察・実験のレポート等30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメダル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】塚田昭一他編著『新学習指導要領の展開』明治図書出版

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』（平成29年7月）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	理科		
担当教員名			
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科のDP2に該当する。専門科目のうち、教科に関する科目「理科」（選択科目）であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」（「必修」）の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。本科目を履修することで実践的な指導力が身に付く。

科目の概要

小学校理科学習指導要領に示されている、観察、実験、飼育、栽培について、実際に植物を育てたり、小学校理科で行う実験を行ったりしながら、学校現場で活用できる観察・実験の技能を習得する。

特に、本授業では、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるよう内容である。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論をグループで協議し学びを深めていく。

1	（1）理科における観察・実験等のガイダンス（2）全国・学力学習状況調査及び技能の課題
2	（1）観察・実験の方法（植物の観察と植物の種蒔き）（2）実験器具、薬品の扱い方
3	（1）物質・エネルギー領域（2）実験：「物と重さ」
4	（1）物質・エネルギー領域（2）実験：「振り子の運動」
5	（1）生命・地球領域（2）観察：「メダカの卵の観察（継続観察）」

6	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「植物の発芽、成長、結実（継続観察）」
7	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「磁石の性質」
8	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「電気の利用」（プログラミング含む）
9	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「人の体のつくりと運動」
10	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「流れる水の働きと土地の変化」
11	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「水溶液の性質」
12	(1) 物質・エネルギー領域	(2) 実験：「てこの規則性」
13	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「太陽と地面の様子」
14	(1) 生命・地球領域	(2) 観察：「季節と生物」
15	(1) 理科のまとめ	(2) 理科の学びを深める方途

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の観察・実験のポイントについて、A4 1枚程度にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】各回の実際の観察・実験したことをレポートとしてまとめ、提出する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

実験毎のワークシート30%、観察・実験のレポート等30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメデアル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】塚田昭一他編著『新学習指導要領の展開』明治図書出版

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』（平成29年7月）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	家庭		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング	Kbc264		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

この授業では、小学校教諭として児童と深くかかわってきた現場での実務経験を活かし、「家庭」を指導していく上での知識、技能等を解説するとともに、新学習指導要領を踏まえ、教育現場に生かすことができるよう、アクティブラーニングを導入しながら実践的な教育を展開していく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科に関する科目」の選択科目である。

科目の概要

小学校における「家庭」の授業実践に必要な実践的な知識・技能と、家庭科に関連する背景的な知識を身に付ける。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

小学校における「家庭」の授業を担当するために必要な実践的な知識・技能を、授業場面を意識しながら身に付ける。特に、小学校学習指導要領解説家庭編に示されている内容の取扱いと指導上の配慮事項および実習の指導について具体例から学び、子どもたちが生活をよりよくしようと工夫する資質・能力をどのように育成するか理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 学習内容・学習活動の設定

内容

この授業は、演習・講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス、家庭科の目標と内容構成
2	空間軸・時間軸の視点からとらえる家庭科の学習対象
3	A「家族・家庭生活」の学習内容 - 自分の成長・家庭生活と家族の大切さ -
4	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 食事の役割 -
5	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 調理の基礎・留意点と配慮点 -
6	B「衣食住の生活（食生活）」の実習 - ゆでる調理といためる調理 -
7	B「衣食住の生活（食生活）」の実習 - 米飯とみそ汁の調理 -
8	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 栄養を考えた食事 -
9	B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 - 衣服の着用と手入れ -

10	B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 - 布を用いた製作 -
11	B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 - 手縫いの技能・ミシン縫いとの比較 -
12	B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 - ミシン縫いの技能・留意点と配慮点 -
13	B「衣食住の生活（住生活）」の学習内容 - 健康・快適・安全な住まい方の工夫 -
14	C「消費生活・環境」の学習内容 - 持続可能な社会の構築に向けた消費生活と環境 -
15	A「家族・家庭生活」及びC「消費生活・環境」の学習内容 - 小・中学校の系統性 - ,まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書のうち、次時の内容にあたる箇所を読む。次時に必要な学習用具をそろえる。自分の生活経験をふり返り、学生同士でディスカッションする。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容をふり返り、理解を深める。実生活の中で技能を高める。学習内容を自分の生活にどのように活用するか、学生同士でディスカッションする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への積極的参加（持ち物〔エプロン、三角巾、食器用ふきん、手拭きタオル、調理実習室用上履き、糸きりばさみ〕の用意を含む）：30% 課題論述レポート（知識・理解・論述・表現）：40% 調理および被服製作の技能：30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題のフィードバックは、次回以降の授業でコメント・返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2017

【参考図書】・『小学校わたしたちの家庭科5・6』開隆堂出版、2020

・『新編 新しい家庭5・6』東京書籍、2020

・流田直他『家庭科の基本』学研教育みらい、2012

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	細谷 忠司、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc266		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 3, 4に該当する。

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要

ヒトの知的活動に関わる神経メカニズムについて解説し、脳損傷によって生じるさまざまな知的障害との関連について知識を深める。さらに、知的機能を評価する方法を学び、教育的支援等に展開するための基礎を養う。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

知的障害に関する脳機能および心理学的な特徴を知り、知的障害(児)者の教育や支援に役立てる知識を習得する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を中心のグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを取り入れて行う。

第1回 知的障害児の発達とその特徴（細谷）

第2回 中枢神経系の解剖（奈倉）

第3回 中枢神経系の機能（奈倉）

第4回 知的障害のアセスメント（細谷）

第5回 脳と言語（奈倉）

第6回 知的障害と言語（奈倉）

第7回 知的障害児の心理的特徴（感覚・知覚・運動等）（細谷）

第8回 知的障害者の心理的特徴（言語・記憶・思考等）（細谷）

第9回 知的障害に関連する諸障害（自閉症スペクトラム障害）（細谷）

第10回 知的障害に関連する諸障害（ダウン症）（細谷）

第11回 知的障害に関連する諸障害（てんかん）（細谷）

第12回 知的障害に関連する病理（奈倉）

第13回 知能と発達（細谷）

第14回 発達検査・知能検査（細谷）

第15回 知的障害のある児童生徒のキャリア教育（細谷）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 知的障害に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。

評価方法および評価の基準

授業中のディスカッション参加度(10%)、レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(30点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問、質問については次回の授業時にフィードバックを行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業の中で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	松井 雄一、奈倉 道明、中西 郁		
ナンバリング	KBc267		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 3, 4に該当する。

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要

肢体に障害を持つ乳児、児童・生徒、成人を対象として、生理的、病理的、心理的な特徴を学び、教育的支援や社会的支援について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

肢体不自由に関する医学的および心理学的な特徴を知り、教育や療育、リハビリテーションの場で肢体不自由(児)者の指導・支援に役立てる知識と技能を習得する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を中心のグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを取り入れて行う。

第1回 筋骨格の生理学と肢体不自由児の障害の概要（松井）

第2回 教科指導における肢体不自由児の困難とその支援方法（松井）

第3回 神経と運動のコントロールと肢体不自由児の障害の状況（松井）

第4回 肢体不自由の病理 脳性麻痺（奈倉）

第5回 肢体不自由の病理 二分脊椎（奈倉）

第6回 脳性まひ児の困難とその支援（知的障害を併せて有する児童を中心に）（松井）

第7回 基礎感覚の発達とその支援（重度重複障害児の心理と支援を中心に）（松井）

第8回 肢体不自由児の運動機能の発達（松井）

第9回 肢体不自由の病理 水頭症（奈倉）

第10回 肢体不自由の病理 神経疾患（奈倉）

第11回 肢体不自由の病理 筋ジストロフィー（奈倉）

第12回 呼吸の困難と医療的ケア（松井）

第13回 摂食嚥下及び排泄の機能（松井）

第14回 摂食嚥下及び排泄の困難と指導・支援（松井）

第15回 肢体不自由児の医療と福祉と教育（まとめ）（松井）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 肢体不自由に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。

評価方法および評価の基準

授業中のディスカッション参加度(10%)、レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(30点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問、質問については次回の授業時にフィードバックを行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業時に適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	細谷 忠司、真路 展彰		
ナンバリング	Kbc268		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 3, 4に該当する。

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要

疾病により子どもたちが受ける教育場面での生理学的、病理学的、心理学的変化について学習する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

病気や障害がある人に関して様々な側面の理解を深め、それらを認識して適切な支援に役立てる知識を習得する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を中心のグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを取り入れて行う

1	総合 病気の子供たちの現状
2	総合 さまざまな病弱教育
3	心理 教科別の指導
4	心理 自立活動
5	生理・病理 慢性疾患
6	生理・病理 慢性疾患
7	生理・病理 慢性疾患
8	生理・病理 精神疾患
9	生理・病理 精神疾患
10	心理 ターミナル期の心理
11	心理 行事等
12	心理 センターの機能
13	心理 合理的配慮

14	総合 総合解説
15	総合 総合解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 健康や疾患に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。

評価方法および評価の基準

授業中のディスカッション参加度(20%)、レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(20点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問、質問については次回の授業時にフィードバックを行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業のときに適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	外国語（英語）		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBc265		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

義務教育学校等において、英語の指導経験を有する教員が、具体的な指導法等にふれながら講義を行います。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の専門科目のうち、「教科専門分野」の「教科に関する科目」に当たります。小学校教諭一種免許状を取得するための選択必修科目です。

科目の概要

外国語（英語）の授業実践に必要な英語運用能力（4技能）の向上を図るとともに、英語に関する背景的な知識を身に付け、英語指導を支える基盤形成を図ります。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

小学校における英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び背景的な事柄を理解します。

- 1 小学校の英語の授業指導に必要な基礎的英語運用能力を身につけることができる。
- 2 英語教育に関する背景的な事柄について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 学習内容・学習活動の設定

内容

1	コミュニケーションとは何か（Verbal Language / Non-verbal Language）
2	「聞くこと」の指導
3	「話すこと（やり取り・発表）」の指導
4	「読むこと」の指導
5	「書くこと」の指導

6	技能総合型の活動
7	英語の音声の仕組み
8	英語の語彙
9	英語の文法及び文構造
10	第二言語習得論と言語学
11	英米の絵本
12	英米の児童文学
13	文化と多様性
14	異文化理解
15	まとめ（授業内容全般にわたるレポート）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前時に示されたワークシート等（各授業に対して45分）

【事後学修】他の履修生の授業レポートを読み、考察する。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

- (1) 平常点（授業レポート、英語の小テスト等）80%
- (2) 授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 平常点（40%/80%） 授業参加度(10%/20%)

到達目標2 平常点（40%/80%） 授業参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回の授業レポートをシェアリングする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

吉田研作（監修）、小学校英語始める教科書、mpi、2017年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	村山 正子		
ナンバリング	KBd368		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。

学習指導要領に基づき、学校図書館の活用が活発に行われ、主体的・対話的で深い学びが実施されるためには、適切な情報メディアを選択・収集し、活用し、発表する情報活用能力の育成が求められる。当科目は、児童生徒に対する情報活用能力の育成指導の方法、主体的・対話的な探究学習を実施する方法、学校図書館を活用した学習指導を展開する教員への支援のあり方などの習得を目標とする。

科目の概要

学習指導と学校図書館との関りを中心に、児童生徒の情報活用能力育成のための基本と実践例を論じる。また、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択や授業支援のあり方について取り上げ、授業づくりをサポートする司書教諭の役割と任務、学校司書との連携について具体的な理解を図る。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- (1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を説明できる。
- (2) 情報活用能力の育成を図るスキルを理解し自分のレポートで活用できる。
- (3) 授業の展開に寄与するための発達段階に応じた学校図書館メディアの活用方法を説明できる。
- (4) 主体的・対話的で深い学びとなる探究学習の展開方法を考えることができる。

DPIは、 - 2 校務運営

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	教育課程と学校図書館	情報リテラシー教育
2	探究的な学習と情報活用能力の育成	テーマ設定
3	探究的な学習と情報活用能力の育成	情報収集
4	探究的な学習と情報活用能力の育成	整理・分析
5	探究的な学習と情報活用能力の育成	まとめ
6	探究的な学習と情報活用能力の育成	発表と相互評価

7	情報メディアの種類と発達段階に応じた活用
8	学習活動を支援する情報サービス
9	教育活動における学校図書館活用 教科・支援教育 他
10	教育活動における学校図書館活用 総合・特別活動 他
11	教育活動における学校図書館活用 学校司書との協働
12	学校図書館を活用した授業づくり 計画
13	学校図書館を活用した授業づくり 意見交換
14	学校図書館を活用した授業づくり 発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義に関する資料を指示するので調べて読んでおく。(各授業に対して60分)

【事後学修】講義で紹介されたホームページや図書等を調べたり、指示した発展的な課題を、レポートにまとめ次週提出。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

- (1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を説明できる。平常点10% レポート15%
 - (2) 情報活用能力の育成を図るスキルを理解し自分のレポートで活用できる。平常点10% レポート15%
 - (3) 授業の展開に寄与するための発達段階に応じた学校図書館メディアの活用方法を説明できる。平常点10% レポート15%
 - (4) 主体的・対話的で深い学びとなる探究学習の展開方法を考えることができる。平常点10% レポート15%
- 全体で、平常点40% レポート60% 総合評価60点以上を合格とする。
- 【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて資料を配布する。

【推薦書】 放送大学教材『改訂新版 学習指導とと学校図書館』堀川照代 塩谷京子 『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践 改訂版』公益社団法人全国学校図書館協議会 悠光堂 『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』堀川照代 公益社団法人全国学校図書館協議会 悠光堂 『図書館で調べ学習をやってみよう!子どもはハテナでぐんぐん育つ 指導法と実践例』 調べ学習研究会「調之森」 岩崎書店

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

児童教育学科の学位授与方針1, 2に該当します。この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業はグループ練習、個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。

以下、授業内容について列記します（順不同）。第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読

9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。（各授業に対して30分）

振り返りのレポートを最後に作成します。

評価方法および評価の基準

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、変化したこと、上達したこと、課題などを言語化・共有し、振り返りの省察を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名			
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

児童教育学科の学位授与方針1, 2に該当します。この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業はグループ練習、個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。

以下、授業内容について列記します（順不同）。第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読

9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。（各授業に対して30分）

振り返りのレポートを最後に作成します。

評価方法および評価の基準

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、変化したこと、上達したこと、課題などを言語化・共有し、振り返りの省察を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd369		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

児童教育学科の学位授与方針2, 3に該当します。この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。

小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、

心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

表現活動既修者が皆さんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は全体練習・グループ練習・個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読

4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。（各授業に対して30分）最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

評価方法および評価の基準

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、振り返りの会で省察を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職基礎演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd170		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

小学校教員の職務や担任教師の動きを「学校教育計画」をもとに理解するとともに、学校現場でその実際を知る。また、担任教師として求められる児童理解や人間理解のありかたを知り、対応のしかたを学ぶ。児童教育学科の学位授与方針 1, 3 に該当する。

科目の概要

小学校教員の職務の基礎的な事項について演習形式で学ぶ。学校現場における学校行事や学校安全の取り組みが、計画的に、組織的に実施されていることを学校現場の実践をもとに具体的に理解していく。また、教職にとっての基礎となる児童・人間理解、信頼関係の構築、学級問題について、事例を交えながら演習形式で学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・計画書等を作成し、学校現場について知る。
- ・小学校教員の職務を理解し、自分の適性についての判断材料や判断基準を得る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本授業は、以下の内容について、グループワーク、学校現場での観察等を通して学びを深める。

- 学校の1年を、学校教育計画をもとに理解する。
- 担任教師の1年の実際の取り組みを、学校現場の調査・観察をもとに体験的に学びを進める。
- 学校現場における学校行事や学校安全の取り組みの調査・観察をもとに学ぶ。
- 教師におけるコミュニケーションを通じての信頼関係の構築、および学級問題について事例を通して学ぶ。

オリエンテーション（学校インターンシップの目的）

富山

学校の目的、学校の1年間、教師の1年間

日出間

学校行事の目標と内容	日出間
学校行事の効果的な取組	日出間
学校安全の目標と内容	日出間
学校安全の効果的な取組	日出間
学校教育計画について	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 1 (例: 清掃などの当番活動)	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 2 (例: 給食の時間の指導)	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 3 (例: 始業式・終業式)	富山
教師における信頼関係の構築とコミュニケーション その 児童	綾井
教師における信頼関係の構築とコミュニケーション その 教員間・保護者	綾井
学級問題について	綾井
学級問題の早期発見、防止の具体例	綾井
まとめ	綾井

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う前提となる事項について『小学校学習指導要領解説(総則編)』、『小学校学習指導要領解説(特別活動編)』を読み、教育時事について情報を収集する。(あわせて60分)

【事後学修】インターンシップでの体験を授業の内容と関連づけ、教職(とくに学校・教職・学級)についての理解を深める。授業にて配布の資料を再読し、ノートを整理し、まとめる(あわせて60分)

評価方法および評価の基準

毎時間の学修票の作成(30点)、学習態度・積極性・発言等(30点)、まとめの試験(40点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用(紹介)していく。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

小学校学習指導要領, 小学校学習指導要領解説(総則編), 小学校学習指導要領解説(特別活動編)

【推薦書】「小学校キャリア教育の手引き」(教育出版)

【参考図書】授業時に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職発展演習		
担当教員名	松岡 敬明、山本 悟、狩野 浩二、塚田 昭一 他		
ナンバリング	KBd370		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

特別活動の企画・立案・運営に携わった経験を有する教員が担当し、主に学校行事における遠足・集団宿泊的行事について演習を取り入れながら指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」で、選択科目です。

小学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深めます。また、体験活動については、集団宿泊行事の模擬指導を通して、学校教育における実践的な資質、能力、知識、方法論を理解します。

科目の概要

講義を受けるとともに、主体的に事例を調べ発表し合う中で小学校教育に関する理解を深め表現力を高めます。前期は体験学習を通して実践的に学びます (夏期休暇中に2泊3日で実施)。後期は、集中授業の扱いとして、前期に実施した体験学習のまとめや、学校インターンシップの振り返り等を行い、教職に関する資質・素地を養います。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、グループによる調査・研究及びディスカッションを取り入れた授業を行います。【グループワーク】 【討議・討論】

到達目標

次の3点を授業のめあてとします。

- 1 宿泊を伴う校外学習の進め方、配慮事項を体験的に学び、実践につなげることができる。
- 2 学習活動や子どもとの接し方に関する諸問題に関心を持ち、その現状を調べて教職に関する自分なりの考えを整理することができる。
- 3 バスセッション等を用いた討論の進め方を身につけ、自分の意見を発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 教育活動の組立
- 1 他者との協働・役割・職務遂行
- 5 指導技術・子どもの関心・意欲喚起

内容

グループワークを中心に、特別活動(学校行事)の企画・立案・運営を学んだり、学校インターンシップ活動の成果をまとめたりする。

前期

- 1回目 オリエンテーション。年間活動計画と自然体験活動の内容確認。
学校インターンシップ活動のガイダンス説明(1～3年生合同) : 担当者全員
- 2回目 宿泊行事の位置づけ、指導方法、生活指導、安全管理等を調べる。 : 山本・松岡・塚田・狩野
- 3回目 集団宿泊的行事の進め方の確認、班編成 : 山本・松岡・塚田・狩野
- 4～6回目 集団宿泊的行事の計画書作成 : 山本・松岡・塚田・狩野
- 7回目 集団宿泊的行事の事前指導(しおりをもとに発表活動) : 山本・松岡・塚田・狩野
- 8～15回目 : 担当者全員
- 赤城山での体験活動と模擬指導(8月27日～8月29日:2泊3日で実施予定)
- ・宿泊を伴う行事の運営と安全管理、生活指導と健康管理
 - ・体験活動:登山、ハイキング、野外炊事、キャンプファイヤー等
 - ・移動時(交通機関を含む)における安全管理

後期

- 1～3回目 集団宿泊的行事の実践報告とまとめ : 担当者全員
- 4回目 学校インターンシップ活動の中間報告会(1～3年生合同) : 担当者全員
- 5～14回目
- 学習指導要領及び学校インターンシップ活動の実践より課題を設定し、バズセッション等による意見交換を通して教職に関わる基本的な知識や技能の修得を図る。
- ・学校インターンシップ活動の振り返りと発表活動 : 狩野、山本
 - ・すぐれた教育実践から学ぶ(授業づくりの素地を深める): 塚田
 - ・最新教育問題を考える : 塚田
- 15回目 まとめ(学校インターンシップ活動の最終報告会:1～3年生合同) : 担当者全員

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。集団宿泊的行事の計画書作成、各プレゼン活動の準備と発表資料作成。(各授業に対して45分)

【事後学修】授業内容を整理するレポート作成。授業で紹介した推薦書、参考図書の自主的講読。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

前期の集団宿泊行事に関する事前活動(計画書、指導案作成)やその実践的体験活動(模擬指導)および発表活動を50%、後期の発表活動とレポート等作成を50%として総合的に評価し、60%以上を合格とする。

到達目標1 事前活動・実践的体験活動・発表活動(25%/50%)

到達目標2 事前活動・実践的体験活動・発表活動(25%/50%)

到達目標3 発表活動・レポート作成50%

【フィードバック】発表活動とレポートに対して、コメントを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省「小学校学習指導要領」(最新版)

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」(最新版)

【推薦書】【参考図書】授業の中で適宜、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職応用演習		
担当教員名	山本 悟、日出間 均、星野 敦子、綾井 桜子 他		
ナンバリング	KBd470		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

- ・小学校及び中学校教員として、指導現場に深く携わった経験を持つ教員が担当し、教育実習の準備や振り返り活動に加えて、教職に関わる様々な実践的内容を取り入れながら指導を行う。
- ・新座市教育委員会より講師を招き、講話と質疑応答を行い、教職に関する理解を深める。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は児童教育学科専門科目の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」に位置づけ、小学校教諭一種免許状取得に必要な選択科目である。

科目の概要

4年生で履修する「教育実習」と並列に開設し実習の効果的な実践を補完するとともに、教職に就くための資質・能力を伸ばして即戦力として活躍できる教員となるための基礎を学修する。特に、教育の最新事情や教育課題の解決を意図した演習を行い、履修する学生が各々の児童観や指導観、教育観を構築するしていくことを支援する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心としながら、受講生の教育実習を通じた学びの発表活動と振り返りを題材にディスカッションする授業も行う。【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

到達目標

- 1) 教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力、及び学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身につける。
- 2) いじめ、暴力行為、不登校等の生徒指導に関連した基本的な知識や適切な対処法を理解する。
- 3) 自分の考えを文章や言葉で表したり、他者と巧くコミュニケーションできる表現力等を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -3学習内容・学習活動の設定 -2校務運営 -1子どもから学び、共に成長する姿勢

内容

1	授業ガイダンス、教育実習準備活動（実習についての講話：松岡）：狩野、岡本、山本
2	教育実習準備活動（教職関連の講話：塚田）：岡本、設楽
3	教育実習準備活動（教育実習講話：外部講師）：山本、狩野
4	教育実習における実践（教職関連の講話：三藤、綾井）：狩野
5	教育実習における実践：山本

6	教育実習における実践 : 岡本、設楽
7	教育実習における実践 : 狩野
8	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話: 久保田) 【プレゼンテーション】: 山本
9	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話: 日出間) 【プレゼンテーション】: 岡本
10	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話: 羽田) 【プレゼンテーション】: 狩野
11	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話: 星野) 【プレゼンテーション】: 山本
12	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話: 細谷) 【プレゼンテーション】: 岡本、設楽
13	教育実習の振り返り、卒業研究中間発表 (採用試験関連の講話: 中西) 【プレゼンテーション】: 狩野
14	教育実習まとめ(省察レポート作成) 【レポート(表現)】: 山本、岡本
15	まとめ (講話: 富山): 狩野、山本

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う内容に関連したテキストの自主的購読(30分)。プレゼン活動の準備(30分)。

【事後学修】授業で得た知識や授業内容のノート整理、配付資料の再考と整理(60分)。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、リアクションペーパー等15%、発表活動20%、まとめレポート35%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度(10%/30%)リアクションペーパー等(5%/15%)発表活動(10%/20%)

到達目標 2) 授業への参加度(10%/30%)リアクションペーパー等(5%/15%)発表活動(10%/20%)

到達目標 3) 授業への参加度(10%/30%)リアクションペーパー等(5%/15%)まとめのレポート(35%/35%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「小学校学習指導要領」(平成29年度版)東洋館出版社」

【推薦書】授業内で適宜、指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教育実習への参加、進路に関する就職活動により授業を欠席する機会が多くなるが、10回以上の出席を確保することが単位認定の条件である。

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	中西 郁、日出間 均、三藤 あさみ		
ナンバリング	KBd471		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小中学校、特別支援学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に学級経営や教科指導を行ってきた経験を活かして、効果的な学級経営や教科指導の在り方について講義を中心に演習も取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、教員の在り方、各教科等における実践的な指導力、学級経営に関する知識・技能の基礎的な事項を学修する。

科目の概要

学校現場に密着した実践的な学級経営や教科指導について考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるよう様々な事例の検討を通して指導力を身に付けていく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、ディスカッションによる事例の検討、指導計画の作成等を取り入れて授業を行う。

到達目標

1. 学力向上に向けた取組方策や特別支援教育を大切にした学級経営、教科指導の工夫を理解し、学級経営や教科指導の基本的な理論や方策を説明することができる。
2. 学級経営のねらいを理解し、学級経営計画や個別の指導計画を作成することができる。
3. 学級経営や教科指導の基本的な指導技術を身に付けるとともに、児童の意欲を喚起するとともに保護者から信頼される学級経営・教科指導を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 学級経営・学級づくり

内容

1	オリエンテーション【日出間・中西・三藤】
2	これからの学校教育に望まれること（チーム学校の実現）【三藤】
3	学校の特色を理解して、学級経営を考える【三藤】
4	育成すべき学力と学力が向上する指導方法を考える【三藤】
5	学習のつまずきの把握と対策【三藤】
6	学校の特色を生かした学級経営案、学力向上を意識した学習指導案の意義と作成（演習）【三藤】

7	特別支援教育の意義、現状と課題 【中西】
8	特別支援教育を大切にしたい学級経営の実践 【中西】
9	特別支援教育を大切にしたい学級経営の充実方策 【中西】
10	特別支援教育を大切にしたい教科指導の実践 【中西】
11	個別の指導計画の意義と作成（演習） 【中西】
12	朝の会や帰りの会の進め方 【日出間】
13	保護者へのお知らせや学級通信の書き方と留意点 【日出間】
14	学校インターンシップのまとめと来年度への引継ぎ 【日出間】
15	まとめ 【日出間】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを参考に、授業内容に関連する1年生の学校インターンシップの成果と課題について整理しておく。
（各授業に対して60分）

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組み、授業で学んだことを整理し、理解を深めておく。（各授業に対して90分）

評価方法および評価の基準

各授業で指示する課題（レポート等）への取り組み（30%）と試験（70%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10%/30%） 筆記試験（40%/70%）

到達目標2 課題提出（10%/30%） 筆記試験（15%/70%）

到達目標3 課題提出（10%/30%） 筆記試験（15%/70%）

【フィードバック】提出された課題（レポート等）は、翌週以降の授業内で活用（紹介）し、前回の学習内容を振り返り、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。

【推薦書】

「小学校学級担任のためのよくわかるインクルーシブ教育」.中西 郁 他 著.開隆堂

【参考図書】

「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省、その他必要に応じて授業時に随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

・インターンシップ先の学校を「自分が教員として勤務している学校」と仮定して「教員としてどのように取り組むべきか」を考えます。インターンシップ先の学校の特色や児童の様子を観察したり、HPで閲覧したりして理解しておいてください（三藤）

科目名	外国語活動		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBd372		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

英語の指導経験を有する教員が、専門性をもって具体的な指導法・指導技術を指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目です。

児童にとっての外国語活動とは何かを考察し、具体的な指導法を学ぶとともに、小学校高学年の外国語への円滑な接続についても学びます。

科目の概要

外国語活動全般に関する知識を身に付け、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を児童に育成するための指導技術を学びます。

授業の方法（ALを含む）

グループで指導案の検討を行ったり、コミュニケーション・エクササイズの課題解決を図ったりします。【グループワーク】

到達目標

小学校学習指導要領における外国語活動の趣旨を理解し、指導計画の作成はじめ、実践的指導力を養います。

- 1 学習指導要領における外国語活動の目標・内容等を理解することができる。
- 2 学習指導案を作成することができる。
- 3 Classroom English を使用し、授業をすすめることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 3 学習内容・学習活動の設定
- 4 教材研究、学習指導案作成
- 5 指導法の工夫

内容

小学校外国語活動の目標及び内容等を理解し、"Let's Try!"（文部科学省）の活用の仕方を学びながら実践的指導力を身に付けることを目指します。授業は、講義と演習を交えて進めていきますが、グループワークを中心に、学習

者相互の省察を生かし、指導技術の向上を図ります。授業全般を通じて、コミュニケーションとは何かということを追及していきます。

1	オリエンテーション（授業の進め方）
2	外国語活動導入の経緯
3	小学校外国語活動の役割
4	基本的な外国語指導法
5	"Let's Try! 1" の内容と年間指導計画
6	"Let's Try! 2" の内容と年間指導計画
7	"Let's Try! 1"を活用した指導の実際
8	"Let's Try! 2"を活用した指導の実際
9	言語活動（1）（歌、チャンツ）
10	言語活動（2）（ゲーム）
11	言語活動（3）（アクティビティ）
12	指導案の作成について
13	模擬授業（1）
14	模擬授業（2）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前時に示されたワークシート等（各授業に対して45分）

【事後学修】Classroom English の反復練習（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

レポート50%、模擬授業30%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 レポート(15%/50%) 授業への参加度(10%/20%)

到達目標2 レポート(15%/50%) 模擬授業(10%/30%) 授業への参加度(5%/20%)

到達目標3 レポート(20%/50%) 模擬授業(20%/30%) 授業への参加度(5%/20%)

【フィードバック】毎回のレポートをシェアリングする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Let's Try! 1 & 2 ・文部科学省

小学校学習指導要領解説外国語活動編・文部科学省(平成29年7月)

【推薦書】授業時に紹介する。

【参考図書】小川隆夫、東仁美・小学校英語はじめる教科書・mpi

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合学習の授業づくり		
担当教員名	星野 敦子、三藤 あさみ、綾井 桜子、塚田 昭一 他		
ナンバリング	KBd373		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。
 体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるように指導に配慮し、子供たちの思考力・判断力、表現力等を育むと共に、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得に資するなど、教科と一体となって子どもの力を伸ばすものである。

科目の概要

「生きる力」を育むために、横断的・総合的な学習のみならず探究的な学習の実現を目指す。また、体験的な学習活動の充実にも配慮し、学習活動を通して。そのためには、こうした学習に不可欠の資質・能力の育成を重視し、学び方やものの考え方を身に付ける学習活動の工夫を図った指導案や活動計画をつくる力の育成を目指した指導の在り方を明らかにする必要がある。

授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

学修目標（＝到達目標）

総合的な学習の時間の充実のために必要な、課題発見、課題解決、目標の共有、地域との連携、共同的な学びの実現といった活動に必要な資質・能力・態度の具体的な育成や活動内容の工夫を協力して考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-4教材研究、学習指導案作成

内容

1	ガイダンス：総合的な学習の時間の現状と課題（全員）
2	「総合的な学習の時間」の歴史的経緯と現状（大友）
3	「総合的な学習の時間」で育てる資質・能力・態度（大友）

4	「総合的な学習の時間」での多様な授業実践例から学ぶ(大友)
5	「総合的な学習の時間」の時間と地域連携(新座市との連携について)(星野・塚田)
6	「総合的な学習の時間」の指導案づくり(三藤・塚田)
7	「総合的な学習の時間」の指導案づくり(三藤・塚田)
8	「総合的な学習の時間」の時間の授業づくり(星野・塚田)
9	「総合的な学習の時間」の時間の授業づくり(星野・塚田)
10	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業(塚田・三藤)
11	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業(星野・綾井)
12	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業(塚田・綾井)
13	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業の評価(綾井・星野)
14	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業の評価(綾井・塚田)
15	まとめ(綾井・星野・三藤・塚田)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時の学習内容を伝え、次時の学習までに調べる課題を提示する。(1時間以上)

【事後学修】本時の学習で学んだことをレポートにまとめさせ、提出させる。(1時間以上)

評価方法および評価の基準

「総合的な学習の時間の充実のために必要な、課題発見、課題解決、目標の共有、地域との連携、共同的な学びの実現といった活動に必要な資質・能力・態度の具体的な育成」

「平常点」10%、「授業に対する意欲・関心・態度」10%、「出前授業の実践」40%、「レポート」40%、

「活動内容の工夫を協力して考えることができる。」

「平常点」10%、「授業に対する意欲・関心・態度」10%、「出前授業の実践」40%、「レポート」40%、

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ICT教育と教科指導		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KBd374		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科・教職融合分野 教育の理論及び実践の応用に関する科目」の専門選択科目である。小中高のいずれの教員免許に関連する。

科目の概要

授業でのICT活用が着実に進展し、学習指導要領において情報教育の充実やアクティブ・ラーニングへのICT活用が必須になった一方で、ICT機器等の整備や教員のICT指導力の点で課題も明らかになっている。本科目では、ICT教育についての理論と実際に授業で活用できる技術を身につけ、教員としての指導力育成に取り組む。

授業の方法（ALを含む）

理論部分は講義でおこなう。そこでの課題に関して、レポートを作成する。

教材作成では、ICTスキルを身につけ、実際の授業で使える教材を創造する。

到達目標

- ・ICT活用教育、並びに教育の情報化、情報教育に関する理論や考え方が分かる。
- ・自ら主体的にICT活用を前提とした教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができる。
- ・基本的なICT活用の指導技術を身につけるとともに、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- ・指導法の工夫
- ・学習内容・学習活動の設定
- ・教材研究、学習指導案作成

内容

講義による解説とグループによる討論活動を取り入れる。

1	情報化の進展と教育の情報化
2	学習指導要領における教育の情報

3	教科指導におけるICT活用
4	情報教育の体系的な推進
5	学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携
6	校務の情報化の推進・教員のICT活用指導力の向上、学校におけるICT環境整備
7	情報活用能力の調査、評価
8	未来へ向かってのICT活用の在り方
9	ICT機器活用体験（電子黒板・デジタル教科書など）
10	プログラミング教育の在り方
11	プログラミング教育の実際
12	ICTを活用した教材設計
13	ICTを活用した教材開発
14	ICTを活用した教材の評価
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前配布する資料の確認、不明なキーワードを調べる。(60分)

【事後学修】授業で課す、レポート課題、指導案作成、教材開発等を行う。(120分)

評価方法および評価の基準

総合評価60点以上を合格とする

- ・ ICT活用教育、並びに教育の情報化、情報教育に関する理論や考え方 レポート 35%
- ・ 自ら主体的にICT活用を前提とした教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成 教材・指導案 35%
- ・ 基本的なICT活用の指導技術を身に付けるとともに、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる レポート・発表 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】学習指導要領など

他授業時間内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	理科実験・観察演習		
担当教員名	塚田 昭一、高橋 等		
ナンバリング	KBd375		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実験・実習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、小中学校の学習内容である理科の観察・実験を効果的、安全に実施できる技能や指導技術について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目です。小中学校の学習内容である理科の観察・実験を効果的に行い、安全な観察・実験の技能、科学的な概念を育成する方途等、実践的指導力を身に付けます。

科目の概要

理科教育の特質は、実際の観察・実験により、科学的思考力、問題解決の力を身に付けさせるところにあります。安全でも効率よく観察実験を行い、児童の科学的思考力や表現力を高めるため、実際に観察・実験器具の準備や、薬品等の希釈、実験操作等を行います。また、小学校と関連する中学校理科の内容も扱い、小中学校の教育課程の接続も踏まえて学修します。

授業の方法（ALを含む）

本科目は観察・実験を中心として行います。観察・実験の際には、グループで協議をしたり、演示実験を担当する班はプレゼンテーションを行ったりと、双方向の学びを取り入れた授業を行います。

到達目標

1. 小学校段階における問題解決の方法に加え、中学校段階における探究的な学習についての指導方法を身に付けることができる。（観察・実験のパフォーマンステスト、レポート等30/60%）（最終試験20/40%）
2. 観察・実験の事故防止や薬品の希釈・濃度調整など、基礎的な観察・実験技能を身に付けることができる。（観察・実験のパフォーマンステスト、レポート等30/60%）（最終試験20/40%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 学習内容・学習活動の設定
- 5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

小学校の学習内容と特に関連のある中学校の学習内容について、基礎的な観察・実験技能の習熟を図ることを目的とし、グループにより協同しながら演習を行い、理科（科学）に関する基礎的な技術や知識を習得します。

1	理科学習（観察・実験）を楽しく学ぶ方法と教え方（ガイダンス）
2	観察・実験方法1 花のつくりとはたらき（虫眼鏡・ルーペの使い方）【実技】【実験】
3	観察・実験方法2 光合成の仕組み（顕微鏡・双眼実体顕微鏡の使い方）【実技】【実験】
4	観察・実験方法3 物の燃焼（気体検知管・気体センサーの使い方）【実技】【実験】
5	観察・実験方法4 酸とアルカリの反応（薬品の希釈・濃度調整・メスシリンダー）【実技】【実験】
6	観察・実験方法5 電池の仕組み（電池とイオン）【実技】【実験】
7	観察・実験方法6 仕事とエネルギー（衝突実験・位置エネルギー）【実技】【実験】
8	観察・実験方法7 身の回りのてこ（第1、2、3種のてこの仕組み）【実技】【実験】
9	観察・実験方法8 空気と水の性質（体積変化/状態変化）【実技】【実験】
10	観察・実験方法9 電流とその働き（電流による発熱）【実技】【実験】
11	観察・実験方法10 エネルギー変換（ペルチェ素子・風力・水力等の発電実験）【実技】【実験】
12	観察・実験方法11 音と振動（振幅/振動数）【実技】【実験】
13	観察・実験方法12 気象とその変化（気象観測）【実技】【実験】
14	観察・実験方法13 天体の運動を観察（モデル実験）【実技】【実験】
15	日常生活と理科の学習の関連について（理科の意義や有用性）・まとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次時の学習課題（観察・実験のねらいと内容）について調べ、授業に臨みます。（各授業に対して60分 演示実験を担当する班は90分）

【事後学修】実際に行った観察・実験技能や結果の整理等についてまとめ、レポートとして提出する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度と観察・実験のパフォーマンステスト30%、毎時間のレポート30%、最終試験40%、総合評価60点を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説「理科編」（平成29年7月）中学校学習指導要領解説「理科編」（平成29年7月）

【推薦書】文部科学省「小学校理科の観察、実験の手引き」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/1304651.htm

【参考図書】塚田昭一編著「新学習指導要領の展開」明治図書出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演示実験をする担当班は、必ず予備実験を行ってから授業に臨むようにします。

科目名	教育行政概論		
担当教員名	羽田 邦弘		
ナンバリング	KBd476		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験及び地方自治体における教育行政経験のある者がそれらの経験を活かし、教育行政の仕組みや学校との関係などについて指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」領域にある選択科目である。

科目の概要

教育行政の仕組みを学ぶとともに、具体的な施策事例について研究し、その目的と方策について考察する。行政と教育との関わりという視点から学校教育について考えるとともに、主体的に教育行政施策を検討する。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心として、ディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行い、振り返りシートや課題レポートの提出を求める。【討論・討議】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

1. 教育行政の仕組みについて理解し、教育と行政との関わりを説明できる。
2. 教育行政について、自分で問いを立て、他者と協働して考察できる。
3. 教育行政からの視点を持つことにより、より多面的に考え、自身の職業選択に生かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保護者や地域との連携・課題解決 - 2 使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

内容

1	オリエンテーション、教育行政とは何か
2	教育行政と教育法規
3	地方教育行政の組織と機能
4	教育委員会制度の変遷
5	学校と教育行政 1 学校の管理と経営

6	学校と教育行政 2 教育課程に関する行政
7	教師と教育行政 1 教職員の養成・採用・研修
8	教師と教育行政 2 学校における働き方改革
9	総合的な教育振興プランの策定
10	教育改革の動向と課題
11	事例を通して学ぶ 1 グローバル化に対応した教育の推進
12	事例を通して学ぶ 2 エビデンスに基づく教育行政
13	事例を通して学ぶ 3 学力向上に係る施策の展開
14	事例を通して学ぶ 4 地域と連携した教育の推進
15	全体まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に提示された課題について調べ、考察する。(60分)

【事後学修】 授業後に振り返りシートを完成して提出する。(60分)

評価方法および評価の基準

毎回の授業の取組・発表状況(30%)、毎回の振り返りシート(30%)、課題レポート(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 提出された振り返りシート等は評価点をつけて返却し、授業の中で活用(紹介)する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 授業ごとにプリントを配布する。

【推薦書】 授業の中で随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1，2に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

評価方法および評価の基準

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

評価方法および評価の基準

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1，2に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

評価方法および評価の基準

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	書写・文章表現演習（基礎）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子		
ナンバリング	KBd278		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2，4 に該当する。小学校教員として文字指導を行うための基礎と，文章を書くため基礎を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（硬筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を学ぶ（実技を含む）。また，チョークによる板書を通して教師の書く文字についてもそのポイントを学習するとともに，ICTを用いた教材の作成などにも取り組む。

文章表現では，話し言葉と書き言葉の違い，分かりやすい表現など，文章を書くための基礎を身に付けるほか，問いに正対して書くなど，小論文を書く基本を学習する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 1.文字表現に関心を持ち，進んで文字や文章を書こうとする。
- 2.文字指導を行うための基本的な知識を身に付け，板書やプリント作成に生かす。
- 3.文章を書くための基礎を身に付け，小論文を書く。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は演習を中心とし、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深めていく。

1	ガイダンス，文章表現 ～話し言葉と書き言葉～（綾井）
2	文章表現 ～文章表現の基礎、優れた表現から学ぶ～（綾井）
3	文章表現 ～分かりやすい文章を書く～（綾井）
4	文章表現 ～実用的な文章を書く～（綾井）
5	文章表現 ～問いに正対した文章を書く～（綾井）
6	書写 ～文字指導の概要，学習指導要領の理解，姿勢や筆記具の持ち方，平仮名1～（富山）

7	書写 ~平仮名2~ (富山)
8	書写 ~平仮名3, 板書の基本・チョークの持ち方~ (富山)
9	書写 ~片仮名~ (富山)
10	書写 ~学習指導要領「書写」の内容, 漢字1:点画の種類と筆順~ (富山)
11	書写 ~漢字2:文字の組み立て~ (富山)
12	書写 ~漢字3:文字の大きさや配列~ (富山)
13	書写 ~読みやすい板書を考える~ (富山)
14	書写 ~書写指導の教材を作る(ICT機器を利用)~ (富山)
15	まとめと振り返り, 文章表現の工夫, 文字指導について考える~ (富山)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス及び次回予告に即して、テーマに関する資料を集めたり、自身の課題を把握したりする(各授業に対して45分)。書写の学修においては、Bまたは2Bの鉛筆を準備すること。

【事後学修】実技を伴う学修においては復習するとともに、日常生活での活用を意識的に行う(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

演習等への参加状況及び作成物の状況70%, 最終的な論述レポート30%とし, 総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』

【推薦書】教室で紹介する。

【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	綾井 桜子、小口 かおり		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

第9回から第15回までを実務経験を有する教員が指導する。書家の専門的技能をもった教員が小学校の書写について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことの基礎を学ぶとともに，レポートと小論文を実際に作成しながら，探求したことを適切に文章化するための知識・技能を高める。

授業の方法（ALを含む）

論理的な文章の作成演習、書写の実技を中心とする。【レポート（表現）】、【実技】

到達目標

- 1.文字を手書きすることに関心をもち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書くことができる。
- 2.毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。
- 3.精度の高い論理的な文章を書くとともに，レポートと小論文を書くための知識・技能を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 指導法の工夫、3 - 主体的・継続的学修

内容

この授業は、毛筆を中心とした書写、論理的な文章を書くことについて実践的な演習を中心に学修を進めていく。

1	ガイダンス，文章表現 ～多様な意見を踏まえて自分の考えを書く～（綾井）
---	-------------------------------------

2	文章表現 ~ 根拠と意見を踏まえて考えを書く~ (綾井)
3	文章表現 ~ 批判的に読んで考えを書く~ (綾井)
4	文章表現 ~ 論理的な文章を書く基本~ (綾井)
5	文章表現 ~ 「引用」した文章を書く~ (綾井)
6	文章表現 ~ よりよいレポートを書くために~ (綾井)
7	文章表現 ~ 小論文を書く (1)よい小論文とは~ (綾井)
8	文章表現 ~ 小論文を書く (2)実践編~ (綾井)
9	書写 ~ 毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法~ (小口)
10	書写 ~ 用具・用材とその扱い方~ (小口)
11	書写 点画の書き方, 画の組み立て方~ (小口)
12	書写 ~ 文字の組み立て方~ (小口)
13	書写 ~ 平仮名・片仮名の書き方~ (小口)
14	書写 ~ 文字の大きさ・配列・字配り~ (小口)
15	書写 ~ 学習指導要領と指導計画, 評価について~ (小口)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス及び予告で示した課題に基づき、必要な事前準備を行う（各授業に対して45分）。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄，参照）。

【事後学修】返却された課題や作品に基づいて、復習をする（各授業に対して45分）。

評価方法および評価の基準

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%，最終的な作成物40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので，道具（毛筆，墨，硯，半紙）を必ず持参すること。

提出物については次回以降の授業で返却し、質問等にも回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編』

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	綾井 桜子、高橋 英明		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

第9回から第15回までを実務経験を有する教員が指導する。書家の専門的技能をもった教員が小学校の書写について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことの基礎を学ぶとともに，レポートと小論文を実際に作成しながら，探求したことを適切に文章化するための知識・技能を高める。

授業の方法（ALを含む）

論理的な文章の作成演習、書写の実技を中心とする。【レポート（表現）】、【実技】

到達目標

- 1.文字を手書きすることに関心をもち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書くことができる。
- 2.毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。
- 3.精度の高い論理的な文章を書くとともに，レポートと小論文を書くための知識・技能を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 5 指導法の工夫、3 - 主体的・継続的学修

内容

この授業は、毛筆を中心とした書写、論理的な文章を書くことについて実践的な演習を中心に学修を進めていく。

1	ガイダンス，文章表現 ～多様な意見を踏まえて自分の考えを書く～（綾井）
2	文章表現 ～根拠と意見を踏まえて考えを書く～（綾井）

3	文章表現 ~ 批判的に読んで考えを書く ~ (綾井)
4	文章表現 ~ 論理的な文章を書く基本 ~ (綾井)
5	文章表現 ~ 「引用」した文章を書く ~ (綾井)
6	文章表現 ~ よりよいレポートを書くために ~ (綾井)
7	文章表現 ~ 小論文を書く (1)よい小論文とは ~ (綾井)
8	文章表現 ~ 小論文を書く (2)実践編 ~ (綾井)
9	書写 ~ 毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法 ~ (高橋)
10	書写 ~ 用具・用材とその扱い方 ~ (高橋)
11	書写 点画の書き方, 画の組み立て方 ~ (高橋)
12	書写 ~ 文字の組み立て方 ~ (高橋)
13	書写 ~ 平仮名・片仮名の書き方 ~ (高橋)
14	書写 ~ 文字の大きさ・配列・字配り ~ (高橋)
15	書写 ~ 学習指導要領と指導計画, 評価について ~ (高橋)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス及び予告で示した課題に基づき、必要な事前準備を行う（各授業に対して45分）。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄，参照）。

【事後学修】返却された課題や作品に基づいて、復習をする（各授業に対して45分）。

評価方法および評価の基準

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%，最終的な作成物40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので，道具（毛筆，墨，硯，半紙）を必ず持参すること。

提出物については次回以降の授業で返却し、質問等にも回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe379		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「英語教諭資格関連分野-英語学に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方に触れながら、「ことば」を科学的に分析するとはどうことかを学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

各分野に関する具体的な言語事象や映像資料を取り上げながら、該当分野の基本的な概念の説明を行う。その後、グループで具体的な言語事象を観察、分析する。教材や課題はハンドアウトと学内フォルダで提示する。授業の初めに毎回ミニテストを行い、基本的な概念の定着を図り、具体的な言語事象の分析の練習を行う。授業の終わりに記入するリアクションペーパーで出た質問は、次回冒頭で共有、解説する。【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

到達目標

- (1)心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を理解し、口頭で述べたり、文章で説明することができる。
- (2)言語学のいくつかの分野に関する基本的な考え方に触れることを通して、「ことば」を科学的に分析できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 学習内容・学習活動の設定

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習・課題の提出・ペアワークにより、学びを深める。また、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語学のめざすもの・国際共通語としての英語
2	言語とは何か(1)：(人間)言語の特性と個別言語としての英語の特性
3	言語とは何か(2)：生成文法理論の考え方（英語のwh疑問文・等位構造制約を例に）
4	言語とは何か(3)：動物の「言語」と人間言語（GuaからKanziまで類人猿に言語（英語）を習得させる実験の歴史と成果）
5	言語の習得<心理言語学(1)>：言語獲得の特性（英語と日本語の資料を例に）
6	言語の習得<心理言語学(2)>：言語獲得に関する諸説（英語と日本語の資料を例に）
7	言語の習得<心理言語学(3)>：言語獲得研究（英語を母語とする子供の言語獲得研究）
8	言語の習得<心理言語学(4)>：各モジュールの習得課程英語の語彙獲得過程、英語の否定文・疑問文の獲得過程）
9	言語の多様性<社会言語学>(1)：社会言語学の対象
10	言語の多様性<社会言語学>(2)：言語内的要因
11	言語の多様性<社会言語学>(3)：言語外的要因
12	言語の多様性<社会言語学>(4)：言語変化のメカニズム
13	英語の歴史<通時言語学>(1)：古英語から中英語までの音変化・語彙変化・統語上の変化
14	英語の歴史<通時言語学>(2)：中英語から現代英語までの音変化・語彙変化・統語上の変化
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。(50分程度)

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。(50分程度)

評価方法および評価の基準

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1) 期末試験（40%/70%）、復習テスト(10%/30%)

到達目標(2) 期末試験（30%/70%）、復習テスト(20%/30%)

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe380		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「英語教諭資格関連分野-英語学に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 (英語の単語の構造)、統語論 (英語の文の構造)、意味論 (意味の構造) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

授業の方法 (ALを含む)

各分野に関する具体的な言語事象を取り上げながら、該当分野の基本的な概念の説明を行う。その後、グループで具体的な言語事象を観察、分析する。教材や課題はハンドアウトと学内フォルダで提示する。授業の初めに毎回ミニテストを行い、基本的な概念の定着を図り、具体的な言語事象の分析の練習を行う。授業の終わりに記入するリアクションペーパーで出た質問は、次回冒頭で共有、解説する。【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

到達目標

- (1) 英語学の中核をなす形態論、統語論、意味論を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学基本的な概念を理解し、口頭で述べたり、文章で説明することができる。
- (2) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉え、言語事象を(1)で学んだ知識を用いて観察、分析することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 学習内容・学習活動の設定

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習・課題の提出・グループワークにより、学びを深める。また、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の特徴
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成過程(造語・借用・逆形成・短縮・頭文字語・混成)
6	形態論(5): 語形成過程(派生・屈折・複合・転換)
7	統語論(1): 統語論とは
8	統語論(2): 文法性の判断
9	統語論(3): 句構造1(構成素・品詞)
10	統語論(4): 句構造2(句構造標識・句構造の型・文の無限性)
11	統語論(5): 文法操作
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか・発話行為・会話の含意
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。(20分程度)

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。(30分程度)

評価方法および評価の基準

期末試験70%、小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います)30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1) 期末試験(40%/70%)、復習テスト(10%/30%)

到達目標(2) 期末試験(30%/70%)、復習テスト(20%/30%)

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』, 郡司隆男・西垣内泰介編, 研究社, 2800円. 801/K

『言語研究入門』, 大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編, 研究社, 3500円. 801/G

『文法』, 益岡隆志他著, 岩波書店, 3400円. 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』, 郡司隆男・坂本勉著, 岩波書店, 3000円.

『言語の科学入門』, 松本祐治他著, 岩波書店, 3400円.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語音声学（子音と母音）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無
無

実務経験および科目との関連性
無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「英語学に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

科目の概要

低学年の児童は外国語音声を聞いた通りに再生できる場合があるが、大人である教師は、紛らわしい音同士の構音上の違いを意識して練習することが重要である。理解に基づく自信をもって、伝わり易い英語を指導できるようにする。発音を記憶するための助けとしての文字を、発音と区別することに注意する。

授業の方法（ALを含む）

日本語では区別しないのに、英語で区別される複数の似た発音は、基本的に他者の発話中でも区別できないが、ときどき他者の発音は批評が可能ながある。音の区別が必要になる発音ゲームも利用して、ペアワークやグループワークを行う。【グループワーク】

到達目標

1. 発音記号の表記があれば、英単語を正確に発音できる
2. 子音の分類の3つの切り口を説明できる
3. 母音を記述する3つの切り口を説明できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 学習内容・学習活動の設定

内容

事前準備の紙をペアやグループで交換しコメントし合った後、教科書の各Quiz・Exercise・Comparisonをペアで発音してききあって直したり、推薦書のゲームをグループで行ったりして進める。

1	音声器官・英語の閉鎖音 /p, t, k: b, d, g/
2	英語の /t/ の発音・気音
3	英語の鼻音 (/m, n/ と軟口蓋鼻音)

4	英語の摩擦音 (/f, s, h; v, z/と歯摩擦音、硬口蓋歯茎摩擦音)
5	英語の子音同士の区別 (/s; z/と歯摩擦音、/b/と/v/など)
6	摩擦と破擦の違い (特に/z/と/dz/、有声硬口蓋歯茎音同士の区別)
7	子音字(群)と発音
8	英語の短母音
9	母音字1字と発音 (短音読み・長音読み)
10	英語の二重母音
11	英語の長母音・母音字a, iの大陸読み
12	母音字2字と発音・朗読の録音(1)
13	英語のrの二重母音・朗読の録音(2)
14	音節・半母音・弱母音
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

1. 上記の各回の内容を教科書から要約し、1段落以上のワードファイル1つに保存する。2回目からは、別の章に加筆する
2. 1に続けて、自分の不得意な発音の語を挙げて、1段落加筆する (以上各回60分)
3. その授業回の部分を印字して持参する

【事後学修】

1. 授業中のパートナーのコメントから、同じ章に1段落加筆する
2. 授業中の活動や講義に関する感想も、同じ章に1段落加筆する
3. 難しく感じた発音を教科書の音声で練習 (以上各回60分)

評価方法および評価の基準

【評価方法】

到達目標1の理論の筆記試験を10%、その録音課題を20%、
 到達目標2の理論の筆記試験を20%、その録音課題を10%、
 到達目標3の理論の筆記試験を20%、その録音課題を10%、
 その他、授業での参加度を10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】配布された録音課題の台本の行間等にメモ書きしたものを提出していただき、コメントを加えて授業中に返却する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】新装版『英語音声学入門』(音声CD付), 竹林滋 / 斎藤弘子 (2008), 大修館書店.

【推薦書】_Clear Speech, 4th Edition_, Student's Book with Integrated Digital Learning: Pronunciation and Listening Comprehension in North American English, (Judy B. Gilbert 著、Cambridge University Press; 4版 (2017)、ISBN: 978-1108659338).

English Pronunciation in Use, Intermediate Book, with Answers and Downloadable Audio (Mark Hancock 著、Cambridge University Press; 2版 (2017)、ISBN: 978-11084036).

科目名	英語音声学（発話実践）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「英語学に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

科目の概要

英語のイントネーションは、「語句のまとまり付け・焦点位置選択・ピッチ変化の形の選択」に分解すれば、意識的学習が可能となる。「イントネーションは、ほぼ、言語一般に普遍的である」と言う人は多いが、個々の言語には独特で多用されるパターンも存在する。外国語を流暢に使うには、パターンが身につくよう練習量をこなすだけでなく、母語との対照により分析的に理解することも有用である。

授業の方法（ALを含む）

童話の朗読など、良いお手本音声の特徴的な短い部分を抜き出して、内容のみ考えつつ自動的に発音できるまで繰り返し練習する。クラス全体のコーラスリーディングで英語らしい語り方ができるようになったら、ペアワークでチェックしあう。2往復程度の会話も同様の順番でコーラスリーディングとペアワークを行う。

到達目標

1. 英語の音節を日本語の拍と区別して発音できる
2. 複合語アクセントと句アクセントを区別して発音できる
3. 文脈に応じて、適切な音節に焦点を当てて発話できる
4. 無理のない範囲で、弱音節を弱く速く発音して発話できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 学習内容・学習活動の設定

内容

教科書の後半部分の各Quiz・Exercise・Comparisonのみでは飽きやすいので、児童英語で使われている早口ことば・中学校の教科書の例文・英語の歌・朗読音声のついた絵本などのお手本を補充する。

この科目の教科書・その他からのお手本音声から、特徴のよく表れた短い語句などを選んで、クラスのコーラスリピーティングを数回繰り返した後、ペアで助け合って発音を教えあうことによって確実に身につける。

下のリストの内、2以降は教科書の後半の内容であり、これを進度の目安として使う。

1. 個々の音（子音・母音）についての概観
2. 英語の音節とは
3. 英語の子音連続内の半母音の発音
4. 暗い/ɪ/の発音
5. 鼻腔開放・側面開放

6. 単語間のつながり
7. 弱母音
8. 脱落・同化
9. 複合語アクセント・句アクセント
10. 音調群

11. 上昇調の音調群
12. 下降調の音調群
13. 下降上昇調の音調群
14. 特殊なイントネーション
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の例文（例語でなく）や配布資料の文（章）を一文ずつドリル音読すること（各回の授業に対して45分）

【事後学修】

1. 普段から、英語の映画やテレビの英語音声を聴く時間を割く習慣をつけること。
2. 録音課題があるときは、自然に話せるまで長時間練習する。（平均各回あたり60分）

評価方法および評価の基準

2, 3回の録音課題を50%、試験を30%、授業での参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】録音後に、特に練習した点を台本の行間にメモ書きしたものを提出していただき、できるだけコメントを加えて授業中に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】竹林滋 / 斎藤弘子（2008），新装版『英語音声学入門』（音声CD付），大修館書店。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教員も学生のほとんども母語が日本語なので、日本語のようなリズムとイントネーションをした英語の方が分かり易いのは当たり前と言えます。そのため、ネイティブやバイリンガルな教師の方が圧倒的に有能になるのですが、理論的発見（質）と練習量の両方で、お互いそれぞれの望む流暢さを目指しましょう。英語教員のイントネーションが自然になれば、もっと大事な事柄が児童・生徒に伝わりやすくなると思います。

科目名	ことばへの気づきワークショップ		
担当教員名	向後 朋美、設楽 優子		
ナンバリング	KBe382		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「英語教諭資格関連分野-英語学に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。「ことばのしくみ」と「英語音声学Ⅰ」で学んだことをふまえるため、この2科目を履修していることが履修の条件となる。また、少なくとも「英語学」「英語音声学Ⅱ」と同時か、または、履修後に履修することが望ましい。

科目の概要

ことばのしくみや働きについての関心を深め、ことばの楽しさ、豊かさに気づくことができるように、協同学習を取り入れた授業を行う。また、小学校外国語活動とのつながりや活用法についても解説を加える。

授業の方法（ALを含む）

学生には毎回授業の初めに担当箇所の説明や考察をPPTを使用して発表してもらう。その後、付加的な解説を教員が行い、課題についてグループワーク、ディスカッションを行う。教材や課題はハンドアウトと学内フォルダで提示する。授業の終わりに記入するリアクションペーパーで出た質問は、次回冒頭で共有、解説する。【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1)ことばとは何かを知るため、まずは母語である日本語を観察し、次にそれを英語と比較しながら、両者の仕組みや働きの共通性と相違性を明示的に口頭で述べたり、文章で説明することができる。
- (2)ことばの音は文字と同じではないことを知り、発音と正書法の日・英それぞれで比べ、言語音声一般に関する基本事項を口頭で述べたり、文章で説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

レポーターの学生の発表、グループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。

1	ガイダンス：向後
2	語のしくみ(いろいろな意味を持つ言葉・同じ読み方の漢字)：向後
3	語のしくみ(似た意味の言葉・和語・漢語・外来語・反対の意味の言葉)：向後
4	語のしくみ(なかまの言葉と漢字・熟語の意味と成り立ち)：向後
5	語のしくみ(複合語)：向後
6	日本語の文字(文字の機能と歴史・筆順)：設楽
7	英語の文字(大文字小文字・筆記体等)：設楽
8	発音と文字とのずれ(日本語特殊拍・歴史的かな遣い)：設楽
9	発音と文字との対応関係(英語フォニックス)：設楽
10	発音を辞書で調べる(日本語の語アクセント・英語のCUBE等)：設楽
11	発音で語句のまとまりを示す(日・英の複合語や語句の高低/強弱)：設楽
12	文のしくみ(言葉を分類する・主語と述語)：向後
13	文のしくみ(ようすをあらわすことば・修飾語)：向後
14	文のしくみ(文の組み立て・ことばの法則と例外)：向後
15	まとめ(音声・ことばの規則性に関する考察)：設楽

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ワークショップ形式の授業の前には、発表できるような形の資料の準備をすること(1時間程度)

【事後学修】授業で使用したパワーポイント・資料は授業用フォルダに保存しておくので各自確認すること。授業内でスマホを使用したパワーポイントの撮影は認めない。(20分程度)

評価方法および評価の基準

・期末課題70%、平常点(課題・授業への参加度・授業内の発表)30%、とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1) 期末試験(35%/70%)、平常点(15%/30%)

到達目標(2) 期末試験(35%/67%)、平常点(215/30%)

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

大津由紀雄・窪蘭晴夫(2008), 『ことばの力を育む』, 慶應義塾大学出版会, 1600円+税.

国際交流基金(2009), 日本語教授法シリーズ第2巻『音声を教える』, ひつじ書房, 1500円.

松香洋子(2008), 『フォニックスってなんですか?』, mpi Inc., 1800円.

ジョリーラーニング社著・山下桂世子訳(2017), 『はじめてのジョリーフォニックス ティーチーズブック』

小学校『国語』, 光村図書出版.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英米文学の流れ		
担当教員名	榊原 理枝子、落合 真裕		
ナンバリング	KBe383		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教職に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修です。「教職に関する科目」の「教科に関する科目」の「英語文学」に当たります。

* 中高英語教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」(前期開講) ・「英米小説と女性」(後期開講) の2科目を両方必ず履修してください。

* 教職課程を履修していなくても受講できます。

科目の概要

英米文学の理解には、英米文学史の理解は必須ですから、この授業では英米文学の流れ、つまり英米文学史の知識を習得してもらいます。

到達目標

- (1) 英米文学史の知識を習得して、それを説明したり、表現したりできる。
- (2) 英米文学への造詣を深め、それを説明したり、表現したりできる。
- (3) 英米の文学作品と取り組み、そして考察し、それを表現できる。

授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、英米文学史や文学作品の知識を問う小テストを受けてもらいながら授業を進めます。【ミニテスト】また、文学作品に対する意見や感想などをレポートとして発表してもらいます。【レポート(表現)】

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

-3学習内容・学習活動の設定

内容

(授業の方針)

- (1) テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2) 定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3) 就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4) 出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。
- (5) テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。(実施後正解を配布するため。) また、課題での代替もありません。欠席しないように注意。(ただし実習などの場合は別。)

(6)授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

(授業の内容)

I:文学は歴史、社会、文化と密接に関わっており、英米文学史を学ぶことによって英米文化圏について知ることができます。狭い意味での文学だけではなく、英米文化全般に関心があれば、教職履修者でなくても学ぶ喜びを感じられると思います。

II:1回目から6回目はアメリカ文学史を、7回目から15回目はイギリス文学史を学びます。

III:授業予定（学生の関心等により、以下の授業予定、扱う作家や作品、順番などを変更することがあります。）（

1回目)ガイダンス:英米文学と英米の歴史、アメリカ文学黎明期(2回目)Franklinなど(3回目)Poe,

Hawthorneなど(4回目)Melville, Twainなど(5回目) Dickinson, Dreis

erなど(6回目)Fitzgerald, Faulkner, Salingerなど。映画『フォレスト・ガンブ』

を見て、アメリカ1950年代以降の歴史やアメリカ的なメンタリティを概観。(7回目)イギリス文学導入、Cha

ucerなど(8回目)Shakespeare(9回目)Milton, Pope, Defoe, Swiftな

ど(10回目)Fielding, Blakeなど(11回目) Wordsworth, Coleridge,

Shelley, Keatsなど(12回目) Austen, Dickens, Thackeray, Bron

t?, Carrollなど(13回目)Hardy, Wilde, Conrad, Shaw, Kipling,

Yeatsなど。また、16世紀から20世紀までのイギリス文学史をヴァージニア・ウルフ『オーランドー』とその映

画化作品に見る。(14回目)Joyce, Woolf, Lawrence, T. S. Eliot, Fors

terなど。+まとめ。(15回目)Maugham, Orwell, Greeneなど。+総復習。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

(事前学習)教科書の指定箇所、プリント等の課題を授業前に勉強。小テスト、発表等の準備。(各授業に対して45分以上)

(事後学習)教科書、プリント等を読んで復習。また、返却された小テストの復習。今後に備える。授業に出てきた英語表現も覚える。(各授業に対して45分以上)

*教科書には文学作品の引用などがありますし、また英文のプリントも配付します。事前・事後学習は英語の勉強と同じと考え、一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。つまり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)(2)について

英米文学史、英米文学に関する授業中の発表。=>10%

小テスト、定期試験で英米文学、英米文学史についての知識を説明、表現する。=>60%

【フィードバック】

*小テストは終了後、正解発表。そして実施の次の授業で返却し、今後の学習に活かしてもらいます。小テストの結果によっては同じ範囲をまたテスト範囲にすることもあります。

*定期試験は最後から2番目の授業で実施。試験終了後、正解発表。そして最終週には答案を返却、解説。

到達目標(3)について

文学作品に取り組み、考察し、レポートにまとめ授業内で発表する。=>30%

【フィードバック】

授業内でコメントを行います。場合によっては再度やってもらうこともあります。

(単位取得について)

*上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

*単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください

。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位は取れません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

(教科書) 福田昇八『イギリス・アメリカ文学史』（南雲堂、本体価格2,600円⇒一生使える良書でこの価格はお得。フジショップで買ってください。万が一品切れの場合はフジショップで注文してください。ISBN4-523-29179-9)

その他、データ配布教材、プリント等。

(推薦書など) 授業で指示。

(その他) 英米文学史の授業なので辞書は毎回必要。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

(重要) 2回目授業から原則毎回小テストを予定。履修を決めたらすぐ教科書を買ってください。万が一教科書が人数分入荷しないなどのことがあれば、小テストは3回目授業以降。その場合はLive Campusで連絡します。

(その他の注意)

(1) 体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。

(2) Live Campusによる授業連絡（授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など）は随時行いますから注意しておいてください。

(3) 詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。

(4) 授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。

科目名	英米小説と女性		
担当教員名	榊原 理枝子、落合 真裕		
ナンバリング	KBe384		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「教職に関する科目」の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修です。「教職に関する科目」の「教科に関する科目」の「英語文学」に当たります。

* 中高英語教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」（前期開講）・「英米小説と女性」（後期開講）の2科目を両方必ず履修してください。

* 教職課程を履修していなくても受講できます。

科目の概要

英米小説、そしてそれを取り巻く歴史や文化などに関する知識を習得してもらいます。ただし、「英米小説」というテーマはあまりに大きいので、この授業では「女性」という観点から英米小説に取り組んでもらいます。

授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、学生に発表などをしてもらったり、レポートなどを発表してもらいながら授業を進めます。【レポート（表現）】

到達目標

- (1) 英米文学における「女性」についての理解を深め、それについての意見を表現できる。
- (2) 文学とジェンダーについての理解を深め、それについての意見を表現できる。
- (3) 英米小説と女性というテーマに向き合い、各自が発見した問題意識に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

-3学習内容・学習活動の設定

内容

(授業の方針)

- (1) テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2) 定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3) 就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4) 出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。
- (5) テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。（実施後正解を配布するため。）また、課題での代替もありません。欠席しないように注意。（ただし実習などの場合は別。）

(6)授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

(授業の内容)

I:英米小説を「女性」という観点から学ぶ際に看過できない問題である社会、家族、恋愛、結婚、相続などを考慮して、主にジェイン・オースティン『高慢と偏見』（『自負と偏見』の訳もある）とシャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』を取り上げます。それぞれの作品の映像化作品も見て、理解を深めてもらいます。英米文学やジェンダー的問題に関心があれば教職履修者でなくても学ぶ喜びを実感できると思います。

II:1回目から8回目までは主に『高慢と偏見』を、9回目から15回目までは主に『ジェイン・エア』を扱います。それぞれの作品は、抜粋をプリントで配布して読みます。

III:授業進行予定（学生の理解度や関心に依じて以下の予定を変更することがあります。）

(1回目)ガイダンス：英米文学と女性について。『高慢と偏見』への導入。(2回目)オースティンについて。相続と女性。ベネット夫妻とベネット5人姉妹。(3回目)恋愛、結婚と女性。長女ジェインの恋。(4回目)相続と結婚。(5回目)当時のイギリス社会における結婚と女性。(6回目)誤解と行き違い。高慢、自負がどう変わるか。(7回目)それぞれの成長。映画化作品『プライドと偏見』(2005)を見て、当時の人々の生活や服装などを映像で見てもらう。(8回目)『高慢と偏見』最終章。登場人物たちのその後。(9回目)『ジェイン・エア』導入。孤児ジェインの不遇な少女時代。(10回目)ジェインと学問。女性の自己実現と当時のイギリス社会。(11回目)ガヴァネス（住み込み家庭教師）について。(12回目)ジェインの恋。BBCドラマJane Eyre(2006)（シラバス上では表示できませんがタイトルのJane Eyreはイタリック）を見て、建物などを映像で見てもらう。(13回目)ヴィクトリアニズムについて。(14回目)ジェインの選択。まとめ。(15回目)『ジェイン・エア』最終場面。女性と英米小説、総復習。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

（事前学習）配付した授業資料などを授業前に勉強。発表等の準備。（各授業に対して45分以上）

（事後学習）配付した授業資料、プリント等を読んで復習。また、授業に出てきた英語表現も覚える。（各授業に対して45分以上）

* 授業資料には英文もありますし、また英文のプリントも配付します。事前・事後学習は英語の勉強と同じと考え、一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。つまり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)(2)について

英米小説における「女性」に関する理解、また文学とジェンダーに関する理解を授業中に発表。=>10%

英米文学における「女性」についての知識、また文学とジェンダーに関する知識を、定期試験で説明、表現する。=>60%

【フィードバック】

定期試験は最後から2番目の授業で実施、最終週には返却、解説。

到達目標(3)について

文学作品に取り組み、考察し、レポートにまとめ授業内で発表する。=>10%

授業期間終了後にこれまでの学習を振り返りつつ、各自が文学作品に向き合い、それをレポートにまとめて提出する。=>20%

【フィードバック】

授業中の発表については授業内でコメント、授業期間終了後のレポート作成に生かしてもらいます。

（単位取得について）

* 上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

* 単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位

は取れません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）Jane Austen, *Pride and Prejudice* / Charlotte Bront

?, *Jane Eyre*の抜粋プリント。（シラバス上で表示ができませんが、タイトルの*Pride and Prejudice*と*Jane Eyre*はイタリック。）その他、データ教材、プリント等を配布。

（推薦図書）授業内で適宜紹介

（その他）英文を読むので辞書は毎回必要。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- (1)体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。
- (2)Live Campusによる授業連絡（授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など）は随時行いますから注意しておいてください。
- (3)詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。
- (4)授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KBe385		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「異文化理解に関する科目」の選択科目です。教職課程を履修する学生においては必修です。

多文化共生、異文化間コミュニケーションに関する基礎的な内容を学びます。

異なる文化的背景を持つ人々とお互いに認め合いながら理解し合う方法について考えることを通じて、自己・自文化を見つめ直し、他者・他文化を深く理解する視点を身に付けます。

科目の概要

近年、日本に住む外国人の数は増加し、コンビニや飲食店の店員として、学校のクラスメイトとして、地域の隣人として、文化的背景が異なる人とともに暮らしていくことが日常になりました。異なる文化的背景を持つ人々がお互いを理解し、尊重しあいながらともによりよい社会を作り上げていくにはどうすればいいのでしょうか。

本科目では、日本における多文化共生の現状と、取り組みを紹介し、それを踏まえて自分の考えをまとめたり、グループで課題への解決法をディスカッションしたりします。また、異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションについて、事例を挙げながら、どのようにすれば互いに理解し合い、伝え合うことができるのかをグループで考えます。

授業の方法 (ALを含む)

講義による事例紹介をもとに、グループでのディスカッションなどを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【レポート (表現)】

到達目標

1. 多文化共生についての知識を深め、日本社会の現状と課題を理解し、解決策について自分の考えを持つ。
2. 自分と異なる文化的背景を持つ人とお互いに理解しあい、意思疎通するための方法についての知識を深め、身近なところから実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3学習内容・学習活動の設定

内容

1	オリエンテーション
2	多文化共生社会とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	多文化共生社会への取り組み【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
4	異なりを考える1 「人」ってだれのこと？【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	異なりを考える1 郷に入っては郷に従え？ 【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	異文化摩擦が起きるとき【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	異文化理解とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	コミュニケーションスタイルを決めるもの【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
9	言語コミュニケーション1 褒める・謝る【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	言語コミュニケーション2 断る・自己紹介【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	非言語コミュニケーション1 表情・アイコンタクト【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	非言語コミュニケーション2 ジェスチャー・しぐさ【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	異文化コミュニケーションスキル【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	言語の平等性【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書や授業使用パワーポイントデータ、配布した資料に目を通し、そこで出たキーワードについて調べ、A4 1枚以内にまとめる。（各授業に対して45分程度）

【事後学修】授業内容について振り返り、気づいたことや疑問に思ったことをまとめる。授業に関連する事柄を新聞や参考図書などで調べ、まとめる。あわせてA4 1枚程度。（各授業に対して45分程度）

評価方法および評価の基準

到達目標1：

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：15/30%、適宜課す課題：30/60%

到達目標2：

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：15/30%、適宜課す課題：30/60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】八代京子・世良時子「日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル」（三修社）2,200円＋税
 その他、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするか、ノートパソコンやタブレットを持参すること。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	比較文化論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KBe386		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「異文化理解に関する科目」の選択科目である。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。また、本科目は中学校、高等学校教諭一種免許状（英語）の「教科に関する科目」の「異文化理解」の区分に属する科目でもある。

科目の概要

グローバル社会においては異なる文化をもつ人々への理解と尊重が必要となってきた。英語圏の文化の思考や様式に関する知識を身につけるとともに、英語による表現力への理解を深めていく。また、多文化社会の現状と課題にも触れながら自文化の持つ非常識・常識の概念を見つめなおし多様な文化を複眼的にとらえる力も養う。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループによる調査やディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

- (1) 多文化社会における異文化コミュニケーションの現状、課題、問題点について理解し説明する
- (2) 文化の多様性、異文化交流の意義について理解し述べる
- (3) 英語圏の歴史、文化、社会についての理解を深め表現する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 学習内容・学習活動の設定

内容

1	ガイダンス（授業の進め方、自己紹介など）
2	文化とは何か、比較文化とは何か【リアクションペーパー】
3	英語圏文化の特色【リアクションペーパー】
4	日本文化の特色【リアクションペーパー】
5	言語に表れる文化の差異（英語圏）【リアクションペーパー】
6	言語に表れる文化の差異（日本語）【リアクションペーパー】
7	異文化コミュニケーションにおける問題と課題【リアクションペーパー】

8	教育システムの比較【リアクションペーパー】
9	社会生活とマナーについての比較【リアクションペーパー】
10	宗教と年中行事【リアクションペーパー】
11	娯楽の比較（演劇、映画、伝統芸能）【リアクションペーパー】
12	芸術文化（日本ブーム、日本で人気の英文学作品）【リアクションペーパー】
13	世界から見た日本【リアクションペーパー】【討議・討論】
14	まとめ【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
15	発表【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～13回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

14回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

15回

【事前学修】発表の準備。 [90分]

【事後学修】発表のふりかえりと今後の課題についてまとめる。 [90分]

評価方法および評価の基準

レポート課題40%、毎回のコメント20%、発表内容40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. レポート課題（20% / 40%）、毎回のコメント（10% / 20%）

到達目標2. レポート課題（20% / 40%）、毎回のコメント（10% / 20%）

到達目標3. 発表（40% / 40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の3分の2以上の出席が必要となります。授業資料は各授業が終了した後で、授業の共有ファイルに格納しますので、欠席した場合は自分でプリントアウトして活用してください。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員及び指導主事、教科調査官（文部科学省）の経験をもつ教員が担当し、教育現場での実践等を踏まえ、国語科教育学を中心とする内容について、課題の設定、情報の収集、分析・検証、結論の提示に至る研究の進め方を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」の必修科目である。児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身に付けることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

授業の方法（ALを含む）

個々が研究を進める演習を中心とし、定期的に研究の進捗状況の交流とディスカッションを行う。

【ディスカッション】【プレゼンテーション】【PBL】【論文】

到達目標

1. 研究の進め方、論文の書き方について理解して自身の論文に応用することができる。（提出物30%、研究に取り組む姿勢15%）
2. 自らが興味・関心をもったテーマについて、調査・研究を計画的に進めることができる。（提出物30%、研究に取り組む姿勢15%）
3. 研究を進める過程で、他者のコミュニケーションし、他者の研究に寄与することができる。（研究に取り組む姿勢10%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生

が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

【PBL】【論文】

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。 【ディスカッション】【プレゼンテーション】

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等[各授業に対して60分程度]。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備等を行う[各授業に対して60分程度]。

【事後学修】質疑応答の内容、教員や同じゼミの学生からの指摘をふまえ、各自の研究を進展させる[授業に対して60分程度]。

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	岡本 明博		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床発達心理士や児童指導員として、児童発達支援センターで障害のある児童の指導に携わった経験を持つ教員が担当し、特別支援教育の視点を交えながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究の準備段階として自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。

科目の概要

各自の興味関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報收拾と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は演習による内容を中心として、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れた授業を行う【討議・討論】【プレゼンテーション】。

到達目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3主体的・継続的な学習

内容

本授業では自らの学びをプレゼンテーションし、聴衆とディスカッションしながら学びを深めていく。

前期

- 1)各自、興味があるテーマについて文献を調べ、検索したものを抄読し、研究の進め方の基礎を学ぶ。
- 2)研究計画の立て方の基本を学び、研究テーマに応じた研究計画書を作成する。
- 3)業研究の内容を絞り込むために研究計画の発表、質疑応答、討論を行ない、研究テーマを明確化させる。【討議・討論】【プレゼンテーション】

後期

- 1)調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法を共有する
- 2)研究を進める上で、倫理的な配慮について学ぶために倫理審査に必要な書類を作成する。
- 3)学外で授業の機会も設けることがある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前準備：文献検索、学外での情報収集、方法の検討、統計分の復習、レポートやプレゼンテーションの準備などを行う（60分）。

事後学習：自らの研究計画に従い、研究を進展させる（60分）。

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーション等を評価の対象とする。レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、文献検索や情報収集など研究に取り組み方(40%)で評価し、総合評価60点以上とする。

到達目標 レポート（30%/30%）プレゼンテーション(30%/30%) 文献検索や情報収集など研究の取り組み方(40%/40%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】研究計画書の考え方 妹尾堅一郎 ダイヤモンド社
理科系の作文技術 木下是雄 中公新書

【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者がその経験を活かし、算数科教育学を中心とする内容について、課題の設定、情報の収集・分析・検証・結論の提示に至る研究の進め方を指導・支援する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の専門科目「演習」の必修科目である。児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説に加えて、受講生の個別発表やディスカッションを取り入れた授業を行う。【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート(表現)】【PBL】

到達目標

1. 卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解することができる。
2. ディスカッションのなかで自分の考えを明確にすることができる。
3. 4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的・継続的学修

内容

演習(ゼミ)では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

卒業研究のテーマと内容について、個別に指導する時間を設けて、内容を深める。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容の修正を重ねていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。(毎週1時間程度)

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 研究に取り組む姿勢(15%/40%) (提出物 30%/60%)

到達目標2 研究に取り組む姿勢(15%/40%)

到達目標3 研究に取り組む姿勢(10%/40%) (提出物 30%/60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」の必修科目である。大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

授業の方法 (ALを含む)

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。
担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の専門科目「演習」の必修科目である。本科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動する。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

授業の方法

本科目は、教育について特に関心をもつ事象について、自ら問いを立て、その問いについて各自、文献等を調査し、レジュメ、レポートを作成する。それらをもとにプレゼンテーションを行い、参加者全員によるディスカッションを交えて進める。

【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート】【PBL】

学修目標（＝到達目標）

1. 卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解する。
2. ディスカッションのなかで自身の考えを明確にすることができる。
3. 4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することができる。

- 3 主体的・継続的学修

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は、ディスカッションやプレゼンテーションを中心に進める。担当教員の専門分野をもとにしつつ、学生が自らテーマを設定する。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。共通するテーマについては、共通の文献・資料を紹介するので、それらを読み、議論を行う。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期は、前期で学んだことを活かして文章化し、論文作成につなげる。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献（先行研究）の収集を行う。

自分の問いを明確化し、研究を進める準備に取りかかる。自分の問いを文章化し、問いについて明らかにする過程をゼミの中で発表する。研究・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる(文章化する)。

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物(60点)、ゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢・進捗状況を定期的に報告する(40点)、とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】課題への取り組み(文章化)については、コメントを記載し、次回以降の授業にて返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度、提示する。

【参考図書】教育思想史学会編『教育思想事典(増補改訂版)』勁草書房、2017年。日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂、2012年。ポーラ・S・ファス編『世界子ども学大事典』原書房、2016年。ほか、授業時に提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として、各教科の指導経験に深く携わった教員が担当し、指導現場の実態を踏まえた情報を紹介しながら指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「演習」として位置づけ、学科の学びの総まとめとして設定される「卒業研究(4年次)」の準備段階として、受講生自らが興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につける必修科目である。各指導教員の研究分野を十分に理解しておく必要がある。

科目の概要

受講生自身の興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など、卒業研究を進める具体的なノウハウを理解するとともに、自己の課題やテーマを設定する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説に加えて、受講生の個別発表やディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

卒業研究の進め方やテーマを明確にする方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3主体的継続的学修

内容

卒業研究ゼミナールでは、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。「討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容を深める。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会を設ける予定である。また、卒業研究のテーマの絞り込みと内容の決定に向けて次のような活動を展開し、卒業研究の骨子を確立していく。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備を進める。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。【グループワーク】【「討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容の修正を重ねていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前期には、文献検索と研究手法を検討し、個別発表の準備等を行う(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた卒業研究の立案と計画づくりを進め、個別発表等の準備を行う(毎週、1時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる(毎週、1時間程度)。

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

義務教育学校等における教職経験を有する教員が、研究テーマについて具体的な指導・助言を行います。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「演習」で必修科目です。

大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしています。3年次の卒業研究ゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解して取り組む必要があります。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解します。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、各自の研究テーマについて発表したり、協議したりします。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- ・卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。
- ・基礎研究において、自身の研究テーマ設定に関わる文献や資料を探し、論文に生かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。。

-3 主体的・継続的学修

内容

ゼミナールにおいては、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開します。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とします。英語教育、コミュニケーション等の分野を中心に、各自のテーマにそった研究を推進し、卒業論文へつなげていきます。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、資料収取や論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業をすすめていきます。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、グループディスカッション等を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

9月上旬（後期開始前）に合宿を実施し、各自、中間発表を行います。

後期には、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開します。
加えて、卒業論文作成のための基礎的技能であるタッチタイピングをマスターします。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、60分程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、120分程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】白井利明・高橋一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

理論にとどまらず、実践的な内容(87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師)を紹介します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。卒業に必要なであると同時に、教育職員免許状一種を取得するためには必要となる科目である。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

授業の方法 (ALを含む)

ゼミナール(セミナー)形式です。

到達目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-3「主体的・継続的学修」と深く関わる科目です。

内容

アクティブラーニングとして、討論、発表、省察、実地調査などを実施します。

演習(ゼミ)では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関

する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(各授業に対して60分)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業において作成した省察内容を、次回紹介しながら、内容を確認し、定着を図る。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、学校教育に関する研究について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」の必修科目です。この科目のねらいは、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることです。3年次のゼミナールは4年次の卒業研究に連動します。研究分野に関する情報を収集し、研究のテーマや内容を検討しておく必要があります。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解します。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は個人研究を基本としますが、グループワークなどの協議なども取り入れながら授業を行います。

到達目標

1. 卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法を理解することができる。(提出物30/60%) (研究に取り組む姿勢20/40%)
2. 4年次の卒業研究を迅速・適確に展開できるよう、研究仮説の設定や計画の立案、テーマの仮設定などを行うことができる。(提出物30/60%) (研究に取り組む姿勢20/40%)

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的・継続的学修

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開します。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とします。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしています。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施します。【PBL【論文】

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。
担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがあります。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開します。【グループワーク】【プレゼンテーション】

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等（毎週、1時間程度）。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させ、加除・訂正したものを提出する。（毎週、1時間程度）

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

計画的に行うことが大切です。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

特別支援学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に特別支援学校の指導を行ってきた経験を活かして、障害のある子どもの指導方法や教育課程の在り方等について演習を中心に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自己の興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身に付けるとともに、特別支援学校等の教育現場において自己の課題解決に向けて学び続けようとする姿勢を身に付けることをねらいとして学修する。

科目の概要

特別支援学校教育に関する内容から各自の興味・関心のある内容について現状を把握する方法、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方、調査方法などを学修する。

授業の方法 (ALを含む)

この授業は、学生の自主的な活動による演習を基本に、フィールドワーク、プレゼン等を取り入れながら学びを深めていく。演習では、特別支援学校教育に係る内容から各自の興味・関心に応じた卒業研究の内容や進め方を模索するプロセスを学んでいく。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。

到達目標

1. 卒業研究の進め方や研究テーマの設定等に関する方法論を理解し、研究テーマを決定できる。
2. 卒業研究のテーマを具現化し、文献の収集、調査内容・方法等を検討できる。
3. 研究目的や方法について方向性を持ち、調査等を実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

前期には、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する。

後期には、特別支援学校の授業参観など学外授業の機会も設ける。また、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を実施する。

自己の興味・関心のある研究内容に関する資料・文献を収集する。

調査項目の作成、調査等を実施し、4年次の卒業研究の基礎研究を実施する。

その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、研究手法の検討、報告の準備等を行い(毎週、2時間程度)、後期には、各自のテーマに応じた研究、調査を進め、まとめる。(毎週、2時間程度)

【事後学修】演習での質疑応答、担当教員からの指導等を踏まえ、各自の研究を発展させる。(毎週、2時間程度)

評価方法および評価の基準

研究テーマに係る発表内容及び課題の評価(100%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出(40%/100%)

到達目標2 課題提出(30%/100%)

到達目標3 課題提出(30%/100%)

【フィードバック】毎回の授業で研究テーマに係る課題を提示し、次回の授業で課題についてディスカッションを行い、学修理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

使用しない。

【推薦書】

「特別支援教育の基礎」中西 郁 他 著 大学図書出版

【参考図書】

授業内で必要な書籍、論文等を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	細谷 忠司		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元特別支援学校教員が実務経験を基に研究のアドバイスをする。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」の必修科目である。本科目は、児童教育学科の大学おける学びの総まとめである卒業研究の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身に着けるとともに、特別支援教育の分野について教育現場においても自己の課題解決に向けて学び続けようとする姿勢を身に着けることをねらいとしている。

科目の概要

各自の興味関心のある研究分野から、問題や課題を見つけ出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文読み方や書き方などを学び理解し、4年に向けての自己の学修課題やテーマを設定する。

授業の方法

学生の自主的な活動を前提に、各自の興味関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索する学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。

【グループワーク】 【実技】 【ディスカッション】

到達目標

1. 卒業研究の進め方や研究テーマの設定等に関する方法論を理解し、研究テーマを決定できる。
2. 卒業研究のテーマを具現化し、文献の収集、調査内容・方法等を検討できる。
3. 研究目的や方法について方向性を持ち、調査等を実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することとする。

- 3 主体的・継続的学修

内容

この授業は、学生の自主的な活動による演習を基本に、病弱教育の慢性疾患や精神疾患の幼児児童生徒の多様な学びを支える支援に関する内容や関係機関との連携などについて研究を深める。 授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。

前期には、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する。

後期には、特別支援学校の授業参観など学外授業の機会も設ける。また、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を実施する。

自己の興味・関心のある研究内容に関する資料・文献を収集する。

調査項目の作成、調査等を実施し、4年次の卒業研究の基礎研究を実施する。

その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、研究手法の検討、報告の準備等を行い(毎週、2時間程度)、後期には、各自のテーマに応じた研究、調査を進め、まとめる。(毎週、2時間程度)

【事後学修】演習での質疑応答、担当教員からの指導等を踏まえ、各自の研究を発展させる。(毎週、2時間程度)

評価方法および評価の基準

研究テーマに係る発表内容及び課題の評価(100%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出(40%/100%)

到達目標2 課題提出(30%/100%)

到達目標3 課題提出(30%/100%)

【フィードバック】毎回の授業で研究テーマに係る課題を提示し、次回の授業で課題についてディスカッションを行い、学修理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校教員としての授業実践の経験を有し、教育委員会事務局指導主事として多くの教員の授業研究を支援したため、それらの経験を生かして学生の研究活動の支援を円滑に行うことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の専門科目演習の必修科目である。

大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることである。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

授業の方法（ALを含む）

自身の興味、関心のあることから課題を見出し、調査して理解したことを仲間と検討することでより深く追究する力を育てる。

到達目標

1 論文の書き方やテーマのもち方に関する方法を理解してレポート等で表現できる。 2 追究した課題を見出し、調査方法等に見通しをもって取り組み、レポート等にまとめることができる。 3 4年次の卒業研究に見通しをもって、仲間とも協力して意欲的に研究計画の立案、テーマの仮設定ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的・継続的学修

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学

生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期 卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期 卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて次のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集、フィールドワークを行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる(毎週、2時間程度)。

評価方法および評価の基準

1 レポート 30% 2 レポート30% 3 研究に関する発表、他の仲間との協力、貢献 40%

1～3を総合的に評価して60%を満たして合格とする。

【フィードバック】毎回最後の振り返りレポートに記された疑問点、不明点の補足説明をして研究が深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自分が興味、関心のあることを深く考える大切な機会です。自身の課題意識を明確にして臨んでください。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「無」

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目のねらいは、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることである。3年次のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するのである。既に参考として提示した研究分野に関する情報を収集し、研究のテーマや内容を検討しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

授業の方法（ALを含む）

学生が関心を持つテーマに即した課題解決型学習を行い、プレゼンテーション力を高め、企画制作の方法を学ぶ。個々の関心に応じた研究課題について、資料や文献から得た知識を整理し、研究仮説の設定や研究方法を選択してクラス内で発表する。

【PBL】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（知識）】

到達目標

1. 卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法を比較検討する。
2. 4年次の卒業研究を迅速・適確に展開できるよう、研究仮説の設定や計画の立案、テーマの仮設定などを行う。
3. ゼミの仲間と協働プログラムの企画立案を行い、自分の意見を述べるができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3主体的・継続的学修

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、地域と連携した企画の実施や、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

評価方法および評価の基準

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に合わせて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は必要としない。

【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教員及び指導主事、教科調査官（文部科学省）の経験をもつ教員が担当し、教育現場での実践等を踏まえ、国語科教育学を中心とする内容について、課題の設定、情報の収集、分析・検証、結論の提示に至る研究の進め方を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の「演習」の必修科目である。児童教育学科の大学における学びの総まとめとして、3年でのゼミナールに引き続き、自らの興味・関心をもつ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめる。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。7月に途中経過報告。10月に第一次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

授業の方法（ALを含む）

個々が研究を進める演習を中心とし、定期的に研究の進捗状況の交流とディスカッションを行う。

【ディスカッション】【プレゼンテーション】【PBL】【論文】

到達目標

1. 研究の進め方、論文の書き方について理解して自身の論文に応用することができる。（提出物35%、研究に取り組む姿勢10%）
2. 自らが興味・関心をもったテーマを考究した過程について、一定枚数の研究論文にまとめることができる。（提出物35%、研究に取り組む姿勢10%）
3. 研究を進める過程で、他者とコミュニケーションし、他者の研究に寄与することができる。（研究に取り組む姿勢10%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次のゼミナールでテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味・関心をもった分野の項目を

基に、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進捗の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しをもつことを目指す。発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定 【PBL】
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品などの設計、制作 【実技】
- ・教育実践への活用の考察 【ディスカッション】
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定 【プレゼンテーション】
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆 【論文】
- ・卒業論文の全体的形式を整える。 【論文】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献等にあたり、研究を深める[各授業に対して60分]。

【事後学修】教員や同じゼミの学生からの助言を基に研究を進める[各授業に対して60分]。

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取組や自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡本 明博		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床発達心理士や児童指導員として、児童発達支援センターで障害のある児童の指導に携わった経験を持つ教員が担当し、特別支援教育の視点を交えながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめとして、3年次からの演習の引き続き自らが興味、関心をもつ分野に関してテーマを絞り、研究論文としてまとめることを目標とする。

科目の概要

各自の興味関心のある研究分野から、資料や文献などの情報収集と整理を行い、卒業論文としてまとめていく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、演習による内容を中心としてディスカッション、プレゼンテーションを取り入れた授業を行う【討議・討論】【プレゼンテーション】。

到達目標

自らが興味関心をもって決めた研究テーマについて研究論文としてまとめ上げる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3主体的・継続的学修

内容

卒業研究では3年次の演習で自らの興味関心をもった分野についてプレゼンテーションし、聴衆とディスカッションしながら学びを深めていく。【討議・討論】【プレゼンテーション】

前期は進度の確認や研究内容の精査を行い、調査、実験を実施する。

後期はこれまでの学びを基に、必要な文献収集を行い、調査、実験の結果をまとめ、考察を行い、全体をまとめていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前準備：文献検索、学外での情報収集、方法の検討、統計分の復習、レポートやプレゼンテーションをまとめ、研究を深めていく（60分）。

事後学習：自らの研究計画に従い、研究を発展させる（60分）。

評価方法および評価の基準

提出された卒業論文(70%)、途中経過の報告書(10%)、プレゼンテーション(10%)、文献検索や情報収集など研究の取り組み方(10%)で評価し、総合評価60点以上とする。

到達目標 卒業論文（70%/70%）途中経過の報告書（10%/10%）プレゼンテーション(10%/10%) 研究の取り組み方(10%/10%)

【フィードバック】提出された卒業論文にコメントをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

研究計画書の考え方 妹尾賢一郎 ダイアモンド社

理科系の作文技術 木下是雄 中高新書

【参考図書】その都度推薦し、提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者がその経験を活かし、算数科教育学を中心とする内容について、課題の設定、情報の収集・分析・検証・結論の提示に至る研究の進め方を指導・支援する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」に位置づけ、必修科目である。児童教育学科の大学における学びの総まとめとして3年生からの卒業研究ゼミナールに引き続き、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめる。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。7月に途中経過報告、10月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説の他、受講生の個別発表やディスカッション、個別論文の作成指導を段階的に取り入れながら進めていく。

【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート(表現)】【論文】

到達目標

1. 自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめることができる。
2. ディスカッションに進んで参加し、各課題に対して自分の考えを持つことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有

を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめ、完成させる。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整えまとめる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。（各授業に対して60分）

【事後学修】教員や同じゼミの学生からの助言や意見を基に、研究を進める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

卒業研究（提出された卒業論文）（70点）を評価対象の中心とし、論文のなかに学生自身の取組や自己の考えが表現されていることを重視する。担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（30点）などを含め、総合的に判断し、60点以上を合格とする。

到達目標1 提出物（含：卒業論文）（70% / 100%）

到達目標2 研究に取り組む姿勢（30% / 100%）

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の専門科目「演習」に関する必修科目である。本科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生と、研究について批評や意見を交わし、担当教員からの指導を受け、研究を進めていく。9月に中間抄録を報告し提出する。12月に最終提出をするまで、各自、進捗状況を報告しながら進めるものとする。

授業の方法

本科目は、教育について特に関心をもつ事象について、自ら問いを立て、その問いについて各自、文献等の調査を進め、研究論文を仕上げる。定期的に、各自、プレゼンテーションを行い、参加者全員によるディスカッションを交えて進める。【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート】【PBL】

学修目標 (= 到達目標)

1. 自らが興味・関心をもったテーマについて具体的に口頭で述べたり、文章で説明することができる。
2. 上記テーマについて、各自、卒業研究につながる問いをたて、問いを明らかにするべく先行研究を調べるなど、必要な文献、資料を読み進めることができる。
3. 上記テーマについて、各自、一定枚数の研究論文にまとめることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することをねらいとする。 - 3 主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容、研究手法の理解共有を図り、進めるなど、プレゼンテーションやディスカッションを中心とする。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら

研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（文献調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各自、研究テーマを深めるために文献を熟読し、卒業論文の作成を進める。特に、発表担当の場合は、発表用レジュメを作成し、準備を行う。さらなる文献収集を行う。（あわせて120分）

【事後学修】演習でのディスカッションとそこでの指摘をもとに、各自、文章および内容等を再考し、卒業論文のために、さらなる文章化を進める。（あわせて120分）

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文)（70点）を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究進捗状況を定期的に発表、報告するなど、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出するレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008年。その他、その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として、各教科の指導経験に深く携わった教員が担当し、指導現場の実態を踏まえた情報を紹介しながら指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「演習」に位置づけ、学びの総まとめとして設定される必修科目である。3年次からの「卒業研究ゼミナール」に引き続き、自らの興味・関心を持つ研究分野に関してテーマを焦点化して一つの研究論文にまとめるものである。

科目の概要

受講生自らが興味・関心を持ったテーマに関して、先行する資料や文献の収集整理、アンケート調査や実験等を実施し、自分の考えを加えて研究論文に仕上げる。他の受講生からの批評や意見を参考にしたり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月中旬に途中経過報告。11月には第一次原稿提出、そして12月中旬に最終提出と段階的に進捗の目安を持って進める。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説、受講生の個別発表やディスカッション、個別の論文作成指導を段階的に取り入れながら授業を行う。【「討議・討論」】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【論文】

到達目標

受講生が興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3主体的継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の卒業研究ゼミナールで研究の方向付けをした内容や自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを定めて積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることが目的となる。研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進捗の確認、研究内容と研究手法の理解共有を図りながら進めていく。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、アンケートやインタビュー調査等を実施して研究内容を文章にまとめて完成させる。。【グループワーク】【「討議・討論」】【プレゼンテーション】

【レポート(表現)】【論文】

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整えまとめる

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献研究を進めて研究を深め、プレゼン用の資料をまとめる。発表に際し60分。

【事後学修】授業のまとめを行い、卒業研究の進度に応じて振り返りと整理を行う。各授業に対し60分。

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文)（70点）を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

義務教育学校等における教職経験を有する教員が、研究テーマについて具体的な指導・助言を行います。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、児童教育学科の「演習」で必修科目です。

大学における学修の集大成として 3年次の卒業研究ゼミナールに引き続き、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめます。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめます。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導・助言を受けたりしながら研究を進めていきます。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていきます。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、各自の研究テーマについて発表したり、協議したりします。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- ・自らが興味・関心をもったテーマについて研究を進めることができる。
- ・研究の成果を一定枚数の研究論文にまとめることができる。
- ・論文にまとめた研究成果を効果的に発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。。

- 1 教育活動の組み立て
- 1 他者との協働、役割・職務遂行
- 3 主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにあります。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図りながら進めます。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指します。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめていきます。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査結果の収集（文部科学省調査等）
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。（各授業に対して120分）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文)（70点）を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】白井利明・高橋一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

理論的な追究にとどまらず、実践的な研究についても、紹介します。実務経験（87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師）を踏まえて、指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

児童教育学科ディプロマポリシー 1～4に対応する授業です。

科目の性格

児童教育学科専門科目であり、4年次通年の必修科目である。教育職員免許状取得のためには、学士の学位取得が必須であるから卒業必修であるとともに、教育職員免許状一種を取得するためには、必須である（二種の場合は、選択である）。大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール（セミナー）です。

到達目標

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-3「主体的・継続的学修」に深く関わる科目です。

内容

アクティブラーニングとして、討論、発表、実地調査、レポートの作成と交流を行ないます。

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献を読解し、教育に関する課題を析出し、予想や仮説を立て、ゼミに臨む。当番制でレジュメを切る（各授業に対して60分）。

【事後学修】ゼミを踏まえ、あらためて教育に関する課題をふかめる（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文)（70点）、研究テーマに取り組む姿勢（30点）、併せて60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付し、理解度の向上をはかる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、学校教育に関する研究について指導します。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」の必修科目です。児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、一つの研究論文にしてまとめるものです。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめます。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていきます。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとします。

授業の方法（ALを含む）

本科目は個人研究を基本としますが、グループワークなどの協議なども取り入れながら授業を行います。

到達目標

1.自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにあります。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進めます。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめます。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定【PBL】
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品や模型などの設計、制作【実技】
- ・教育実践への活用の考察【グループワーク】
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定【グループワーク】【プレゼンテーション】
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆【論文】
- ・卒業論文の全体的形式を整える。【論文】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献にあたり、研究を深め、進捗状況をまとめ、報告する。（毎週、2時間程度）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行い、進捗状況をまとめ、提出する。（毎週、2時間程度）

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文)（70点）を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

計画的に進めていくことが大切です。

科目名	卒業研究		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

特別支援学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に特別支援教育の指導を行ってきた経験を活かして、障害のある子どもの指導方法や教育課程の在り方等について演習を中心に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、大学における学びの総まとめとして、3年次からの演習に引き続き特別支援学校教育に関する自己の興味・関心のある内容について研究論文にまとめることを目的として学修する。

科目の概要

特別支援学校教育に関する内容から自らの興味・関心のある内容について3年次の卒業研究ゼミナールで設定したテーマに基づき、先行研究の収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。研究に当たっては、他の受講生からの批評や意見等を参考にするとともに、担当教員からの指導を受けながら研究を深めていく。

授業の方法 (ALを含む)

本授業は、学生の自主的な活動による演習を基本に、フィールドワーク、プレゼン、ディスカッション等を取り入れながら学びを深めていく。演習では、3年次の卒業研究ゼミナールで設定した研究テーマをもとに、積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

到達目標

1. 卒業研究のテーマの設定方法や研究方法論を理解し、自己の研究内容・方法を説明できる。
2. 調査等を実施し、調査結果の分析・考察を行い、一定枚数の内容のある研究論文を作成することができる。
3. 自己の研究論文で得られた知見を活用し、障害のある児童の関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

前期は、テーマに基づく調査等を実施するとともに、発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になる手だてを検討する。

後期は、教育実習やこれまで大学での学びを活かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。9月に途中経過報告、11月に第一次原稿提出、12月に最終原稿提出と段階的に論文作成を進めていく。

主な取組内容

研究方法の確立

先行研究の収集

各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）

教育実践への活用の考察

研究全体の考察し、論文構成の検討

研究論文中の図表の作成

論文の執筆、抄録の作成

研究発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。（毎週2時間程度）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。（毎週2時間程度）

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文) (100%) を評価対象とし、60点以上を合格とする。

到達目標1 論文提出 (40%/100%)

到達目標2 論文提出 (30%/100%)

到達目標3 論文提出 (30%/100%)

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポート等にコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない

【推薦書】

その都度、必要に応じて紹介する。

【参考図書】

その都度、必要に応じて紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元特別支援学校教員が実務経験を基に研究のアドバイスをする。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」の必修科目である。本科目は、児童教育学科教育課程編成方針の演習に位置つき、大学における学びの総まとめとして 3年生からの卒業研究ゼミナールに引き続き、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

特別支援学校教育に関する内容から自らの興味・関心のある内容について3年次の卒業研究ゼミナールで設定したテーマに基づき、先行研究の収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。研究に当たっては、他の受講生からの批評や意見等を参考にするとともに、担当教員からの指導を受けながら研究を深めていく。

授業の方法

学生の自主的な活動を前提に、各自の協組関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索する学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。

【グループワーク】 【実技】 【ディスカッション】

学修目標（＝到達目標）

1. 卒業研究のテーマの設定方法や研究方法論を理解する。
2. 先行研究の収集・分析等を行う。
3. 調査等を実施し、調査結果の分析・考察を行い、一定枚数の内容のある研究論文にまとめる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することとする。

-1 教育活動の組み立て、 -1 他者との協働、役割・職務遂行、 -3 主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取組内容

- 研究方法の確立
- 先行研究の収集
- 各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- 教育実践への活用の考察
- 研究全体の考察し、論文構成の検討
- 研究論文中の図表の作成
- 論文の執筆、抄録の作成
- 研究発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献にあたり研究を深める他、3年次より計画・実施してきた調査・研究・療育等の結果を整理分析し考察を深める。（毎日2時間程度、計画的に執筆を進めること。）

【事後学修】執筆箇所についての授業時間中における指導を受けて、必要に応じて加筆修正を行う。（各授業1～2時間）

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文) (100%) を評価対象とし、60点以上を合格とする。

到達目標1 論文提出 (40%/100%)

到達目標2 論文提出 (30%/100%)

到達目標3 論文提出 (30%/100%)

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポート等にコメントを付す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「演習」の必修科目である。大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしぼり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに

、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進捗の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各自の研究対象に関する文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学校教員として授業研究の経験があり、教育委員会事務局指導主事として多くの教員の授業研究を支援したため、学生の研究活動の支援を円滑に行うことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は児童教育学科の専門科目演習の必修科目である。大学における学びの総まとめとして自らの興味・関心のある課題について深く追究し、論文としてまとめる。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料・文献の収集整理を行うとともに、3年次より計画・実施してきた調査・研究・療育等の結果をまとめ、自分の考えを加えて考察し、研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

授業の方法 (ALを含む)

自身の課題追究、論文作成を中心としてそのための情報交換を授業内で行う。

到達目標

1 自ら事象について課題を見出すことができる。 2 見出した課題について深く追究することができる。 3 追究した内容を一定枚数の研究論文にまとめることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は3年次に確定したテーマをもとに、調査・研究を継続して進める。途中経過の発表や質疑応答を通して、より精度

の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまでの大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査、療育等）
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献にあたり、研究を深める（毎回1時間程度）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う（2時間程度）

評価方法および評価の基準

1 小論文 30% 2 小論文 40% 3 取組への姿勢、態度 30% 到達目標1～3を総合的に60%以上満たしたら合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出するレポートにコメントをして、考えを深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自身の大学での学びの集大成となるように準備をしっかりとって内容を充実させていきましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

「無」

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

授業の方法（ALを含む）

自ら設定した課題について先行研究の分析を行い、選択した研究方法により考察を深め、クラス内で発表する。【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3主体的・継続的学修

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまでの大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。（毎日1時間程度）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

評価方法および評価の基準

卒業研究(提出された卒業論文)（70点）を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など